

普國水法ト我河川法

工學士 笹川 恭三郎

水ハ飲料用、農業用、運輸用及工業用トシテ吾々生活ノ必需品デアル 近時水力電氣事業ノ發達ト水道ノ普及トハ益々水ノ需要ヲ大規模ニ増大セシメタ 殊ニ我國ノ農業ハ水ヲ要スルコト極メテ多キニ拘ラズ地勢ノ關係上兎角水ノ不足ヲ生ゼシメ易イ 從ツテ我國ニ於テハ水ニ關スル法律問題ガ諸外國ニ於ケルト異ツタ意義ニ於テ更ニ一層重要ナノデアアル

然ルニ之ヲ我國法ニ見ルニ從來水ニ關スル一般法トシテハ民法中ニ二三箇條ノ規定アル外僅ニ河川法アルノミデア
 ル 而カモ其ノ河川法タルヤ唯內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川(河川法第一條)及府縣知事ニ於テ河川法ヲ準用スヘキモノト認定シタル河川(同第五條)ニ適用アルニ止マリ其ノ他ノ一般流水ニ關シテハ特別ノ規定無ク地方警察令ニ依リテ定メラル、モノ、外ハ一ニ慣習ニ委ネラレ水ニ關スル法律關係ハ寔ニ曖昧ヲ極メテ
 キル 故ヲ以テ成ルベク速ニ完全ナル水法典ヲ制定シテ水ニ就テノ法律關係ヲ明確ナラシメネバナラヌト云フコト
 ハ學者連ノ夙ニ主張シタ所デ內務省河川課モ亦時世ニ鑑ミ近ク最モ完全ナル水法典ヲ編纂セント方ニ準備中ナノデア
 アル

此ノ一編ハ其ノ露拂ヲナスモノデアツテ近世各國水法ノ模範タル普國水法ヲ紹介シ之ト我が河川法ヲ比較研究シ以テ新ニ編纂セラレントスル我水法ガ如何ナル主義ヲ取ルベキカラ暗示セントスルモノデアアル 曾テ河川法ノ補充法規

トシテ水利法案ガ起草セラレタノデアアルガ時機未ダ熟セス其ノ儘ニナツテキル 然シ我ガ河川法亦頗ル缺陷多ク早晚之ニ大改正ヲ加ヘナケレバナラヌ運命ニアルコトヲ思ヘバ此ノ際諸外國ノ立法ニ倣ヒ曩ノ水利法案ヲモ包含セシメタ水ニ關スル一般的规定タル水法ヲ起草スルノ策ノ得タルモノナルヲ思ハザルヲ得ヌノデアアル

緒 言

普國水法ハ前後二十餘年ノ日子ヲ費ヤシテ始メテ成ツタモノデアアル 以テ如何ニ水法ノ編纂ガ困難デアリ又其ノ制定ニ熱心デアツタカ、窺ハレル

一八九〇年ニ水法統一取調委員會ガ設ケラレテ第一回ノ水法草案ハ一八九四年ニ發表セラレタ 之ニ對シテハ學者ヤ官廳ヤ其ノ他利害關係アル者ノ論難攻撃ガ大分ヒドカツタノデ之ニ根本的ノ改訂ガ加ヘラレテ一九〇七年ニ第二回草案(農商務省農務局發行農業水利ニ關スル各國法令下卷所載)ガ發表セラレタ 此ノ草案ハ更ニ一部人士ノ意見ニ基イテ再ビ大改訂ガ加ヘラレ一九一一年ノ普國國會ニ初メテ議案トシテ提出セラル、コトトナツタ 此ノ第三回草案ガ國會ニ於テ多少ノ改竄ヲ受ケタガ大體ニ於テ採用セラレ遂ニ一九一三年四月七日ノ法律トシテ裁可公布ノ運ビニ至ツタノデアアル

今其ノ内容ヲ一覽スルノ便ニ供スル爲メ其ノ項目ヲ左ニ掲ゲル

第一章 水 流

第一節 水流ノ觀念及種類

第二節 水流ノ所有權關係

第三節 水流ノ利用

第一項 總 則

第二項 一般使用

第三項 所有權者ノ利用

第四項 特許

第五項 調停

第六項 堰水設備

第一目 總則
第二目 貯水池

第四節 水流及沿岸ノ維持

第五節 水流及沿岸ノ改修

第六節 國及州ノ第二種水流改良工事關與

第七節 水流登記簿

第二章 水流ニ非ザル水

第三章 水利組合

第一節 總則

第二節 加入ノ強制ヲナシ得ベキ組合

第三節 強制組合

第四節 組合組織ノ手續

第五節 定款ノ變更

第六節 組合ノ解散及清算

第七節 本法實施前ニ設立セラレタル組合

第四章 洪水ノ豫防

論 說 報 告 普 國 水 法 ト 我 河 川 法

第一節 水流ノ洪水通過區域ニ於ケル警察制限

第二節 水流ノ氾濫區域ニ關スル規定

第三節 オストロヒヤ 東海ノ海堤

第四節 洪水疎通ノ妨害トナルベキ物ノ除却

第五節 堤防組合

第六節 堤防組合ニ屬セザル堤防

第七節 はんのば州しゆれすういひほるすたいん州ニ關スル特別規定

第五章 強制權

第六章 水流警察官廳 Wasserpolizeibehörden

第七章 水流検査官 Schaufänger

第八章 水流顧問 Wasserbeiräte

第九章 中央水流官廳 Landeswasseramt

第十章 刑 罰

第十一章 經過法及附則

參考ノタメ我河川法ノ項目ヲ上グレバ次ノ通りデアル

第一章 總則

第二章 河川ノ管理

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生ズル收入等

第五章 監督及強制手續

第六章 訴願及訴訟

第七章 附則

第一章 水 流

第一節 水流ノ觀念及種類

第一條 (1) 水流トハ自然又ハ人工ノ川床ニ於テ不斷若ハ時時地上ヲ流ル、水ニシテ其ノ水ノ地上ノ水源及其ノ水ノ流出スル池沼湖其ノ他之ニ類スル水溜並其ノ地下ヲ流ル、部分ヲ包含シタルモノヲ云フ(自然水流人工水流)

(2) 魚類ノ飼養保管其ノ他ノ目的ヲ以テ設ケラレタル湛水地ニシテ人工的設備ノミニ依リ水流ヨリ引水シ若ハ之ニ排水スルニ過ギザルモノハ水流ニ非ズ

(3) 溝渠ハ所有者ヲ異ニスル數多ノ土地ニ於テ水ノ自然ノ疏通ノ用ニ供セラルルモノニ限り之ヲ水流トス 本法附録水流表ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外人工水流ノミノ流出スル湖沼ハ水流ニ非ズ 工業用運河(水車用水路等)並灌溉用運河ニシテ水流ト認ムベキモノハ凡テ人工水流ト推定ス

(4) 自然水流ハ之ニ人工的變更ヲ加フルモ自然水流タル性質ヲ失フコトナシ

普國水法ハ先ヅ其ノ第一條ニ於テ水流ノ觀念ヲ詳密ニ定メ此ノ觀念ニ該當セザル水ハ凡テ之ヲ水流ニ非ザル水(本法

第二章)ト云ツテ水流ト然ラザル水トヲ嚴格ニ區別シテキル 後者ハ原則トシテ水ノ存スル土地所有者ノ自由處分ニ放任セラル、ニ反シ前者ニ付テハ其ノ使用處分ニ關シ種々ノ制限ヲ必要トスル(第一九六條及第一九條以下參照)。本法ガ水流ノ概念ヲ可及的明確ニ定メント努メタ所以ハ兩者ノ間ニ斯ク法律關係ヲ異ニスルカラデアアル

普國國法ハモト水流ト流動セザル水トヲ區別シ池沼湖及貯水ヲ後者ニ屬スルモノトシタ 羅馬法、獨逸普通法、佛法亦此ノ普國國法ト同一ノ區別ヲ認メタノデアアルガ此ノ區別ノ標準ハ實ハ甚ダ不明瞭デアツテ實際ニ適セヌ 故ニ本法デハ水流ヲ單ニ流動セザル水ニ對スル概念トナサズ先ヅ水流ノ概念ヲ明白ニ定メ本條ノ水流タルコトヲ得ザル水ハ凡テ之ヲ水流ニ非ザル水トナシ凡テノ水ヲ水流ト然ラザル水トノ二ツノ中ノ何レカニ包含セシムルコト、シタノデアアル 本法ハ又自然水流ト人工水流トヲ區別シテキル 之ハ水流ノ一般使用、利用關係及其ノ維持ニ付テ此ノ兩者ガ往々其ノ取扱ヲ異ニシナケレバナラヌカラデアアル

第二條 (1)本法ニ於テ

- 一 第一種水流ト稱スルハ附録水流表第一號ニ掲グル自然水流及同第二號ニ掲クル人工水流ヲ云ヒ
- 二 第二種水流ト稱スルハ第四條ノ規定ニ依リテ作製セラルベキ表ニ掲ゲラル、自然水流並人工水流ヲ云ヒ
- 三 第三種水流ト稱スルハ前二號以外ノ凡テノ自然水流及人工水流ヲ云フ

(2)自然水流ヨリ分岐シ再ビ之ニ合スル自然水流(附屬派流)及自然水流ノ河口派流ハ幹流ガ其ノ分派點ニ於テ屬スル水流ノ種類ニ屬ス但シ附録水流表ニ別段ノ定アルモノ及第三條第一項又ハ第四條ニ別段ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

本法ハ從來ノ學說立法例ノ一般ニ認メタ公水私水ノ區別ヲ採用セズシテ全然機械的ニ水流ヲ三種ニ分チ各個ノ水流ガ何レノ種類ニ屬スルカハ法令ニ基ク表ニ公示シ一點疑ヲ容ル、ノ餘地ナカラシムル方針ヲ取ツタ 蓋シ公水私水ノ區別ハ學說立法例ノ示ス所實ニ混雜ヲ極メ水ノ一般使用ノ問題、其ノ利用特權ノ問題及其ノ所有權ノ問題互ニ錯雜混淆シ此

ノ問題ニ指ヲ染ムル者ヲシテ常ニ迷宮ニ彷徨スルノ感ヲ懷カシメルノデアル(註)

[註] 公水私水ノ區別ニ關シテハ市村博士公水ト私水トノ區別、京都法學會誌第四卷第二號所載、睦道博士普國新水法典ニ就テ京都法學會誌第八卷第九號一四五頁以下等參照

本法ハ乃チ此ノ議論ノ外ニ豁然トシテ水流ヲ全然機械的ニ分類シ其間ニ何等ノ疑ヲモ殘サザル方針ヲ取ツタモノデ確カニ立法上一ノ進歩ト見ルベキデアラウ

我國ニ於テハ河川(水流水面ヲ含ム以下做之)ニ三種ノ別アルヲ認メテキル

一 河川法施行河川(河川法第一條) 此ノ中ニモ河川法第六四條ニ依ルトキハ河川法ノ全部又ハ一部ヲ施行スベキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ムベキモノナルニ依リ細別スレバ更ニ全部施行河川及一部施行河川ノ二種ニ區別セラル、ワケデアアルガ目下ノ處一部施行河川ナルモノハ存在シテ居ラヌ

二 河川法準用河川(河川法第五條) 準用河川ハ從來其ノ數極メテ少カツタガ近時水利ヲ増進シ水害ヲ防禦スル爲河川法上ノ取締ヲ必要トスル河川ニハ凡テ準用セシムル方針ヲ取ツタノデ準用河川ノ數ハ急ニ激増シ今ヤ何レノ府縣ニモ準用河川ノ存在セザルハナク爲ニ河川法ハ著シク其ノ領域ヲ擴ムルコト、ナツタ

三 普通河川 河川法ノ施行又ハ準用ナキ河川ヲ指ス

以上三種ノ河川ハ何レモ公水ニ屬スベキモノデアツテ此ノ外專ラ民法ニ依リテ支配セラル、私水ノアルベキハ民法ノ規定ニ徵シテ明カナル所デアル 然シ此ノ公水ト私水トヲ如何ナル標準デ區別スベキカハ何等據ルベキ法規ナク甚ダ疑アルヲ免レナイ 故ニ此ノ點ニ付テハ普國水法ノ如ク凡テノ水ヲ機械的ニ分類シテ其ノ如何ナル法律關係ニ服スベキカヲ明確ニスベキモノト信ズル

派流ノ所屬ニ關シテハ我國ハ河川法第四條第一項ニ「地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ」トアリ又同第五條ニ「此ノ法律ニ規定

シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケザル河川ニ準用スルコトヲ得」ト規定シテキル 從ツテ前者ハ施行河川ニ屬スベキ派流デアツテ後者ハ準用河川ニ屬スベキ派流デアアル」

第三條 (1) 第一種水流表ハ法律ニ依ルニ非ザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

(2) 前項ノ變更ニ依リ水流ニ關スル權利ノ行使ヲ妨ゲラレ若ハ土地ニ關スル利益ヲ害セラレタル者アルトキハ國ハ其ノ損害ヲ補償ス 其ノ補償ニ付争アルトキハ縣參事會之ヲ決定ス 此ノ決定ニ對シテハ其ノ送達後三月以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得 水流ノ種類ノ變更ニ因リ損害ヲ被ルト共ニ利益ヲ生ズルトキハ其ノ利益ハ補償額ヨリ控除セラル 但シ第十一條又ハ第三百三十一條ニ依リ既ニ控除セラレタル利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 (1) 第二種水流表ハ州知事(王領地ニ於テハ縣知事)之ヲ作製ス

(2) 第一種水流ニ屬セザル自然水流及人工水流ニシテ水利經濟上重要ナルモノハ之ヲ前項水流表ニ掲グルコトヲ要ス水流表ニ於テハ自然水流ト人工水流トハ之ヲ區別スベシ

第三條及第四條ハ第一種水流及第二種水流ノ指定方法ヲ定メタモノデ第一種水流ハ法律之ヲ定メ 第二種水流ハ地方長官之ヲ定ムルモノトシタ 第四條第二項ハ第一種水流ニ屬セザル自然水流及人工水流ニシテ水利經濟上重要ナルモノヲ第二種水流ニ編入スベキ旨ヲ定メ第二種水流ニ多少有義的特徵ヲ附シテキルガ要スルニ第二種水流ノ公示表ヲ作製スベキ職權職務ヲ有スル官廳ニ認定ノ標準ヲ示シタニ過ギヌ 之ニ依ツテ本法ノ水流ノ區別ガ全然機械的ダト云フ斷言ハ妨ゲラレヌノデアアル 我國ニ於ケル河川ノ認定權ハ施行河川ニアリテハ内務大臣(河川法第一條)準用河川ニアリテハ地方長官(河川法第五條ニ依レル命令ノ件第一條)ニアルコト法令ノ定ムル所デアアル

第五條 (1) 第五條水流表ハ關係地方ニ於テ之ヲ公示ス 公示ハ其ノ地方ノ公布例ニ依リ之ヲ行ヒ尙郡ノ關係セル場合ニ

ハ郡報ニ依リ之ヲ爲ス 此ノ水流表ニ對シテハ最終ノ公示後州知事(又ハ縣知事)ノ指定スル六週間以上ノ期間内ニ

於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得 異議ヲ申立ツベキ期間及場所ハ公示中ニ之ヲ定ム

(2) 前項ノ期間内ニ申立テラレタル異議ニ對シテハ利害關係人ノ意見ヲ徵シ州會之ヲ決定ス 王領地ニ在リテハ縣參事會之ヲ決定ス 其ノ決定ニ對シテハ二週間以內ニ農林務大臣ニ訴願スルコトヲ得 州知事(縣知事)亦訴願權ヲ有ス (3) 異議ノ申立決定シタルトキ又ハ申立期間經過シタルトキハ州知事(縣知事)水流表ヲ確定ス 其ノ確定ハ關係地方ノ公報ニ之ヲ公告ス

(4) 水流表ハ水流登記簿官廳(第八十三條)ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供ス 其ノ抄本ハ郡長、市部ニ在リテハ地方警察官廳之ヲ備付且保管ス

第六條 水流表ヲ變更シタルトキハ前條ニ從フ但シ水流表ノ公示ニ代フルニ該變更ノ公示ヲ以テスルモノトス

○河川法施行規程第一條 內務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ト官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ 內務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同ジ

○同規程第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スベシ

○河川法第五條ニ依ル命令第一條 河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スベキ水流若ハ水面又ハ河川ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ認定ス

府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スベシ

第二節 水流ノ所有權關係

第七條 第一種水流ノ所有權ハ第九條第一項ノ場合ヲ除ク外國ニ屬ス

第八條 (1) 第二種及第三種水流ノ所有權ハ第九條ノ場合ヲ除ク外沿岸土地所有者ニ共屬ス

(2) 前項ノ所有權ノ範圍ハ

一 相對スル兩岸ノ土地所有者ニ對シテハ平水位ニ於ケル水流ノ中央ヲ流ニ添フテ下ル線ヲ以テ其ノ持分ノ境界トシ

二 相隣ル沿岸ノ土地所有者ニ對シテハ沿岸土地ノ境界線ト沿岸線(第十二條)トノ交叉點ヨリ前號ニ定ムル水流ノ中央縱斷線ニ垂直ニ引キタル線ヲ以テ其ノ持分ノ境界トス

(3) 平水位トハ數年間ノ平均ニ於テ其ノ點ヨリ高キ水位ノ日ト低キ水位ノ日トノ相半スル水位ヲ云フ 潮汐ノ干満アル水流ニ於テハ通常滿潮水位ヲ云フ

(4) 國境河川ニ於テハ所有權關係ニ付別段ノ定ナキ限り普國沿岸地所有者ノ水流所有權ハ國境ニ及ブモノトス

(5) 沿岸地所有者ノ水流上ニ有スル持分ハ其ノ沿岸地ノ構成部分トス

本法ハばいゑるん水法ばいでん水法ト等シク水流ハ凡テ私法上ノ所有權ニ服スルモノト明言シタ 由來水流ノ上ニ所有權ノ成立ヲ認ムベキヤ否ヤニ付テハ判例學說ニ於テ定説ナク學者ノ好ンデ議論スル所デアツテ立法例ノ採用スル所從ツテ亦區區デアアル

〔註〕水流ノ上ニ所有權ノ成立ヲ認ムベキヤ否ヤニ付テハ美濃部博士日本行政各論六七六頁以下 曄道博士前掲論文京法

第九卷第二號一四九頁以下 池田宏氏最近水利ニ關スル立法ノ趨勢京法第十三卷第五號五一頁以下 三瀨博士流水

ノ所有權法學志林第十四卷第八號所載等參照

本法ハ此ノ論争ノ渦中ニ投ズルヲ避ケ公水私水ノ區別ヲ捨テタト同時ニ各種ノ水流ノ上ニ所有權ノ成立スルコトヲ明言シ依ツテ以テ水流ノ私法上ノ地位ヲ統一シ水流ノ種類ニヨリテ差別ヲ設ケナイコト、シタ 斯ク水流ノ上ニ私所有權ノ成立ヲ是認スルニ付テハ理論上實際上多少ノ危懼ガナイデハナイ 蓋シ水流ハ公共ノ安寧幸福ト至大ノ關係ヲ有シ其ノ利用ヲ個人ノ獨占ノ支配ニ委スルガ如キハ其ノ自然ノ性質目的ト相容レナイモノデアアルカラ濫リニ私法制度ヲ水流ニ適用スルコトハ出來スト云フコトハ水ニ關スル立法ノ基礎的原則トシテ確カニ尊重シナケレバナラヌ所デアアル シカシ

乍ラ此ノ原則ヲ成法ニ明言シテ水流ノ上ニ私權ノ成立スルコトヲ絕對ニ排斥スレバ水流ノ法律關係ヲ究明スルニ當リ其ノ基礎ヲ失ヒ法理上明確ナル判斷ヲ下スコト能ハザルニ至リ其ノ結果色々ノ弊害ヲ生ズルコトハ既ニ羅馬法以來ノ學說立法例ガ明ニ示シタ所デアアル 反之若シ水流所有權ヲ是認シ水流ノ法律關係ニ民法所有權ノ規定ヲ適用シ得ルトスレバ從來ノ學說立法ニ於テ見タルガ如キ難問ニ逢著スルコトナク尙ホ公安公益上ノ必要ニ關シテハ法令ヲ以テ水流所有權ニ相當ノ制限ヲ附スルトキハ水流所有權ノ存在ト公共ノ安寧幸福トノ背反衝突ヲ調和シ實際ノ支障ナカラシムルコトヲ得ルノデアアル 故ニ本法ガ水流上ニ私所有權ノ成立ヲ認メタノモ亦水ノ法律關係ニ關スル法理論ヲ迷宮ニ彷徨セシメナイタメデアツテ敢テ水流ニ關スル總テノ權能ヲ或特定人ニ專屬セシメ其ノ者若ハ其ノ者ノ同意ヲ得タ者デナケレバ水流上ニ何等ノ利用ヲナシ得ズト云フ無制限ノ所有權ノ成立ヲ認メタノデハナイ 即チ之ニ加ヘラレタ公安公益上ノ制限ハ頗ル嚴密ナモノデアツテ第十九條乃至第八十六條ニ於テ之ヲ詳シク規定シ特ニ「所有權者ノ利用」ナル一節(第四十條乃至第四十五條)ヲ設ケ所有權者ノ權利ニ付キ明確ナル限界ヲ定メテキル

第一種水流ノ上ニ國ノ所有權ヲ認メタ本法ノ規定ハ從來ノ普國ニ於ケル通説ト大ナル差ハナイ 蓋シ一般使用ヲ除ク以外ノ公水流利用ノ特權ガ國家ニ屬スト云フニ付テハ從來異論ガナカツタノデアアルカラ水流利用ノ特權ガ國家ニ屬スト云フニ代ヘテ水流所有權ガ國家ニ屬スト云フモ單ニ法律上ノ名義ガ明確ナル輪廓ヲ有スル觀念ニ代ツタニ過ギナイ 其ノ實質ニハ重大ナ差異ガナイノデアアル 反之第二種第三種ノ水流上ニ沿岸地所有者ノ所有權ノ成立ヲ認メタノハ普國ニ於ケル從來ノ學說立法例ノ多數ノ見ル所ヲ其ノ實質ニ於テ非常ナ差異ガアルノデアアルガ帝國大審院ガ所有權主義ヲ固執シ其ノ結果現在多數ノ登記セラレタ所有權ガアツテ之ヲ維持シナケレバナラヌ羽目トナツタノガ抑モ本法デ純然タル所有權主義ヲ採用スルニ至ツタ主ナル理由デアルトモ云ヘル 何トナレバ水流上ノ私人ノ私權ヲ排斥センニハ補償ヲ與フルカ又ハ補償ヲ與ヘズシテ之ヲ剝奪スルノ外ハナイ 後ノ方法ニヨラントスレバ既得權侵害ノ暴舉ニ出ヅルコト、テリ前ノ方法ニヨラントスレバ莫大ノ補償額ヲ要スルタメ到底實行スル事ガ出來ナカツタカラデアアル

次ニ本法ハ又水流所有權ノ物體ヲ川床ニ限ラヌ沿岸線ニ至ルマデノ川床所有權及之ニ包含セラル、水ニ對スル權能ヲ一體ト見テ水流所有權ト云ツテキル 換言スレバ川床ト水ハ合シテ水流所有權ノ物體タル水流ノ觀念ヲ構成スル理由書ノ説明ニ曰ク「水流所有權ノ物體ヲ川床ニ制限スルハ妥當ニアラズ蓋シ水流ノ經濟上ノ效用ハ水ノ流ル、土地ニ存スルニアラズシテ流ル、水其ノモノニ存スレバナリ 從ツテ水流ノ含ム水ヲ專ラ利用シ得ル法律上ノ權能ハ水流所有權ノ重要ナル内容タラザルベカラズ 而シテ水ヲ利用シ得ル權能ハ川床ヲ利用シ得ル權能ヲ伴ハザレバ水利經濟上ノ目的ヲ達スル能ハズ 水ノ利用ニ付テハ水其モノト川床ハ分離スベカラザル一體ナリ 之ヲ分離シ川床ノミニ對スル權利又ハ水ノミニ對スル權利ノ存在ヲ認ムルハ意味ヲナサズ」ト 然レドモ此ノ見解ニ對シテハ Wolf, Kohler, Windscheid 等ノ有力ナル反對說ガアルコトヲ記憶セネバナラス 蓋シ水ノ法律關係ノ究明ハ水流ト川床ヲ一體ト見テナスベキモノカ將亦流水其モノ、法律關係ト川床ノ法律關係トハ各別ニ觀察スベキモノナルカニ付テハ水流ノ法律關係ニ關スル難問ノ一トシテ古來學者ノ議論ノ絶エナイ所デアアル(嘩道博士前掲論文京法八卷九號一四五頁以下) 然レドモ一方ニ於テ本法第八條第五項ハ沿岸地所有者ノ水流上ニ有スル持分ハ其ノ沿岸地ノ構成部分デアルト云ツテキル 獨逸民法ハ物ノ構成部分ヲ重要ナルモノト然ラザルモノトニ分カチ重要ナル構成部分ハ獨立シテ權利ノ物體タルコトヲ得ズ然ラザル構成部分ハ獨立シテ權利ノ物體タルコトヲ得トシテキル 而シテ本法ノ草案ハモト水流上ノ持分ヲ沿岸地ノ民法ノ意味ニ於ケル重要ナル構成部分ナリト明言シタノガ本法ニ於テ民法云々ヲ削除シテ單ニ構成部分ナリト云ツテキルカラ茲ニ云フ構成部分ガ重要ナラザル構成部分ノ意味デアアルコトハ明カデアアル 從ツテ別段ノ定ナキトキハ理由書ノ主張スル所ニ依リ水流上ノ持分ハ沿岸地所有權ト運命ヲ共ニスベキモノデアアルガ同時ニ權利者ハ水流上ノ持分ノミニ付テ讓渡其ノ他ノ處分行為ヲナスコトヲ得ルモノト解釋スベキデアアル

翻ツテ我國法ヲ見ルニ

一 河川法施行河川ニ在リテハ河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ナイ(河川法第三條)其ノ立法理由

ヲ案ズルニ河川ヲ私權ノ目的トスルトキハ或ハ時効等ニ因ル權利義務ノ發生消滅ヲ伴ヒ爲ニ公用ヲ害スル結果ヲ招クコトナキヲ保セズ又河川ノ敷地若ハ流水ハ實際上河川其ノ者ト同一體ヲ爲シ區別シテ考フルコトヲ得ヌカラ之ニ付テ私權ヲ認ムルハ畢意間接ニ河川ニ付テ私權ヲ認ムルコト、ナリ尙ホ又若シ敷地ニ付テ所有權ヲ認ムルコト、スレバ河川ニ關スル工事ヲ施行スル毎ニ敷地ノ所有權者トノ間ニ權利ノ獲得ニ付テ交渉ヲ要スルコト、ナリ煩ニ堪エザルノミナラズ一河川ノ敷地ニ付テ數多ノ所有權者ヲ生ズルニ至リ河川行政上困難ナル問題ガ絶エナイト見タノデ羅馬法ノ公共物主義(無主物主義)ヲ踏襲シテ全然私權ヲ排除シタノデアラウ 獨逸ニ於テモウゑるてむべるぐ水法 へつせん水法ハ猶ホ我河川法ノ如ク舊式ノ無主物主義ヲトツテキル シカシ河川ガ無主物デアルト云フコトハ理論上正當デハナイ(美濃部博士日本行政法各論六七六頁以下參照) 從ツテ學者ハ多ク河川法第三條ハ無主物主義ヲ明言セルモノデハナク「私權ノ目的トナルコトヲ得ス」トハ單ニ河川ノ公有主義ヲ取ツタコトヲ示スニ止マルモノデアルト解シテキル(美濃部博士前掲六八三頁佐々木博士行政法二五六頁) 即チ「第三條ノ所謂私權ハ一切ノ私權ノ意ニ非ズシテ私人ノ私權ノ義ナリ」ト云ツテキル 然レドモ我河川法ガ無主物主義ヲ採ツタモノデアルトハ他ノ法令ノ關係上之ヲ否定スルワケニ行カヌ(池田氏前掲京法第十三卷第五號五二頁參照) 吾人ハ此ノ如キ理論上採ルベカラザル無主物主義ハ一日モ早ク捨テナケレバナラス 最近ノ立法ニ係ル普國水法、ばいでん水法、ばいゑるん水法ガ無主物主義ヲ捨テ私權ノ成立ヲ明言シタノニ徴シテモ水ノ法律關係ヲ明ニスルニハ 水流上ニ私權ノ成立ヲ認ムルノ必要切ナルモノアルヲ察スニ足ルノデアアル

二 準用河川ニアリテハ河川及流水ヨリハ私權ヲ排除シタガ敷地ニ對シテハ所有權ノ目的タルコトヲ認メテキル(河川法第五條ニ依ル命令第二條) 獨逸普通法 ざくせん水法ハ之ト同シ立法例ニ屬スル

三 普通河川ハ所有權ノ目的タリ得ベキコトガ認メラレテキル 蓋シ地所名稱區別(明治七年十一月太政官布告一二〇號)ハ河海湖沼池澤溝渠其他民有地ニ非ザルモノヲ官有地第三種トシテキルカラ國法上普通河川ニ付テ私權ノ成立ヲ

認メテキタコトハ疑ヲ容レヌ 即チ普通河川ハ我國法上原則トシテ國有ニ屬シ從ツテ國有財產法（大正十年四月法律四三號）施行後ハ其ノ支配ヲ受クベキモノデアル

第九條 (1) 本法施行ノ際第一種水流ノ所有權ニシテ國以外ノ者ニ第二種若ハ第三種水流ノ所有權ニシテ沿岸地所有者以外ノ者ニ屬スルトキハ其ノ所有權ハ本法ノ施行ニ因リ變更ヲ受クルコトナシ 第一種自然水流ノ從來ノ所有權ハ其ノ所有者ニ於テ土地登記簿ニ其ノ權利ヲ登記セザルトキ又ハ其ノ登記ヲ申請セザルトキハ本法施行後十年ヲ經過スルニ因リテ國ニ歸屬ス

(2) 第三百二十三條ニ掲クル地方ニ於テハ第二種水流ニシテ本法施行ノ際他ノ所有者ニ屬セザルモノハ其ノ水流ヲ管理スル水路閘門組合 (Deich- und Stelvenband) ノ所有ニ屬ス

(3) へつせん・なつそう州ニ於テハ第二種及第三種自然水流ニシテ市町村 其ノ維持義務ヲ負擔スルモノハ其ノ市町村ノ所有ニ屬ス（第百十七條第一項）市町村 其ノ維持義務ヲ負擔スルモノ其ノ所有權ガ該市町村以外ノモノニ屬スルトキハ從來ノ所有權ハ本法ノ施行ニ因リ變更ヲ受クルコトナシ但シ從來ノ所有者ニ於テ其ノ權利ヲ土地登記簿ニ登記セザルトキ又ハ其ノ登記ヲ申請セザルトキハ本法施行後二年ヲ經過スルニ因リテ其ノ所有權ハ市町村ニ歸屬ス

(4) 沿岸地所有者ノ存續シタル水流所有權ニ關シテハ第八條ヲ適用ス

第十條 (1) 第一種自然水流ハ前條第一項ノ規定ニ依リ國ニ於テ其ノ所有權ヲ有セザル者ト雖國ニ於テ其ノ維持ヲナストキハ國ハ勅令ヲ以テ其ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得其ノ勅令ハ取得セラルベキ水流ノ存スル縣ノ公報ニ之ヲ告示ス

(2) 從來ノ所有者ハ補償ヲ受クルコトヲ得但シ從來ノ所有者ニ課セラレタル負擔ハ補償額ヨリ之ヲ控除ス 其ノ他ノ點ニ付テハ一八七四年六月十一日公用徵收法第七條乃至第九條 第十一條 第十三條及第二十四條乃至第四十九條ヲ準用ス

第十一條 第三條第一項ノ規定ニ依リ第一種水流ニシテ第二種若ハ第三種水流トナリ又ハ第二種若ハ第三種水流ニシテ

第一種水流トナルコトアルモ其ノ所有權關係ハ之ニ因リテ變更セラルルコトナシ 但シ後ノ場合ニ於テハ勅令ニ依リ國ハ補償ヲ爲シテ其ノ水流ノ所有權ヲ取得スルコトヲ得。此ノ場合ニ於テ從來所有者ニ課セラレタル負擔ノ消滅ニ因リ所有者ニ利益ヲ與フルトキハ其ノ利益ハ補償額ヨリ之ヲ控除ス但シ第三條第二項又ハ第三百三十一條ノ規定ニ依リ既ニ控除セラレタル利益ハ此ノ限ニ在ラズ 前條第一項後段及同第二項後段ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條

(1) 水流ト沿岸地トノ境界線(沿岸線 *Uferlinie*)ハ野草生茂ノ限界ヲ以テ之ヲ定ム此ノ限界ガ平水位ヨリ高キトキハ沿岸線ハ平水位ノ水際ニ依リ之ヲ定ム

(2) 沿岸線ハ沿岸地所有者其ノ他ノ利害關係人ノ意見ヲ徵シ水流警察官廳(第六章)之ヲ定ム 利害關係人ハ水流警察官廳ニ對シ自己ノ費用ニ於テ沿岸線ノ決定ヲ請求スルコトヲ得

(3) 沿岸線ノ決定ハ之ヲ利害關係人ニ告知ス 利害關係人ハ之ニ對シ告知送達後四週間内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得 州知事又ハ縣知事水流警察官廳ナル場合ニ於テハ行政訴訟ニ於テ凡テノ法律的行爲ニ付代理人ヲ選任スルコトヲ要ス 行政訴訟ノ管轄權ハ縣參事會ニ屬ス

(4) 沿岸線決定後水流ノ變動アルトキハ沿岸線ハ前三項ノ規定ニ依リ更ニ決定セラルルモノトス

第十三條

(1) 水流ハ其ノ所有者又ハ權利者ノ申請アルトキニ限り之ヲ土地登記簿ニ登記ス

(2) 沿岸地所有者ノ水流上ノ持分ニ付登記ノ申請アルトキハ地租台帳ニ從ヒ土地登記簿ニ登記ス但シ地租台帳ニ記載ナキモノハ單ニ水流上ノ持分トシテ土地登記簿ニ記載スルモノトス

我國ニ於テハ既登記ノ土地ガ河川ノ敷地トナリタルトキハ登記ノ抹消ヲ爲スコトヲ要スル(不動産登記法第百二條ノ三) 河川法ガ無主物主義ヲ取ツタコトハ之ヲ以テモ推測スルコトガ出來ルノデアアル

第十四條

平水位ニ於テ川床流水ノ外ニ出デ又ハ水流中ニ沿岸ニ接續セザル土地ノ隆起(島嶼、河洲其ノ他之ニ類スルモノ)ヲ生ズルコトアルモ其ノ所有權關係ハ變更セラル、コトナシ

第十五條 (1) 自然ノ出來事ニ因リ第一種自然水流其ノ川床ヲ離レ新川床ヲ流ルルニ至ルトキハ其ノ新水流ハ國ノ所有ニ歸ス

(2) 新川床ノ從來ノ所有者ハ其ノ所有權ノ喪失ニ對シ國ノ補償ヲ受ク 此ノ補償ニ對シテハ民法施行法第五十二條及第五十三條第一項並一八七四年六月十一日公用徵收法第四十七條ヲ準用ス

(3) 舊川床ガ國ノ所有ニ屬セザル場合ニ於テハ從來ノ所有者ハ其ノ利益ヲ受クル限度ニ於テ前項ノ補償額ヲ分擔ス

第十六條 (1) 第二種又ハ第三種自然水流ニ關シ前條ノ場合生ズルトキハ新水流ハ沿岸地所有者ノ所有ニ歸ス

(第二文以下ハへつせん・なつそら洲其ノ他ニ於ケル特則ニ附略ス)

(2) 舊川床ノ所有者 新川床ノ從來ノ所有者 新舊水流ノ沿岸地所有者其ノ他新舊川床ニ關シ權利ヲ有スル者ハ一年內

ニ水流ヲ原狀ニ回復スベキ權利ヲ有ス 水流警察官廳ハ警察處分ニ依リ其ノ工事ノ種類及範圍ヲ定メ又ハ其ノ期間

ヲ延長スルコトヲ得 此ノ處分ニ對シテハ唯訴願ノミヲナスコトヲ得 訴願ノ裁決ハ確定的トス

(3) 復舊工事ノ許否ニ關スル利害關係人ノ爭ハ行政訴訟ニ依リテ決定ス 行政訴訟ノ管轄權ハ縣參事會ニ屬ス 行政訴

訟ハ前項ニ定メタル期間內ニ提起スルコトヲ要ス 此ノ期間ハ行政訴訟ノ繫屬中其ノ進行ヲ中斷セラル

(4) 原狀回復セラレタルトキハ從來ノ所有權關係ハ復舊ス

○河川法第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル流水河川ノ區域外ニ出デテ永期ニ渉ルベキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更スベシ

○河川法第四十四條ニ依ル命令第七條 河流ノ變更ニ因リ生ジタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ沿岸若ハ沿堤ノ土地所有者又ハ河川ノ區域ヲ其ノ所有地ニ移サレタル公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第十七條 (1) 寄洲 *Anlandungen* 若ハ附川 *Erdzungen* ノ生ジタルトキハ其ノ所有權ハ第八條第二項第二號ノ規定ニ依

リテ定マル範圍ニ依リ沿岸地所有者ニ屬ス

(2) 自然又ハ人工ニ因リテ水面ノ低下シタルニ因リ沿岸地擴大シタルトキ亦同ジ

(3) 沿岸地所有者ノ所有ニ屬セザル水流タル湖沼ニ於テ寄洲若ハ附洲ヲ生ジ又ハ沿岸地擴大シタルトキハ其ノ所有權ハ從來ノ所有權ノ範圍ニ從ヒ湖沼ノ所有者ニ屬ス 但シ從來ノ沿岸地所有者ハ從來ノ範圍ニ於テ湖沼ノ一般使用ヲ爲ス爲必要アルトキハ湖沼ニ達スル其ノ通行ヲ爲スコトヲ得

第十八條 自然力ニ依リテ沿岸地ヨリ分割セラレ他ノ土地ト結合セル土地ハ其ノ土地ト區別スルコト能ハザルニ至レルトキ又ハ土地ノ所有權者其ノ他ノ權利者ガ訴訟ニ依リ若ハ水流警察官廳ニ届出ヅルニ依リテ之ヲ取去ルノ權利ヲ行使セザルコト一年ニ亘ルトキハ結合セル土地ノ構成部分トナル

第三節 水流ノ利用

本法ハ水流ノ利用ト云フ觀念ヲ明定シテキナイガ其ノ意義ノ頗ル廣イモノデアルコトハ各個ノ規定ノ内容ニ照シテ疑ノナイコトデアル 即チ川床及流水ニ對シテ事實上爲シ得ル萬般ノ使用處分ヲ意味スル

此ノ萬般ノ事實上爲シ得ル使用處分ノ中本法ハ水利經濟上重要ナルモノ(特許事項第四十六條第一項參照)ト然ラザルモノト大別シ前者ニ付テハ嚴格ナル法律上ノ制限ヲ附シ水流所有權者ト雖此ノ制限ヲ超ユル使用處分ヲナサント欲スルトキハ特許ノ手續ヲ經ルコトヲ要スルモノトシ反之水利經濟上重要ナラザル使用處分ニ付テハ唯一般的ノ警察制限(第十九條乃第二十四條)ヲ以テ取締ル外水流所有權者ノ自由處分ニ任カシテキル 此ノ特許權者及所有權者ノ利用ノ外水流本來ノ性能トシテ他人ニ損害ヲ及ボサザル限り一般公衆ニ對シ水浴、洗濯、舟行等ノ一般使用ガ許サレテキルコトハ勿論デアル(第二十五條以下)

第一項 總 則

先ヅ其ノ第一項ニ於テ公安上必要ナル一般ノ警察制限ヲ規定シテキル 此ノ制限規定ハ獨リ水流所有權者ニ對シテ行ハルル許リデナク特許ニ依リ水流上ニ特別利用權ヲ取得シタ者並一般使用ヲ爲ス者ニ等シク適用サレルノデアル 我國

ノ河川法ニ於テハ河川ノ警察制限ニ關シテハ唯第十九條ニ「流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得」ト云ツテ凡テテ個々ノ府縣ノ警察命令ニ任シテキル 普國水法ガ法律ヲ以テ一定ノ定メヲナシテキルノト其ノ間ニ大分趣キノ相違ガアル

第十九條

(1) 土砂、石木、鑛渣、獸屍其ノ他ノ固體若ハ粘質物ヲ水流中ニ投棄シ又ハ此等ノ物質ニシテ水流中ニ流入スル虞アルモノハ之ヲ水邊ニ放置スルコトヲ得ズ但シ水流警察官廳ハ灌溉排水ニ支障ナク且水ヲ不潔ナラシメ他人ニ損害ヲ與フルコトナシト認メタルトキハ之ニ例外ヲ許スコトヲ得 此ノ例外ハ之ニ因リテ維持義務者ノ同意ヲ得タルトキニ限り之ヲ許スコトヲ得ルモノトス

(2) 前項ノ規定ハ魚餌ノ投入ニ關シテハ之ヲ適用セズ但シ其ノ投入ニ因リ水ヲ不潔ナラシメ他人ニ損害ヲ與フル場合ニ於テハ水流警察官廳ハ之ヲ禁止スルコトヲ得 魚類ノ飼養又ハ保管ノ目的ヲ以テ人工ニ依リ水流ヲ池形ニ擴築セルモノニ投餌スル場合亦同ジ

(3) 水流警察官廳公益上必要アリト認ムルトキハ水流ヨリ泥土、土砂、石礫ヲ採取スルコトニ關シ命令ヲ以テ其ノ取締及制限ヲ定ムルコトヲ得

第二十條

(1) 水流ニ於テ大麻及亞麻ヲ精白スルコトヲ得ズ

(2) 適當ナル精麻所ヲ設置スルコトヲ得ザル地方ニ於テハ精麻ノ爲水流ノ使用ヲ必要トスルトキハ縣參事會ハ市町村又ハ市町村ノ一部ニ對シ前項ノ禁止ノ例外ヲ許スコトヲ得但シ之ニ因リテ損害ヲ生ズルトキハ市町村ハ其ノ賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條

水流警察官廳ハ利用權ニ基カザル水流ノ利用及一般使用ニ關スル規定ニ依リテ許容セラレザル水流ノ利用ニ關シ必要ナル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ處分ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第二十二條

(1) 第一種及第二種水流ニ於テ工作物ノ設置又ハ其ノ重要ナル變更ヲナスニハ水流警察官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス 第三種自然水流ニ付テハ警察命令ヲ以テ此等ノ行爲ニ付許可ヲ受クベキコトヲ定ムルコトヲ得但シ法定ノ手續上又ハ法定ノ維持義務ノ履行上設置スル工作物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

(2) 水ノ自然ノ疏通ヲ維持スル爲必要アルトキハ警察命令ヲ以テ第一種及第二種水流並第二百八十五條ノ適用ヲ受ケザル第三種自然水流ニ付沿岸線ヲ去ル一定距離内ニ於テ工作物ヲ設置セントスルニハ水流警察官廳ノ許可ヲ受クベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

即チ普國水法ハ警察許可ニ依ツテ水流中ニ工作物ヲ設置變更スルコトヲ認メテキルガ我國ニ於テハ河川ノ區域内ニ於テ工作物ヲ設置若ハ變更スルニハ凡テ特許ヲ要スル(河川法第十七條參照)

第二十三條

(1) 一般使用ノ程度ヲ超エ水其ノ他ノ流動物ヲ水流ニ注入セントスル者ハ豫メ水流警察官廳ニ届出ヅベシ水流警察官廳ハ其ノ注水ニシテ警察上支障アリ又ハ第四十一條ノ制限ニ抵觸スト認ムルトキハ理由ヲ附シテ之ヲ禁止スベシ其ノ他ノ場合ニ於テハ其ノ注水ニ付警察上支障ナキコトヲ届出人ニ通知シ且其ノ地ノ公布例ニ依リ之ヲ告示スベシ此ノ場合ニ於テ警察官廳ハ異議ヲ除斥スル爲必要ナル豫防方法ノ指定ヲ爲スコトヲ得

(2) 水流警察官廳ハ第二種及第三種水流ニ關スル場合ニ於テハ緊急ノ場合ノ外水流検査官 *Scharhankar* (第七章)ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

(3) 第一項ニ規定スル届出ヲ爲シ又ハ異議ヲ除斥スル爲水流警察官廳ノ指定シタル豫防方法ヲ施行スルニ非ザレバ注水ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

(4) 注水權ガ特許ニ依リテ與ヘラレ若ハ本法施行ノ際現存シ且第三百七十九條乃至第三百八十一條ニ依リテ存續スルトキ又ハ其ノ注水ガ管轄權アル他ノ警察官廳ニ依リテ許可セラレ若ハ營業法第十六條乃至第二十五條ニ依リテ許可セラレタルトキハ前數項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

(5) 州知事(王領地ニ在リテハ縣知事)ハ水流検査官及水流顧問 Wassercharita (第八章)ノ意見ヲ聞キ注水ガ一般使用ノ程度ヲ超エズ且現在ノ狀況ニ於テハ損害ヲ生ズル虞ナキ範圍ニ於テハ各水流ニ付流動物ノ種類及容量ヲ限定シ其ノ注入ニ付テハ届出ヲ要セザル旨ヲ定ムルコトヲ得

第二十四條 (1) 水流ヲ不法ニ不潔ナラシメタルニ因リ損害ヲ生ゼシメタルトキハ前條ノ規定ニ反セザル場合ト雖其ノ不潔ヲ生ゼシメタル施設ノ起業者其ノ責ニ任ズ但シ不潔ノ豫防ニ付善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

(2) 抵當權者、地債債權者及定期地債權者ハ別段ノ賠償請求權ヲ有セズ但シ其ノ權利ノ目的タル土地ノ所有權者ノ取得スベキ賠償ニ付テハ民法施行法第五十二條及第五十三條ノ規定ヲ準用ス

(3) 水流ノ不潔ガ數箇ノ施設ニ依リ生ジタルトキハ起業者連帶シテ其ノ責ニ任ズ

(4) 前項ノ場合ニ於テ各起業者ハ水流ヲ不潔ナラシメタル割合ニ應ジ其ノ負擔部分ヲ定ム其ノ割合ヲ定ムル能ハザル場合ニ於テハ各負擔部分ハ平等トス起業者ノ一人ニ過失アルトキハ其ノ過失者ノミ責ヲ負フ

(5) 前四項ノ場合ニ於テ損害ニ付起業者以外ノ者其ノ責ニ任ズベキ規定アルトキハ其ノ適用ヲ妨グズ此ノ場合ニ於テ起業者ニ過失ナキトキハ起業者以外ノ者ノミ其ノ責ヲ負フ

(6) 民法第二百五十四條第八十四條第一項第二項及第八百五十二條ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二項 一般使用

水流ハ其ノ本來ノ性質ニ依ツテ公衆ノ一般使用ニ供セラレル 此ノ水流ノ一般使用ノ法律上ノ性質ガ權利デアるか或ハ單ニ法ノ反射的利益ニ過ギザるかハ從來議論ノ存スル所デアル 本法理由書ハ之ヲ公法上ノ權利デアルト明言シ但シ其ノ權利ノ性質ハ補充的デアツテ水流所有權、水流利用特權ト衝突スル範圍ニ於テ其ノ效力ヲ停止セラレ又水流所有權者ハ一般使用ノ行使ヲ認容スベキ法律上ノ義務ハアルガ反對ニ各人ハ此ノ義務ニ相當スル認容ヲ要求スル私法上ノ請求

權ハ持タナイモノトシテキル 獨逸普通法上ノ見解トシテハ權利說ガ有力デアツタケレドモ現行各支分國水法ノ解釋トシテハ一般使用ハ權利ノ性質ヲ持タナイモノトセラレテキル 即チ否權利說ヲ以テ現今ノ通說ト認ムベキデアラウ我國ニ於テモ學者ハ多ク否權利說ヲ採ツテキル(美濃部前掲、佐々木前掲)

サテ此ノ水流ノ一般使用ノ範圍ヲ出來ルダケ擴張スルコトハ水流ノ自然ノ性質ニ適シ大ニ推獎スベキコトデアルガ之レガ爲メ水流所有權者及水流利用特權者ノ利用ニ不便利ヲ與ヘルトキハ其ノ得ル所ヲ償フコトガ出來ヌカラ本法デハ水流ヲ公共物視シテ一般使用ヲ制限セザルヲ原則トスル主義ハ現今ノ經濟狀態ニ適セズ國民福利ヲ增進スル所以ニアラズト見テ之ヲ排斥シ一般使用ヲ水流所有權者及水流利用特權者ノ利益ヲ害セザル範圍ニ限り一般使用ト特別利用權トノ關係ヲ能フ限り明確ニ定メ以テ水流ノ經濟上ノ效用ヲ完カラシムルコトニカメタ 此ノ見地カラシテ本法ハ一般使用ノ内容ヲ或ハ積極的ニ或ハ消極的ニ限定シテキル

次ニ一般使用ノ權能ハ公共物ヲ使用スルコトノ出來ル事實上ノ狀態ニアル各人ニ同一内容ニ於テ屬スル權能デアルカラ其ノ當然ノ結果トシテ各人ノ一般使用ノ權能ハ他人ノ同一内容ノ權能ノタメ相互的ニ制限セラレルカラ一人ノ使用ガ他人ノ使用ノ妨害トナル場合ニ直チニ一般使用ノ侵害アリト云フコトハ出來ヌ 本法ハ一般使用ノ此ノ性質ニ鑑ミテ一人ガ他人ノ一般使用ヲ不能ナラシメ又ハ著シク困難ナラシムル方法若クハ程度ニ於テ水流ノ一般使用ヲ行使シタ場合ニ限り他人ノ一般使用ノ權能ガ侵害セラレタモノト見テキル(第二十五條第五項第三十七條) 此ノコトハ一般使用ヲ理論上ノ結論デアルカラ此ノ如キ明文ノナイ我國ニ於テモ尙當然ノ事理トシテ認メラレ得ル所デアアルガ普國水法ハ之ヲ明定シテ全ク疑ノ起ル餘地ナカラシメタノデアアル 我河川法ニ於テハ一般使用ニ關スル規定トシテハ第十六條ニ「舟筏ノ通航及流木ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」ト規定スルノミデアツテ之レ亦凡テ個々ノ府縣ノ命令ニ任シテキル(河川法施行規程第十四條)

第二十五條

(1) 第一種自然水流ハ他人ニ損害ヲ及ボサザル限り水浴、洗濯、手桶ヲ以テスル汲取、家畜ノ水飼、水泳、

舟行、氷滑並家事用及家業用ノ水及氷ヲ採取スル爲之ヲ利用スルコトヲ得家事用ノ餘水ヲ排泄スル亦同ジ但シ共同ノ設備ヲ以テスル下水ノ放流ハ此ノ限ニ在ラズ

(2) 第二種及第三種自然水流ニ於テハ氷ノ採取ノ外前項ノ規定ヲ適用ス但シ舟行及氷滑ハ從來一般使用トシテ行ハレタルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得舟行及氷滑ガ從來一般使用トシテ行ハレタルヤ否ヤ又ハ其ノ範圍ニ付争アルトキハ縣知事之ヲ決定ス此ノ場合ニ於テハ所有者ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

(3) 前二項ノ規定ハ第二種及第三種水流ニシテ人工ニ依リ池形ニ擴張セラレタルモノニ對シテハ之ヲ適用セズ第二十六條ハ第三十五條ノ場合ヲ除ク外邸宅、庭園及公園ヲ貫流スル水流ニシテ其ノ沿岸地所有者ノ所有ニ屬スル部分ニ付テハ一般使用ヲ爲スコトヲ得ズ前二項ノ規定ハ貯水池(第六六條)及第二種又ハ第三種自然水流ノミ流出スル湖沼ニハ之ヲ適用セズ斯カル湖沼及貯水池ニ關シ從來行ハレタル一般使用ヲ許スベキヤ否ヤ及其ノ範圍ハ縣知事之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ其ノ貯水池若ハ湖沼ノ所有者ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス此ノ定ハ縣知事之ヲ取消スコトヲ得

(4) 本條ニ於テ家業トハ農業的經營ヲ云フ農業的副業及小規模ノ實業的經營ハ家業ニ非ズ

(5) 他人ノ一般使用ヲ妨グル行爲ハ第三十七條ノ規定ニ牴觸スル場合ニ限り他人ニ損害ヲ與ヘタルモノトス

(6) 人工水流殊ニ第二種及第三種人工水流ニ付テハ第一項、第二項第四項ニ規定スル一般使用ノ許否及範圍ハ州知事水流検査官ノ意見ヲ徵シ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 第一種水流ハ一般公衆ノ交通殊ニ舟筏ノ通航ニ利用スルコトヲ得

第二十七條 (1) 第一種自然水流ニ於テハ沿岸土地所有者ハ其ノ土地ヲ人畜ノ曳船道トシテ使用セシムルコトヲ要ス必要アルトキハ沿岸地ノ背後ニアル土地ノ所有者亦此ノ義務ヲ負フ此等ノ土地所有者ハ國ガ曳船道ノ適當ナル築造及其ノ維持ヲ爲ス場合ニ於テ之ヲ受忍スル義務ヲ有ス

(2) 第二種又ハ第三種水流第三條第一項ニ依リ第一種水流トナリタル場合ニ於テハ土地所有者ハ國ノ一定ノ計畫ニ基ク

曳船道ノ築造ニ對シ受忍スル義務ヲ負フ此ノ受忍義務ニ對シテハ國ハ土地所有者ニ補償ヲ爲スコトヲ要ス從來曳船道ナカリシ第一種自然水流ニ付亦同シ

(3) 水流警察官廳ハ第一種自然水流ノ特定ノ區域ニ付曳船道ノ自由使用ヲ禁ジ得ベキ旨ヲ規定スルコトヲ得

○河川法第四十七條ニ依ル命令第五條沿岸土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ曳船道ニ供スベシ

前項ノ範圍ハ各曳船道ニ付府縣知事之ヲ定ム

第二十八條 第一種自然水流ノ沿岸地所有者ハ舟筏ノ著岸及繫留ヲ許スノ義務ヲ負フ但シ沿岸地所有者ノ申請ニ依リ水流警察官廳ノ除外シタル區域ニ於テハ此限ニ在ラズ 急迫ノ必要アル場合ニ於テハ私營物揚場 *Ein- und Ausladestellen*ニ付亦同一ノ義務ヲ負フ又沿岸地所有者ハ急迫ノ必要アル場合ニ於テハ一時積荷又ハ舟筏ノ陸揚ヲ爲スコトヲ受忍スルノ義務ヲ負フ

第二十九條 第二十七條第一項及第二十八條ニ規定スル義務ニ關シ本法施行ノ際既ニ主務官廳ニ於テ發シタル細則アルトキハ其ノ規定ノ效力ヲ妨グズ但シ水流警察官廳ハ警察命令ヲ以テ新ニ之ヲ規定スルコトヲ得

第三十條 (1) 曳船道ノ違法使用又ハ舟筏ノ著岸繫留若ハ積荷舟筏ノ陸揚ヲ受忍シタルニ因リ損害ヲ生シタル時ハ舟筏ノ所有者其ノ責ニ任ズ此ノ損害賠償請求權ノ消滅時效ハ一年トス時效ハ損害ノ生ジタル年ノ經過シタル時ヨリ進行ス (2) 前項ノ責任ニシテ民法ト並ビ行ハルル帝國特別法ニ依リ規律セラルルモノハ前項ヲ適用スルノ限ニ在ラズ前項ニ規定セラレタル者ガ更ニ廣キ範圍ニ於テ責ニ任ジ又ハ他人ガ賠償ノ責ニ任ズベキ場合ニ付亦同シ

○河川法第四十七條ニ依ル命令第七條……第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣ハ相當ノ補償金ヲ下付スベシ

第三十一條 (1) 第二種及第三種水流ニ於テ本法施行ノ際一般若ハ特別ニ認容セラレタル筏ノ通行ハ從來ノ範圍ニ限リ之ヲ許容ス 公益上又ハ重大ナル經濟上ノ理由アルトキハ農林務大臣ハ關係検査官及水流顧問ノ意見ヲ聞キ新ニ筏ノ

通行ヲ許容シ又ハ其ノ範圍ヲ擴張スルコトヲ得

(2) 木材ヲ結合セル筏ニ對シテハ前三條ノ沿岸土地ニ於ケル著岸繫留及損害賠償ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十二條 (1) 前條第一項後段ノ場合ニ於テ特別ノ設備ニ依リ豫防セザリシ爲メ損害ヲ生ジタルトキハ國之ヲ補償ス

(2) 補償金額ニ付爭アルトキハ縣參事會之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテハ送達後三月以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得補償金額ノ支拂及供託ニ關シテハ公用徵收法ノ規定ヲ準用ス

(3) 農林務大臣ハ流筏ニ關シ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一 筏ノ種類及操縱方法ニ關スル細則

二 水流所有者、沿岸地所有者及堰水權利者 *Stammberechtigte* ニ課スベキ義務及前條第二項ニ規定セラレザル其ノ他ノ制限

第三十三條 農林務大臣ハ第三十一條第一項ノ場合ニ於テハ管理及維持費用ヲ同項後段ノ場合ニ於テハ更ニ設備及補償費用ヲ支辨スル爲メ筏ノ通行料ヲ徵收スルコトヲ得

○ 河川法第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲メ新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ズ

通航料ノ徵收ヲ停止スベキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○ 河川法施行規程第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ従前ノ規定ニ依ル但シ徵收ノ期限ナキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スベシ

第三十四條 第三十一條第一項ニ依リ許容セラレタル筏ノ通行ハ同條ニ規定スル手續ニ依リ之ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第三十五條 筏ノ通行ノ外一般交通ノ爲第二種及第三種水流ヲ利用スル場合ニ於テハ第二十八條乃至第三十條 第三十一條第一項及第三十四條ヲ準用ス

第三十六條 (1) 水流所有者並本法施行ノ際水流利用權ヲ有シ第三百七十九條乃至第三百八十一條ニ依リテ其ノ存續ヲ認メラレタル者ハ必要ナクシテ一般使用ヲ妨害シ又ハ重大ナル理由ナクシテ之ヲ不能ナラシムルコトヲ得ズ其ノ他何人ト雖モ水流ノ一般使用ヲ妨グルコトヲ得ズ

(2) 水流警察官廳ハ前項ノ規定ノ遵守ヲ監視ス

第三十七條 一般使用ハ之ニ因リテ他人一般使用ヲ不能ナラシメ又ハ著シク之ヲ困難ナラシムルコトヲ得ズ

第三十八條 第二十七條第一項 第二十八條 第二十九條 第三十一條第二項及第三十二條第三項第二號ノ場合ヲ除ク外一般使用ニハ他人ノ所有ニ屬スル沿岸地ニ立入り又ハ其ノ他ノ使用ヲ爲シ又ハ水流中ニ工作物ヲ設クルノ權能ヲ包含セズ

第三十九條 水流警察官廳ハ一般使用ヲ規律シ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得斯カル處分ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第三項 所有權者ノ利用

前ニ述ベタ如ク本法ハ水流所有權者ノ存在ヲ認ムルコトヲ以テ時世ニ適スルモノトシタガ同時ニ若シ此ノ所有權者ニ水流ニ付イテ事實上爲シ得ル萬般ノ使用處分ヲ自由ニナサシメルコトスレバ公安上並國民經濟上甚シキ利益ヲ生ズルノデ其ノ調節策トシテ水流所有權ノ内容ニ次條以下ノ制限ヲ加ヘ以テ水流所有權ノ是認ト公安公益トノ間ニ矛盾ナカラシメ且水流所有權ノ存在ニ依ツテ起業ニ必要ナル水流ノ利用ガ妨ゲラレルノデ避ケルコトトシタ

第四十條 (1) 水流所有權者ニ屬スル水流利用權ハ第二十條乃至第二十四條ノ場合ノ外第四十一條乃至第四十五條ノ制限ヲ受クルモノトス

(2) 前項ノ規定ハ特ニ左ノ權利ニ付適用アルモノトス

- 一 水ノ使用消費特ニ地上若ハ地下ニ於テ直接若ハ間接ニ引水スルノ權利
- 二 水其ノ他ノ流動物ヲ地上若ハ地下ニ於テ直接若ハ間接ニ注入スルノ權利
- 三 水面ヲ高低セシメ殊ニ繼續的ニ貯水ヲ爲スノ權利

第四十一條 (1)左ノ利用ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

- 一 水ノ自然ノ疏通ヲ變更シ若ハ水ヲ不潔ナラシメテ他人ニ損害ヲ與フルコト
- 二 水位ヲ變更シテ水流ニ關スル他人ノ權利ノ行使ヲ妨グ又ハ他人ノ土地ニ損害ヲ與フルコト
- 三 水流若ハ沿岸ノ維持ニ付他人ノ負擔スル義務ノ履行ヲ困難ナラシムルコト

(2)僅少ナル不利益ハ之ヲ問ハズ

(3)水流ノ水位ヲ變更シ因テ地下水位ヲ變更シ他人ニ損害ヲ與フルコトアルモ水流ガ其ノ土地ノ自然ノ疏水ヲ妨ゲザル限リハ通常排水ノ爲水流ニ注水シ又ハ其ノ水位ヲ低下スルコトヲ妨ゲズ

第四十二條 一八四三年二月二十八日私川法ノ從來ノ施行區域ニ於テ其ノ公布ノ際(一八四三年三月四日)第二種又ハ

第三種水流中ニ適法ニ存在シタル水車ニ對シテハ其ノ當時ノ範圍ニ於テ之ニ必要ナル水ハ其ノ使用ヲ妨ゲラルルコトナシ當時既ニ特別ノ名義 [Title] ニ依リ其ノ經營ヲ擴張スルノ權利存在シタルトキハ其ノ擴張ノ爲必要ナル水量ニ付亦同ジ

第四十三條 (1)第八條ニ依リ水流ガ沿岸地所有者ニ屬スル場合ニ於テハ其ノ引用シタル水ニシテ沿岸地及之ト經濟上一

體ヲ爲ス附近地ニ消費セラレザリシモノハ他人ノ沿岸地ニ到ラザル前ニ於テ水流ニ復歸セシムルコトヲ要ス對岸他人ニ屬スル場合ニ於テハ各沿岸地所有者ハ流水ノ半ヲ引用スル權利ヲ有ス

(2)沿岸地所有者ノ權利ハ沿岸土地ノ境界ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十四條 相隣ル水流所有權利者間ニ其ノ利用權ノ行使ニ付合意成立シ若ハ組合ヲ組織シタルトキハ其ノ所有地ハ使

用權ノ行使ニ關シ之ヲ一體ノ土地ト看做ス

第四十五條 第三條第二項 第十條 第十一條 第三十二條第一項 第五十條 第五十一條 第八十二條第一項 第五十六條 第二百五十七條 第二百條第一項第三號及第三百三十一條第一項ノ場合ニ於テ第四十條第二項ニ規定スル權利ヲ行使スルコト能ハザル爲所有權者ノ蒙リタル積極的又ハ消極的損害ニ對シテハ公平上必要ナル限度ニ於テ補償セラルルモノトス消極的損害ニ關シテハ民法第二百五十二條ヲ準用ス

第四項 特許

本法ノ特許ニヨリテ創設セラル、水流利用特權ハ私權ノ性質ヲ有シ之ニ關スル法律上ノ主張ハ凡テ普通裁判所ノ管轄ニ屬シ其ノ侵害ニ付テハ所有權ヨリ生ズル請求權ノ規定ヲ準用スルモノトセラレテキル(第八十一條)他ノ獨逸支分國水法モ廣イ範圍デ水流利用ノ特許制度ヲ認メテキルガ特許ヲ得タ者ノ私法上ノ地位ハ本法ニ於ケル程確固タル保護ヲ受ケタルモノデハナイ 殊ニウゑるてむべるく水法ノ如キハ國家ノ特許ニヨル水流利用權ヲ公權ナリト明言シテキル 水流ノ一般使用及其ノ特別利用權ノ性質如何ハ學者ノ間ニ好ンデ議論セラレル問題デアアルガ要スルニ本法ニ於テハ一般使用ハ公權ナリトシ特別利用權ヲ私權ナリトシテキルカラ水流所有權及水流利用特權ニ對スル侵害ハ民法上ノ不法行爲トシテ損害賠償責任ヲ生ズルケレドモ一般使用ニ對スル侵害行爲ハ民法上ノ不法行爲トナラズ從ツテ別段ノ定ナキ限リハ損害賠償請求權ヲ發生セズ一般使用ハ常ニ警察上ノ命令處分ノ保護ヲ受クルニ過ギナイノデアアル

サテ此ノ特許ニヨル利用特權ハ水流所有權ニ付テ述ベタト同様水流自體即チ水ト川床トヲ一體トシテ利用シ得ル權利デアアル 若シ水流利用權ハ水ヲ利用スル權利デアツテ川床ノ利用ヲ含マストスレバ其ノ權利ハ起業上ノ實益ナキモノトナル 蓋シ水ノ動力ヲ利用セントスル起業ニ於テ水面ヲ高ムル權利ハアルガ川床ニ必要ナ設備ヲ施ス權利ガナイトシタラ水力ヲ利用スル權利ハ其ノ實益ガナクナルワケダカラ 故ニ本法ハ水流ニ關スル權利ニ付テハ常ニ水ト川床トヲ一體トシテ其ノ支配ノ物體トシテキル 然シ水流利用ノ特權ハ沿岸線ヲ越エテ其ノ效力ヲ及ボスモノデハナイ 起業者若シ

起業上沿岸地ヲ利用スル必要ガアル場合ニハ沿岸地所有者ト契約ヲナスカ又ハ公用徴收法ノ定ムル手續ヲ踏ムノ外ハナイ 但シ本法第五章ニ定ムル強制權ノ存スル場合ハ此ノ限りデナイ

本法ノ特許ハ一定ノ計畫ニ基ク起業ノタメノミニ之ヲ與ヘ漫然水利權ヲ與フル如キコトナク以テ水流利用權ノ濫設ヲ防イデキル 然レドモ其ノ起業ノ種類ニ付テハ本法ハ何等ノ制限ヲ設ケナイ 苟モ起業ノ爲メ必要ナ利用ガ一般使用及水流所有權ノ内容ヲナサザルニ於テハ何人ト雖特許ヲ申請スルコトヲ得又シナケレバナラヌ 從ツテ水流所有者ト雖第四十一條以下ノ制限ヲ超エル利用ヲ爲サント欲スルトキハ特許ヲ受ケナケレバナラヌ 又特許ノ與ヘラル、利用ノ種類ハ國民經濟上重要ナルモノニ限ラレ第四十六條第一項ニ之ヲ列舉シテキル 而シテ其範圍ニ屬セザル利用(例ヘバ葦草ノ栽培刈取、砂石ノ採取等)ニ付テハ特許ヲ受クルコトヲ得ズ之ヲ水流所有權者ノ權能ニ屬スルコト、シタ 蓋シ國民經濟上何等重要ナ必要ナキニ水流所有權ヲ濫ニ制限スルハ本法ガ水流所有權ヲ認メタ趣旨ト矛盾スルカラデアル 我國法ヲ見ルニ河川法亦特許制度ヲ採用シ一般使用ノ範圍外ニ於テ特別ノ方法ニ依リ河川ヲ利用スルニハ府縣知事ノ特許ヲ受クルコトヲ要スルモノトシテキル(河川法第十七條及第十八條) 法律ハ之ヲ許可ト云ツテキルガ其ノ性質ハ公物

ノ特別利用權ヲ特許スル行爲デアツテ之ニヨツテ特定ノ公共團體又ハ私人ノタメニ河川使用ノ權利ヲ設定スルモノデア
ル 而シテ此ノ權利ノ性質ニ關シテハ單ニ河川ノ主體ニ對抗シ得ベキ公權デアツテ私權ノ性質ヲ有スルモノデナイト云
フヲ通説トスル 蓋シ公物使用ノ特許必ズシモスベテ公權ヲ生ズベキモノデハナク漁業權ノ特許ノ場合ノ如ク私權ヲ生
ゼシムルコトモアルガ漁業權ニ付テハ法律ハ特ニ私法上ノ物權ナルコトヲ明言シテキルノデアツテ此ノ如キ場合ヲ除イ
テハ公物使用ノ特許ハ唯公物主體ニ對抗シ得ベキ公法上ノ權利ヲ設定スルニ止マルト解スベキデアル(美濃部前掲五七
一頁以下六九一頁以下池田前掲京法第十三卷第五號五五頁) 從ツテ此ノ權利ニ關スル爭訟ハ民事事件デハナイワケデア
ル

普通河川ニアツテハ國ノ公有ニ屬スルノ點ヲ河川法施行又ハ準用河川ト異ナルノデアアルガ公用ニ供セラレル限りハ公

法ニ依ツテ支配セラルベキデアツテ私法ノ規定ハ適用セラルベキモノデハナイ 從ツテ其ノ河川ニ對シテハ公用ヲ妨グル様ナ法律行爲ヲ爲スヲ得ズ又時効ニ罹ルコトナク其ノ他私人ノ所有權ニ變形スベキ性質ヲ有スル一切ノ法律行爲又ハ處分ノ目的トナルコトナキ等(例ヘバ土地收用法ニ依リテ收用又ハ使用スルコトヲ得ズ)要スルニ此等ノ關係ニ於テハ河川法施行又ハ準用河川ト區別スベキ點ハナイツケデアル 普通河川モ私法ノ適用ヲ排除スベキコトハ以上ノ法理論ニ於テ明カデアアルガ成法上ノ根據トシテハ官有地取扱規則第十一條ヲ揚グルコトガ出來ル 同條ハ「官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其ノ公用ヲ廢シタルニ非ザレバ賣渡、讓與、交換又ハ貸付スルコトヲ得ズ但シ公衆ノ妨害トナラザル限りハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其ノ使用ヲ許スコトヲ得」ト云ツテキル 但昔ノ規定ハ公法上ノ關係ニ於テ支配セラル、コトヲ意味シ本文ノ規定ハ私法ノ適用ヲ排除スル意味デアル 何トナレバ賣渡以下貸付ニ至ルマデ悉ク民法上ノ法律觀念デアルカラ 地方行政廳ハ此ノ規定ニ依リ有料又ハ無料デ普通河川ノ使用ヲ特許スルノデアツテ其ノ公法上ノ目的ハ府縣ノ警察命令(河川取締規則又ハ土木工事取締規程、水利使用規則等ノ類)ニ依ルノ外特許命令書ニ於テ河川法上ノ規定ニ準據シテ特許ノ條件ヲ定ムルニ依リテ違スルモノデアル 唯河川ニ對シテハ堤防ノ外其ノ使用處分ガ地方行政廳以外ニ委任セラレナイカラ之ヨリ徵收スル使用料又ハ占用料ハ國ノ收入ニ歸スルモノトセラレテキル(明治二十四年五月內務省訓令第四六二號)然シ之ニ對シテハ有力ナル反對說(美濃部前掲七一頁)ガアルカラ社會經濟上最モ必要ナル水利ニ關スル法律關係ヲシテ紛糾セシメ理由ナキ利害關係人ヲ出現セシメ手續上無益ノ手数ト時日トヲ空費セシメ或ハ事業ノ成立ヲ害シ或ハ地方ヲシテ腐敗セシムル原因トナル 故ニ此等ノ關係ヲ絶チ水利ノ圓滿ナル發展ヲナサシムルニ一日モ速カニ完全ナル水法ノ制定セラル、コトヲ切望セザルヲ得ヌノデアアル

第四十六條 (1) 水流ニ關スル左ノ權利ハ特許ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得

一 第四十條第二項ニ規定スル權利

二 港津又ハ獨立ノ水路トナラザル支運河 *Stehkanal* ヲ開設スル權利

三 重要ナル工作物ヲ有スル物揚場ヲ設置スル權利

四 市町村水浴場又ハ公衆水浴場ヲ設置スル權利

(2) 前項ノ權利ニシテ他ノ法條ニ依リテ與ヘラレ又ハ其ノ利用ガ一般使用ニ關スル規定ニ依リテ許容セラルルモノニ付テハ特許ヲ受クルコトヲ要セズ

(3) 特許ハ申請ニ依リ土地所有權ト分離スルコトヲ得ザルモノトシテ之ヲ與フルコトヲ得

我河川法ニ於ケル特許事項ハ次ノ如クデアル(河川法第十七條及第十八條)

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物ノ新築改築又ハ除却

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物ノ新築改築又ハ除却

三 河川ノ區域ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物ノ新築改築又ハ除却

四 河川ノ敷地若ハ流水ノ占用

第四十七條

(1) 特許ハ本法ニ定メタル理由ニ依リテノミ之ヲ拒否スルコトヲ得

(2) 特許ハ無期又ハ有期ニ之ヲ與フルモノトス

(3) 利用ニ因リ水流ヲ不潔ナラシムル虞アルトキハ清潔ニ關シ周到ナル條件ヲ附スルニ非ザレバ特許ヲ與フルコトヲ得ズ

(4) 特許ガ有期ニ與ヘラレタル場合ニ於テハ公益上又ハ經濟上重大ナル理由ナキ限り起業者ハ特許期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ後ニ必要トナリタル變更ヲ受クルコトアルベシ

我國ニ於テハ水利使用ノ許可期限ニ付テ從來別段ノ定メガナカツタノデ其ノ期限ヲ全然定メナカツタコトモ多カツタル公益上ノ理由ニ基イテ近頃デハ凡テ主タル事業ノ許可又ハ營業年限ニ依ツテ適當ニ指定スルコト、シタ(大正六年三

月三十日發土第十九號土木局長通牒添屬命令書案第四條)而シテ從來ノ無期限ノモノニ付テハ會社ノ合併 設計ノ變更 其ノ他使用水量ヲ増減スル等ノ機會ニ於テ夫々整理セシムル方針ヲトツタ(大正七年九月二十日電監第五七六〇號遞信 省電氣局長內務省土木局長通牒參照)

尙ホ普國水法ハ次條以下ニ特許ノ條件ニ付テ詳シク規定シテキルガ法律ニ何等ノ規定ノナイ我國ニ於テハ特許條件凡テ 特許ノ際下付スル命令書ニ於テ之ヲ定ムルコト、シテキル(前掲命令書案參照)

第四十八條 特許ハ一定ノ計畫ニ基ク起業ノ爲ニ非ザレバ之ヲ與ヘズ

第四十九條 (1)特許ハ重大ナル公益上ノ支障アルトキハ之ヲ與ヘズ但シ其ノ支障ヲ除クニ足ル條件ヲ附シテ之ヲ與フル

コトアルベシ既ニ著手シ又ハ計畫中ニ屬スル水流改良工事ガ特許ニ依ル水流ノ利用ニ因リ妨ゲラレ若ハ著シク困難ニ陥ルベキ場合ノ如キハ支障アル場合トス

(2)第二種又ハ第三種自然水流ノミ流出スル湖沼、人工水流及第百六條ニ規定スル貯水池ニ於テハ湖沼若ハ人工水流ノ所有者又ハ貯水池ノ起業者ニ於テ異議ヲ申立ツルトキハ特許ハ之ヲ與ヘズ

(3)第二種又ハ第三種自然水流ニ於テ特許ニ依ル權利ノ行使ガ公共ノ利益ヲ増進スル爲設ケラレタル貯水池(第百六條)ノ效果ヲ著シク害スル虞アリトシテ水流警察官廳特許ヲ與フルコトニ異議ヲ唱ヘタルトキハ特許ハ農林務大臣ノ同意アルトキ又ハ同大臣ノ定ムル公益上必要ナル特別條件ヲ附シタルトキニ限り之ヲ與フルコトヲ得

(4)附録水流表ニ記載セラレタル第一種自然水流ニ於テ其ノ利用ガ公益上重大ナル支障アリトノ理由ニ依リ水流警察官廳特許ヲ與フルコトニ異議ヲ唱ヘタルトキハ特許ハ商工大臣及土木大臣ノ同意アルトキ又ハ兩大臣ノ定ムル公益上必要ナル條件ヲ附シタルトキニ限り之ヲ與フルコトヲ得此ノ意思表示ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第五十條 (1)水流ノ利用ニ因リ他人ノ權利ヲ害スル虞アル場合ニ於テ其ノ起業ト兩立シ且經濟上相當ナル施設ニ依リテ之ヲ防止シ得ベキトキハ此等ノ施設ヲ爲スベキコトヲ條件トシテ特許ヲ與フルコトヲ要ス 此ノ施設ノ維持義務ガ

同一目的ノ爲現存スル施設ノ維持義務ノ範圍ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ超過セル部分ヲ起業者ノ負擔トス 第四十一條第一項及第二項ニ規定スル損害ニ付テハ他人ノ權利ノ害セラレザル場合ト雖本條ヲ適用ス

(2)前項ノ施設不能ナル場合ニ於テ損害ヲ受クヘキ者異議ヲ申立ツルトキハ特許ハ之ヲ與ヘズ但シ他ノ方法ニ依ルトキハ其ノ起業ヲ適當ニ經營スルコト能ハズ若ハ莫大ナル費用ヲ要スル場合ニシテ且其ノ起業ニ因リテ生ズベキ利益ガ異議申立人ノ受クベキ損害ヲ著シク超過シ而カモ異議申立人ノ權利ガ特別ノ名義ニ基クモノナルトキ並公益上ノ理由アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テ一九一二年一月一日以後所有者トノ間ノ法律行爲ニ依リテ設定セラレタル權利ハ除斥セラル

(3)水流ガ水ノ自然ノ疏通ノ用ヲ爲ス土地ニ於テ通常ノ排水ノ爲ニスル水ノ注入若ハ水位ノ低下ニ因リ地下水位ヲ變更シタルトキハ之ヲ損害ト看做サズ

第五十一條

(1)前條ニ規定スル損害ニシテ施設ニ依リ防止シ得ザルモノハ起業者之ヲ賠償スルコトヲ要ス

(2)前項ノ賠償ハ定期給付ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得 特許官廳ハ一定期間内ニ賠償關係ヲ審査シ且之ニ異リタル決定ヲ爲シ得ベキ旨ノ留保ヲ爲スコトヲ得

第五十二條

(1)水流ノ自然ノ疏通ヲ害シ又ハ水位ヲ變更シ又ハ水流若ハ沿岸ノ維持義務ヲ加重シタルトキト雖被害者ニ

シテ自己ノ維持義務ヲ適法ニ履行セシナランニハ避ケ得タリシナルベキ損害ハ賠償スルノ限ニ在ラズ

(2)地下水位ヲ惡變シタル場合亦同ジ此ノ場合ニ於ケル損害ハ公平上必要ナル限度ニ於テ補償セラルルモノトス

第五十三條

(1)水流ノ利用ニ依リ他人ノ土地又ハ工作物ガ從來ノ目的ニ適當ニ使用スルコトヲ得ザル處アルトキハ其ノ

土地又ハ工作物ノ所有者ハ起業者ニ對シ其ノ土地又ハ工作物ヲ有償ニテ讓受クベキコトヲ要求スルコトヲ得

(2)前項ノ規定ニ依リ起業者ニ於テ讓受ケタル土地ノ全部又ハ一部其ノ目的ノ爲ニ必要ナキニ至リ之ヲ賣渡スベキ場合ニ於テハ一八七四年六月十一日公用徵收法第五十七條ノ法定先買權ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十四條 水流ノ利用ニ對スル對價ハ之ヲ起業者ニ課スルコトヲ得ズ

水流利用料ノ取立ニ付テハ政府ハ第一種水流ノ利用及人工水流ノ利用ニ付テ之ヲ是認シヤウト主張シタガ議會ノ強硬ナル反對ニ會ツテ起業者カラハ全然利用料ヲ徵收スルコトガ出來ナイコト、ナツタ 我國ニ於テハ河川法第四十二條ニ流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得トアル 即チ河川法ハ普國水法ト反對ノ見解ヲトツテキルノデアアル 何レノ主義ヲ可トスベキカハ議論ノ存ズル所デハアルガ流水ノ如キ公共ノ用ニ供スベキモノカラ年々獨占的ニ經濟上ノ利益ヲ舉グル事業ニ對シテハ其ノ企業心ヲ沮喪セシメナイ程度ニ於テ相當ノ使用料ヲトルコトハ素ヨリ理由ノアルコト、思フ 殊ニ我國ノ如ク法令ニ何等ノ根據ノナイ報償契約ヲ以テ公納金ヲ命ズル様ナ現狀ノ矯正手段トシテ考フレバ使用料ニ關スル制度ヲ確立シテ地方ニ於ケル公共團體又ハ其ノ他ノ組合ガ起業者ト極メテ弊害ノ多イ私納ヲ結ブ餘地ナカラシムルコトハ一面ニ於テ相當ノ財源ヲ作ルト共ニ他方ニ於テハ却テ起業者ヲ保護スルコト、ナリ結局一舉兩得ノ策ト云フコトガ出來ヤウト思フ（池田前掲京法第十三卷第十一號七六頁以下）

第五十五條 第五十條ニ規定スル施設ニハ貯水池、堰堤、水ヲ清潔ニスル設備其ノ他之ニ類スルモノヲ包含ス此等ノ施設ノ維持ヲ分擔スベキ義務ハ特許ノ條件トシテ之ヲ起業者ニ課スルコトヲ得

第五十六條 (1)特許ハ水流若ハ其ノ沿岸ヲ維持シ又ハ之ニ依リテ得ラルル權利（特許權）ノ行使ヲ監督スル爲必要ナル費用ヲ負擔スベキ義務ヲ條件トシテ起業者ニ之ヲ與フルコトヲ得

(2)特許ハ損害ノ有無及其ノ範圍ヲ確定シ易カラシムル爲量水標ノ觀測 地下水位ノ觀測等ヲ爲スベキ義務初ヲ條件トシテ之ヲ與フルコトヲ得

第五十七條 水流ノ利用ガ一般使用ヲ不能ナラシメ又ハ之ヲ著シク困難ナラシムル虞アル場合ニ於テ其ノ起業ト兩立シ且經濟上相當ナル施設ニ依リテ之ヲ防止シ得ベキトキハ斯カル施設ヲ爲シ且第五十條第一項第二文ニ依リ之ヲ維持ス

ヘキ義務ヲ特許ノ條件トシテ起業者ニ課スルコトヲ要ス

第五十八條 (1)風景ノ著名ナル地方ニ於テ起業ト兩立シ且經濟上相當ナル施設ニ依リテ風致ノ重大ナル毀損ヲ防止シ得ル場合ニ於テハ斯カル施設ヲナシ且第五十條第一項第二文ニ依リ之ヲ維持スベキ義務ヲ起業者ニ課スルコトヲ要ス

(2)前項ノ場合ノ外風景ノ著名ナル地方ニ於テハ風致毀損ヲ防止スルニ適當ナル條件ヲ附スルコトヲ要ス但シ其ノ條件ハ起業ノ目的及經濟ト兩立スルモノナルコトヲ要ス

○前掲命令書案第十條參照

第五十九條 起業者ニ對シテハ其ノ課セラレタル條件ノ遵守及第七十條第三項ニ依リ後日ノ決定ニ留保セラレタル損害賠償請求權ヲ確保スル爲擔保ノ提供ヲ爲サシムルコトヲ得、擔保額ハ爾後三年間ニ生スルモノト豫想セラルル損害總額ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ此ノ額ハ爾後年々補充セシメテ之ヲ維持スルコトヲ要ス、國及地方團體ハ擔保ヲ提供スルコトヲ要セズ

第六十條 (1)特許ニハ起業ヲ完成シ且其ノ經營ヲ開始スベキ期限ヲ附スルコトヲ要ス

(2)前項ノ期限ハ之ヲ伸長スルコトヲ得

我國ニ於テ水利使用ノ許可ヲ受ケタ者ハ指定期限(通常六箇月乃至一箇年)内ニ必要ナル圖書類ヲ添付シテ工事實施ノ認可ヲ地方廳ニ申請スルコトヲ要シ(前掲命令書案第五條)此ノ認可ノアツタトキハ六箇月内ニ工事ニ著手シ工事ノ難易ニヨリテ適當ニ指定セラルル一定期限内ニ竣功スルコトヲ要スル 而シテ此等ノ期限ニハ效力ヲ附シ其ノ不遵守ノ場合ニハ許可權ヲ失ハシメルコト、シタ唯天災其ノ他不可抗力ニ依ル事故ノアツタ場合ダケハ例外トシテ期間ノ伸長ヲ許シテキル(命令書案第七條及第十九條)

第六十一條 (1)數箇ノ起業ニ對シ其ノ使用水量ノ分配ニ付又ハ其ノ使用期間ノ決定ニ付又ハ適當ナル經營施設ニ依ルモ兩立セシムルコトヲ得ザルモノニ付如何ニ特許ヲ與フベキカヲ定ムル場合ニ於テハ先ヅ其ノ起業ノ公益上ノ價値ニ

依リ次ニ其ノ經濟上ノ價值ニ依リ之ヲ定ム

(2) 數箇ノ起業同價值ナルトキハ既存ノ起業ハ新起業ニ優先シ一定ノ場所ニ限ラルル起業ハ其ノ限ラレサル起業ニ優先シ水流所有者ノ起業ハ沿岸地所有者其ノ他ノ者ノ起業ニ優先シ沿岸地所有者ノ起業ハ其ノ他ノモノノ起業ニ優先ス

○水利使用事業取扱ニ關スル件(大正八年六月九日電監第三〇三二號各地方長官宛遞信省電氣局長內務省土木局長通牒)

發電水力ニ關シテハ曩ニ地方長官會議ニ於テ遞信大臣ヨリ訓示ノ次第モ有之候處諸般產業ノ原動力トシテ水力ノ開發利用ガ甚ダ重大ナルコトハ言ヲ須ヒザル處ニ有之其ノ利用方法ノ如何ハ一國經濟ノ消長ニモ影響スル所勘カラザル義ニ付水ノ使用ニ關スル出願審査ニ際シテハ左記事項ニ據リ處理相成様致度

一 水ノ經濟的利用ニハ充分意ヲ用フルコト

(一) 水ノ各種利用方法相互間ノ調節ニ就テハ周到ノ注意ヲ爲スコト

(二) 水力利用ノ場合ニ於テハ水量ハ可成豐富ニ利用セシメ落差ハ可成有利ニ利用セシムルコト若シ右ニ反スル出願ヲ許可セントスル場合ニハ其ノ事由ヲ詳細説明スルコト

(三) 地方廳限リ百馬力未滿ノ水力ノ許可ヲ爲シ後ニ百馬力以上ニ變更申請ヲ爲スノ例アリ右ノ如キ地點ハ始ヨリ百馬力以上ノ設計ト爲サシムベキコト

二 電力ノ供給ヲ豐富ナラシメ且發電設備費ヲ低廉ナラシムル爲水力利用ノ計畫ハ努メテ其ノ規模ヲ大ナラシムルコト

三 電氣事業法ニ依ル電氣事業又ハ其ノ事業者ニ電氣ノ供給ヲ爲ス事業ニシテ其出願ニ係ル計畫ノ大規模ナルモノト其他ノ家用發電水力事業トノ競願ニ付テハ可成供給事業者ニ許可スルコト但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(一) 供給事業者ノ水ノ利用方法不經濟ナルトキ

(二) 供給事業者ガ既ニ充分他ニ電力ヲ發生スベキ地點ノ許可ヲ受ケ其ノ工事成功ノ時期及電力需給ノ狀況等ニ鑑ミ新水力地點ノ許可ヲ必要トセズト認ムルトキ

(三) 其ノ他特種ノ事由アルトキ

四 大規模ノ發電水力地點ノ利用ニ付近キ將來ニ於テ需要ノ見込ナキニ拘ラズ之ガ使用區域ヲ強テ一地方ニ限定セムトスルガ如キハ水力利用上甚ダ不利トスル所ナルヲ以テ當該地方ニ於テ實際ノ需要アル場合ノ外右ノ如キ制限ヲ付セザルコト

五 水力使用ノ出願アリタルトキハ直ニ調査ヲ開始シ敏活ニ之ガ處理ヲ爲スト共ニ企業ノ意思ナク單ニ權利ヲ獲ルノ目的ヲ以テ出願スルモノ及許可後數年間工事ニ著手セズ又著手スルモ毫モ工事ヲ進捗セシメザルモノニ對シテハ一層取締ヲ嚴ニスルコト

(一) 大正三年前廳府縣受理未處分事件ニ付テハ各事件毎ニ從來調査ノ經過ヲ具シ起業確否ノ意見ヲ付シ速ニ報告スルコト但シ起業不確實ナリト認メラルモノニ付テハ此ノ際不許可ノ處分ヲ爲シ其ノ結果ヲ報告スルコト

(二) 水ノ使用ニ關スル事件處分ニ際シ關係市町村會ニ諮問スル場合ハ其ノ答申ニ付相當ノ期間ヲ付シ其ノ期間内ニ答申ナキ時ハ意見ナキモノト見做シ速ニ處理スルコト

(三) 三千馬力以上ノ既許可ノ水力地點ニ付既ニ工事ニ著手シタルモノト未着手ノモノトニ分チ工事未着手ノモノニ付テハ著手期限内ノモノナルヤ否ヤ又既ニ工事ニ著手シタルモノニ付テハ其ノ工事進捗ノ程度竣功ノ見込期日ヲ取調べ可成速ニ報告スルコト

六 既許可ノ水力工事ニ關シテハ其ノ工事方法ニ付充分監督ノ實ヲ舉グルコト

○發電用水利使用事業取扱ニ關スル件(大正八年九月十九日發土第七四號各地方長官宛內務省土木局長遞信省電氣局長

通牒)

發電用水利使用ニ關スル競願事件中先願ニ對スル調査ヲ遂ゲ稟伺ヲ爲シタル後出願シタルモノ、如キ先願ニ比シ著シク後願ニ係ルモノニ付テハ大體ノ調査ヲ爲スニ止メ御意見御申出相成差支無之又右ノ如キ場合ハ六月九日電監第三〇三二號依命通牒第三項三號ニ所謂特種ノ事由アルモノトシテ御考慮相成可然候

六月九日電監第三〇三二號依命通牒第三項ニ依リ電氣供給事業者ノ出願ヲ許可セムトスル場合ニ於テ公共ノ利益トナルベキ事業又ハ之ニ準スベキ事業ニシテ獎勵ヲ要スルモノニ對シ許可ヲ受ケタルモノヲシテ電力ヲ供給セシムル必要アリト認ムルトキハ低廉ナル料金ヲ以テ所有ノ電力ヲ供給セシメ殊ニ之等ノ事業者ガ其ノ事業用ノ爲水利使用ノ競願ヲ爲シタルモ公共ノ利益ナルベキ重要ナル事業ナルニ拘ラズ小規模ナルガ爲不許可處分ナス場合ノ如キハ特ニ實費ニ近キ料金ヲ以テ供給ヲ爲サシムル等適當ナル方法ヲ講ゼラレ可然ト存候ニ付其ノ場合ニ於テハ許可命令書中ニ相當ノ規定ヲ設ケ可然御措置相成度

水利使用ニ關スル工事ニ付テハ掘鑿土砂ノ處理切取法面ノ保護山地崩壞防止ノ方法其ノ他治水上必要ナル施設ニ對シ特ニ周到ノ注意ヲ拂ヒ努メテ實地ノ監督ヲ行ヒ遺憾ナキヲ期スルト共ニ其ノ維持修繕ヲ完タカラシメ治水上障害ヲ來タスガ如キコトナカラシムル様充分御監督相成度

第六十二條 獨逸ニ國籍ヲ有セザル起業者又ハ主タル營業所ヲ獨逸帝國内ニ有セザル營利會社特許ヲ申請スルトキハ主務大臣ノ指令ヲ得テ之ヲ拒否スルコトヲ要ス

第六十三條 特許ヲ申請シ得ル起業者ノ準備ニ對シテハ一八七四年六月十一日公用徵收法第五條ヲ準用ス但シ同條ニ規定スル公示ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ所管官廳ハ特許ノ申請ニ對シテ許否ヲ決スベキ官廳トス

第六十四條 (1)特許ノ申請ニ對シテハ縣參事會(特許官廳)之ヲ決定ス

(2)特許ノ申請ハ速ニ處理スルコトヲ要ス

我國ニ於テハ河川法施行河川ナルト普通河川ナルトヲ問ハズ特許官廳ハ地方廳デアアル 蓋シ施行河川ニアリテハ河川法（第十七條第十八條但シ原則トシテ内務大臣ノ認可ヲ要スル）ニ明文ガアリ又普通河川ニ關シテハ大正七年五月二十四日ノ内務省訓令第九號ニ依ツテ其ノ訓令以外ノ事項ハ凡テ地方長官ノ職權ニ屬スベキコトヲ推知スルコトガ出來ルカラ 又明治四十二年八月七日ノ遞信省訓令第一號ニヨレバ發電ノ原動力ニ供スル水力發生ノ爲出願セル水ノ使用ヲ許可セントスルトキハ遞信大臣ニ稟伺スベキ旨ガ地方廳ニ訓令セラレテキルカラ之ニ依ツテモ地方廳ガ水利主管廳アルコトハ疑ナイ

水流ノ特別使用權ノ特許ハ主トシテ發電用ノタメニ申請セラレル 從テ我國ニ於テモ發電ノ用ニ供スル水利使用ニ關シテハ特ニ種々ノ訓令通牒ニ依ツテ河川法ノ不備ヲ補ツテキル 此等ノ訓令通牒ニ依レバ現行制度デハ水力百馬力未滿ノモノハ之ヲ地方廳ノ專決處分ニ任セ百馬力以上ノモノハ内務、遞信兩大臣ニ稟議シテ其ノ指揮ヲ受ケシムルコトニナツテキル（大正五年十二月發土第九五號内務省土木局長依命通牒及前掲遞信省訓令）其ノ限界ヲ百馬力ニ極メタノハ百馬力以上ノモノハ經濟上ノ價值大ニシテ其ノ治水及水利上ニ及ボス影響少カラザルモノアリト見タカラデアアル又遞信大臣ニ稟議セシメルノハ同大臣ガ電氣事業ノ監督權ヲ有スルタメデアツテ經濟上有益ニシテ確實ナル發電事業ノ保護獎勵ヲハカラシメデアアル

特許ノ手續ニ關シテハ大正六年三月二十日發土第一九號ノ土木局長通牒ニ基イテ各府縣ニ於テ水利使用規則、河川取締規則、土木工事取締規則等種々ノ名稱ノ府縣令デ其ノ手續ガ規定サレテキル 出願人ハ此等ノ府縣令ニ依ツテ起業ノ概要、水路工事、取水河川ノ水量測定ニ關スル事項ニ工事概算書ヲ添へ起業ト治水其ノ他公益事業等ノ關係ヲ調査シタル圖書類ヲ具シテ許可ヲ申請スルヲ要シ地方長官ハ之ヲ審査シテ其ノ意見ヲ具シ特許命令書案ヲ調製シテ主務大臣ノ認可ヲ請フコトニナツテキル

普國水法デハ此等ノ手續ガ凡テ法律ヲ以テ規定サレテキル 次條以下數條ハ即チ之ニ關スル細則デアアル

第六十五條 (1)特許ノ申請ニハ必要ナル圖面及説明書ヲ添付スルコトヲ要ス

(2)申請ガ特許スベカラザルモノナルコト明瞭ナル場合ニ於テハ理由ヲ附シタル決定ニ依リ直ニ之ヲ却下スルコトヲ得

(3)前項ノ場合ヲ除ク外特許官廳ハ特許ニ依ル水流ノ利用ノ影響スベシト認ムル市町村(又ハ大農區)ニ於テ其ノ地ノ公布例ニ依リ之ヲ公示スルコトヲ要ス町村ニ關係アル場合ニ於テハ尙ホ郡報ニ依リ之ヲ爲スベシ

(4)特許官廳ハ特許ニ依リ惡影響ヲ蒙ル虞アリト認ムル凡テノ知レタル者ノ氏名ヲ公示中ニ指示スヘシ

第六十六條 (1)公示ニハ提出セラレタル圖面及説明書ヲ閱覽シ得ベキ場所並特許ニ對スル異議ノ申立又ハ施設ノ設置若

ハ其ノ維持ノ請求又ハ補償ノ請求ヲ書面若ハ口頭ニテ爲シ得ベキ官廳ヲ指定スルコトヲ要ス尙ホ公示ニハ異議申立ノ期間ヲ定ムコトヲ要ス其ノ期間ハ二週間乃至六週間ニシテ公示ヲ掲載スル公報ノ最終發行日ノ翌日ヨリ起算ス

(2)申請人ニ於テ秘密トスルコトヲ要スル經營施設又ハ經營方法ノ説明ハ公示用ノ添付書類ト分離シ特別ノ書面及圖面ニテ提出スベシ

第六十七條 (1)公示ニハ指定期間内ニ特許ニ對シテ異議ヲ申立テザル者ハ異議申立權ヲ喪失シ特許權ノ行使ニ依リテ蒙

ムル惡影響ニ對シテハ第八十二條ニ規定セラルル請求權ノミヲ有スベキコトヲ注意スルヲ要ス

(2)前項ノ期間ハ最初ノ申請者ノ計畫スル利用ヲ妨グル處アル他ノ水流利用權ノ特許ノ申請ニ付亦適用セラルベキコトヲ公示中ニ定ムルコトヲ要ス尙ホ其ノ期間經過後提出セラレタル特許ノ申請ニ對シテハ最早同一ノ手續ニ於テハ之ヲ審査セザル旨ノ注意ヲナスベシ

(3)添付書類提出ノ爲ニハ適當ノ猶豫期間ヲ與フルコトヲ得

第六十八條 (1)第六十一條及第六十七條第二項ニ定ムル要件ヲ具備スル特許申請ガ相異ル特許官廳ニ提出セラレタルト

キハ最初ノ申請ニ對シ管轄權アル官廳之ヲ決定ス

(2)前項ノ申請ニシテ同一日ニ到達シタル場合ニハ一八八三年七月三十日地方行政法第五十八條第一項第二號ヲ準用

ス

第六十九條 (1) 特許ニ要スル法定條件ノ存否ハ特許官廳職權ヲ以テ之ヲ審査ス特許官廳ハ尙管轄警察官廳ニ代リ該水流

利用ガ警察法規ニ違反スルコトナキヤヲ審査スルコトヲ要ス

(2) 水流警察官廳其ノ他公益維持ニ關係アル官廳ノ意見ハ之ヲ尊重スルコトヲ要ス

(3) 鑛山所有者特許ヲ申請シ又ハ鑛山所有者ニ非ザル者鑛山探掘地域ニ於テ特許ヲ申請シタルトキハ管轄鑛山官廳ノ意見ヲ徵スベシ

第七十條 (1) 特許官廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ特許ノ申請(第六十一條、第六十七條第二項)之ニ對スル異議ノ

申立、施設ノ設置及維持ノ請求並賠償ノ請求ニ關シ其ノ提起者ト口頭審理ヲナスコトヲ要ス此ノ審理ハ缺席アル場合ト雖之ヲ行フベキコトヲ指示シテ起業者及異議申立人又ハ請求者ヲ召喚スルコトヲ要ス

(2) 特別ノ私法上ノ名義ニ基キ異議又ハ請求ノ提出セラレタルトキハ其ノ名義ノ有無ニ關スル爭ハ司法裁判所ノ判決ニ據ル 特許官廳ハ特許申請ニ對スル決定ヲ訴訟ノ終結スル迄延期スルコトヲ得 特許官廳ハ名義ノ存在ガ確定セラレタルトキト雖第五十條ニ依リ特許ヲ拒否スベキ場合ニ於テハ之ヲ拒否スルコトヲ得 決定ヲ延期スル場合ニ於テハ起業者ニ對シ訴訟ヲ提起スベキ期間ヲ指定スルコトヲ要ス 起業者ニ依リ訴訟ノ進行ガ不當ニ遲延セシメラレタルトキハ特許手續ハ之ヲ續行スルコトヲ得

(3) 賠償請求ニシテ損害ノ有無又ハ其ノ範圍豫見セラレザルトキハ其ノ請求ニ對スル決定ハ第八十二條ニ依ル後日ノ手續ニ留保ス 第五十三條ノ場合ニ於ケル要求ノ決定ハ其ノ法定要件ノ存在確定的ニ豫見セラレザルトキハ起業者ノ申請ニ依リ之ヲ後日ノ手續ニ留保ス

(4) 所有權取得(第五十三條)ニ對スル要求ハ第一項ニ規定スル手續ノ終結スル迄ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條 特許申請ニ對スル決定書ハ起業者、異議申立人、請求者(第七十條第一項)及關係官廳ニ之ヲ送達スベシ

特許ガ申請事項ヲ更正シ又ハ異議申立若ハ請求ヲ拒否シテ與ヘラルル場合ニハ決定書ニ其ノ理由ヲ附スルコトヲ要ス
第七十二條 特許決定書ハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

一 特許セラレタル權利及起業ノ詳細ナル記載其ノ權利ガ土地所有權ト分離スベカラザルモノナル場合（第四十六條第三項）ニハ其ノ土地ノ詳細ナル記載

二 第四十七條第二項第三項 第四十九條第一項第三項第四項 第五十條第一項及第五十五條乃至第六十條ニ依リテ定メラレタル規定

三 第六十七條第一項ノ注意ニ基キテ定メラルル權利ノ除外

四 申請拒否セラレタルトキハ第六十一條及第六十七條第二項ニ依ル申請ノ決定

五 第七十條第二項ニ依リ裁判所ノ判決ヲ受クベキ争ノ表示

六 異議申立及請求ニ關スル決定及第七十條第三項ノ場合ニ於テハ決定ノ留保

七 第五十三條ノ場合ニ於テハ起業者ニ於テ其ノ所有權ヲ取得スル義務アル土地又ハ工作物ノ詳細ナル記載

八 起業者ノ給付スベキ損害賠償ノ確定

第七十三條 堰水權 *Faunpacht* ノ特許ノ場合ニ於テハ決定書ハ尙ホ左ノ各項ヲ具備スルコトヲ要ス

一 流量又ハ水ノ自然ノ疏通ニ影響アル工作物ノ構造ニ關スル規定

二 貯水時間ニ關スル規定

三 確定セラレタル堰水高 *Stauhöhe*（貯水面ノ最高水位）及水面ヲ一定ノ水位以上ニ維持スベキ場合ニ於テハ其ノ

最低水位ニ關スル規定

四 使用水量ノ制限ヲ必要トスルトキハ之ニ關スル規定

五 堰水ノ惡影響ヲ防止スル爲必要ナル方法ニ關スル規定

六 必要ナル場合ニ賠償請求權ナクシテ經營ノ停止ヲ受忍スベキ時間ニ關スル事項(第百二條第二項)

七 必要アル場合及第百六條ノ貯水地ニ關スル場合ニ於テハ堰堤ノ經營ヲ休止シ若ハ之ヲ除却シ得ルヤ否ヤ及其ノ休止又ハ除却ノ條件ニ關スル事項(第九十九條第三項)

第七十四條 起業者特許決定ニ基キ第五十三條ニ依リ土地ヲ取得スベキ義務ヲ負フトキハ特許官廳ハ遲滯ナク土地登記簿官廳ニ其ノ義務ニ關スル附記ノ登記ヲ請求スベシ此ノ附記ハ土地登記簿ノ公信力ニ關シ起業者ノ所有權移轉ノ請求權ヲ確保スル豫備登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第七十五條 特許手續ニ要スル費用ハ起業者ノ負擔トス 但シ理由ナキ異議申立又ハ請求ニ依リ生ジタル費用ハ特許申請ノ決定ニ於テ其ノ提出者ニ之ヲ課スルコトヲ得

第七十六條 (1)特許決定ニ對シテハ起業者ノ給付スベキ賠償ニ關スル場合ヲ除キ起業者又ハ其ノ他ノ當事者(第七十一條)(二週間以内ニ中央水流官廳 *Saundeswasserrat* (第九章)ニ訴願スルコトヲ得

(2)特許決定ニ於テ起業者ノ給付スベキ賠償ヲ定メタル場合ニ於テハ之ニ對シ三月以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ期間ハ起業者ニ對シテハ特許決定ノ效力發生シタル日 其ノ他ノ利害關係人ニ對シテハ特許決定ニ關スル特許官廳ノ通知到達シタル日ヨリ之ヲ起算ス起業司法裁判所ニ出訴シタルトキハ第一審ノ費用ハ起業者ノ負擔トス

第七十七條 (1)特許權ノ行使ハ前條第二項ニ依ル出訴權ガ期間ノ經過、放棄若ハ確定判決ニ依リ起業者ニ對シテ終結シタルトキ又ハ第五十一條乃至第五十三條ニ依ル協議若ハ確定賠償ヲ給付若ハ供託シタルコトノ證明セラレタルトキニ非ザレバ之ヲ開始スルコトヲ得ズ定期給付ニ依リ賠償ヲ爲スベキトキ(第五十一條第二項)ハ次ノ三年間ニ對スル額ヲ供託スルヲ以テ足ル

(2)起業者ノ申請アルトキハ特許決定ニ於テ又ハ特許決定ノ補充決定ニ於テ又ハ訴願手續ニ於テ特許申請人官廳ノ定ムル擔保ヲ供託スルトキハ終局決定前ト雖其ノ申請シタル水流ノ利用ヲ爲シ得ベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

(3) 國及地方團體ハ擔保ヲ供スルコトヲ要セズ

(4) 第一項及第二項ニ依リ權利ノ行使ヲ爲シ得ル場合ノ外其ノ行使ヲ爲シタルトキハ水流警察官廳ハ其ノ行使ノ停止及設置シタル工作物ノ除却ヲ命ズルコトヲ得

第七十八條 (1) 第五十三條ノ場合ニ於テ前條第一項ノ條件完備シタルトキハ特許官廳ハ遲滞ナク土地登記簿官廳ニ對シ土地所有權移轉ノ登記ヲ爲スコトヲ求ムベシ所有權ノ移轉ハ登記ニ依リテ完成ス

(2) 起業者ノ所有ニ移レル土地ガ第三者ノ權利ヲ負擔シ又ハ封地組合 世襲財產組合 世襲地組合若ハ使用貸借組合ニ屬スルトキハ民法施行法第五十二條及第五十三條第一項並一八七四年六月十一日公用徵收法第四十七條ヲ準用ス

第七十九條 起業者ニハ特許狀 *Verleihungsurkunde* ヲ附與ス特許狀ニハ特許セラレタル權利及其ノ起業ヲ記載スルコトヲ要ス必要アルトキハ認可ヲ經タル説明書及圖面ヲ之ニ添付スベシ

第八十條 (1) 特許狀ハ左ノ稅率ニ依リ印紙稅ヲ負擔ス

特許權ノ價值

千馬克以下ノトキ

一馬克

千馬克以上

五千馬克以下ノトキ

五馬克

五千馬克以上

一萬馬克以下ノトキ

十馬克

一萬馬克以上

二萬馬克以下ノトキ

二十馬克

二萬馬克以上

五萬馬克以下ノトキ

五十馬克

五萬馬克以上

七萬五千馬克以下ノトキ

七十五馬克

七萬五千馬克以上

十萬馬克以下ノトキ

百馬克

十萬馬克以上ハ五萬馬克ヲ増ス毎ニ五十馬克ヲ加フ

(2) 水流利用ノ爲必要ナル施設ノ認可ガ一九〇九年六月三十日印紙税法ノ稅表第二十二ニ依リ印紙稅ヲ要スルトキハ兩課稅中高額ノモノヲ徵收ス

(3) 期限伸長ノ場合(第六十條第二項)ニ於テハ前二項ニ依ル印紙稅ノ四分ノ一ヲ徵收ス但シ一馬克ヲ下ルコトヲ得ス

(4) 起業ガ公共ノ利用ヲ目的トスル場合ニ於テハ印紙稅ハ之ヲ徵收セズ但シ印紙稅法ノ稅表第二十二ニ依ル納稅義務ハ此ノ限ニ在ラズ

(5) 印紙稅法ノ規定ハ之ヲ準用ス

第八十一條 (1) 特許セラレタル權利ニ關スル爭ハ司法事件トス所有權ニ基ク請求權ニ關スル規定ハ之ヲ準用ス權利ハ起業ト分離スルコトヲ得ズ起業ト共ニ權利承繼人ニ移轉スルモノトス

(2) 權利ガ土地所有權ニ附屬スルモノナルトキ(第四十六條第三項)ハ之ト分離スルコトヲ得ズ土地所有權及起業ト共ニ權利承繼人ニ移轉スルモノトス 此ノ權利ハ申請ニ依リ其ノ土地ノ土地登記簿ニ附記ス 土地ガ分割セラレタル場合ニハ特許セラレタル權利ハ其ノ行使ニ付利益ヲ受ケザル部分ニ對シ消滅ス

第八十二條 (1) 特許セラレタル權利ノ行使ニ依リ損害ヲ蒙リタル者ハ其ノ行使ノ停止又ハ施設ノ除却ヲ請求スルコトヲ得ズ 但シ第五十條乃至第五十五條ニ依リ損害ヲ防止スベキ施設ノ設置及維持ヲ請求スルコトヲ得 斯カル施設ニシテ起業ト兩立セズ又ハ經濟上相當ナラザル場合ニ於テハ賠償ヲ請求スルコトヲ得 但シ第六十六條第一項ニ規定スル期間經過前其ノ損害ヲ豫見シ若ハ豫見シ得ベカリシニ拘ラズ期間經過前特許ニ對シ異議ヲ申立テズ又ハ施設ノ設置若ハ賠償ノ請求ヲ爲サザリシ場合ハ此ノ限ニ在ラズ 天災其ノ他避クベカラザル事由ニ依リ期間ヲ遵守スルコトヲ得ザリシ旨説明スルトキハ期間經過後ト雖請求ヲ爲スコトヲ妨グズ

(2) 請求權ノ消滅時効ハ被害者ガ損害アリシコトヲ知リタル時ヨリ三年トス請求權ハ又起業者ガ特許セラレタル權利ヲ

行使シタル年ノ翌年ヨリ三十年間之ヲ行使セザルコトニ因リ消滅ス

(3) 請求ノ決定ハ特許官廳之ヲ行フ第七十條第二項第一文第二文第七十一條及第七十六條ハ之ヲ準用ス第七十條第三項ノ場合亦同ジ第七十條第三項後段ノ場合ニ於テハ第七十八條ヲ準用ス

第八十三條×水流警察官廳ハ起業者ヲシテ特許條件ヲ履行セシムベシ

第八十四條 (1) 公益上重大ナル不利又ハ危険アル場合ニ於テ國、地方團體其ノ他ノ公共團體又ハ水流警察官廳ノ請求アルトキハ特許官廳ハ何時ニテモ其ノ決定ニ依リ起業者ニ補償シテ特許ヲ取消シ又ハ制限スルコトヲ得此ノ取消又ハ制限ニシテ公共團體若ハ其ノ團體員ノ利益トナル場合ニ於テハ公共團體若ハ其ノ團體員ハ利益ヲ受クル限度ニ於テ手續費用及補償額ヲ負擔スルコトヲ要ス其ノ他ノ場合ニ於テハ國之ヲ負擔ス

(2) 前項ノ決定ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス利害關係人ハ第七十六條ニ定ムル訴訟方法ヲ取ルコトヲ得

(3) 特許セラレタル權利ガ土地所有權ト分離スベカラザル場合(第四十六條第三項)ニ於テ其ノ土地ガ第三者ノ權利ヲ負擔シ又ハ封地組合、世襲財産組合、世襲地組合若ハ使用貸借組合ニ屬スルトキハ民法施行法第五十二條及第五十三條第一項並一八七四年六月十一日公用徵收法第四十七條ヲ準用ス

(4) 第一項ニ依リ補償義務アル者ハ虛偽ノ證明ニ依リテ特許ヲ得タル者ニ對シ民事訴訟ニ依リ補償金及費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

河川法第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命ジ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生ズル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ
二 河川ノ情況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生ズルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事使用若ハ使用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ
 四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生ズルトキ
 五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲必要アルトキ

第八十五條 (1)左ノ場合ニ於テ水流警察官廳ノ申請アルトキハ特許官廳ハ其ノ決定ニ依リ無償ニテ特許ヲ取消スコトヲ得

一 特許ヲ得ルニ付起業者ノ爲シタル立證ノ重要ナル點ニ虛偽アリ且其ノ特許ニ依リ公益上重大ナル不利又ハ危險ヲ招キタル場合但シ善意ノ第三取得者及其ノ承繼人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

二 起業者特許セラレタル權利ノ行使ヲ廢止シ又ハ其ノ權利ニ基キ設置シタル施設ヲ除却シ若ハ休止シタルトキ

三 特許セラレタル權利ノ行使ガ起業ニ不用又ハ過冗トナリタル場合

四 水流警察官廳ノ催告アルニ拘ラズ起業者其ノ義務ニ屬スル重要ナル條件ヲ履行セザルコト數回ニ及ビ又ハ起業ノ著手若ハ經營開始ニ付定メタル期限ヲ遵守セザルトキ

(2)特許ノ取消サレタルトキハ其ノ手續費用ハ起業者之ヲ負擔シ取消サレザルトキハ申請者之ヲ負擔ス

(3)特許官廳ノ決定ニハ理由ヲ附スベシ其ノ決定ニ對シテハ起業者又ハ申請ノ拒否セラレタル場合ニ於テハ其ノ申請者ニ於テ第七十六條第一項ニ依リ訴願スルコトヲ得

(4)特許ノ取消サレタルトキハ水流警察官廳ハ無償ヲ以テ起業者ヲシテ施設ノ惡影響ニ對シ適當ナル防禦方法ヲ講ゼシメ又ハ施設ヲ除却シテ原狀ヲ回復セシムルコトヲ得

○河川法第二十二條 法律命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命ズル所ニ從ヒ其ノ違背ニ依リテ生ジタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生ズル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスベシ

第八十六條 (1) 第四十六條第一項ニ規定スル水流利用權ニシテ本法ノ規定ニ依リ水流所有者ノ資格ニ於テ之ヲ有シ又ハ

本法施行ノ際現存シ第三百七十九條乃至第三百八十一條ニ依リテ存續スルモノナルトキハ權利者ハ其ノ權利ヲ特許官廳ノ決定ニ依リ確保セラレムコトヲ要求スルコトヲ得

(2) 第四十六條第三項 第四十七條第一項 第三項 第四十八條 第四十九條 第六十四條乃至第七十三條 第七十五條 第七十六條及第七十九條乃至第八十五條ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス第八十條第一項ニ付亦同ジ但シ印紙稅ハ同項規定ノ率ノ四分ノ一ヲ徵收ス其ノ額ハ一馬克ヲ下ルコトヲ得ズ

(3) 本條ノ規定ニ依リテ確保セラレタル權利ハ特許セラレタル權利ト同一ノ效力ヲ有ス

第五項 調 停

本法ハ水量ノ減少其ノ他ノ原因カラ現存ノ水量デハ凡テノ利用權者ノ需要ヲ満足スルコトノ出來ヌ場合及數箇ノ利用權者ガ其ノ利害ノ相反スルタメ互ニ衝突スル場合ニ關シテ利用者間ノ權利ノ競合ヲ調停スルタメニ第八十七條以下ニ特別ノ手續ヲ定メテキル

第八十七條 (1) 第四十六條第一項ニ規定スル方法ニ依リ數人ノ權利者水流ヲ利用スル場合ニ於テ水量充分ナラザルトキ

又ハ相異ナル利用方法ガ互ニ他ヲ排斥スル時ハ各權利者ハ使用水量 時間及方法ヲ調停手續ニ依リテ規律セラレム事ヲ申請スルコトヲ得但シ之ニ因リテ得ラルベキ總利益ガ損害ヲ著シク超過セザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

(2) 調停ハ各利害關係人ノ利益ニ公平ニ適合シ且一般使用ノ要求ヲ考慮シテ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ利害關係人ノ受クル損害ハ其ノ受クル利益ニ依リ償ハレザル限度ニ於テ賠償セラルル利害關係人ハ其ノ評價利益ノ割合ニ應ジ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

(3) 公用徵收ニ依リ取得セラレタル權利ハ其ノ權利者ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ賠償ニ用フルコトヲ得ズ

第八十八條 (1) 權利者ノ施設ヲ變更スルコトニ依リ調停ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ利害關係人ノ申請ニ應ジ權利者自ラ其

ノ變更ヲ行ヒ又ハ經營ニ妨ゲナキ限リ其ノ變更ヲ受忍スベキコトヲ調停手續ニ於テ定ムルコトヲ得

(2)申請者ハ其ノ變更ニ要スル費用ヲ負擔シ且經營休止ニ因リテ生ズル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス施設ノ變更ニ依リテ

經營維持ノ費用ヲ加重シタルトキハ之ニ因リテ生ズル利益ニ依リ償ハレザル限度ニ於テ賠償セラルルモノトス

第八十九條 調停手續ニ關シテハ左ノ規定ニ據リ尙第六十四條 第六十五條第一項第二項 第六十九條乃至第七十一條

第七十六條及第七十七條ヲ適用ス

一 各利害關係ニ對シ其ノ利用權ノ將來ノ行使ニ付必要ナル規定ヲ定ムベシ特ニ現存スル水ニ付テノ持分其ノ使用時
間 堰水高及遵守スルコトヲ要スル制限及負擔ニ關シ必要ナル決定ヲ爲スベシ

二 調停手續ニシテ繫屬中ノ特許手續ト關係アルモノハ之ト併合スルコトヲ得

第九十條 調停手續ノ費用ハ利害關係人其ノ評價利益ノ割合ニ應ジテ之ヲ負擔ス

第六項 堰水設備 *Stauanlagen* (堰堤)

水流利用ノ種類ノ中、水ノ堰止工事殊ニ貯水設備ハ公安公益及個人ノ水流利用特權ト密接ト關係ノアルモノデアラカラ
本法ハ之ニ付テ特ニ詳細ナ規定ヲ設ケタ 但シ單ニ一時水ヲ堰止ムル目的ヲ有スルニ止マルモノハ本法ノ所謂堰水工事
デハナク從ツテ水流利用ノ一般ノ規定ノ支配ヲ受ケルノデアル

第一目 總 則

第九十一條 水ノ疏通ヲ遮シテ水位ヲ高メ又ハ水ノ貯溜ヲ目的トスル水流中ノ工作物(堰堤)ニ對シテハ一時的目的
ノ爲ニ設ケラルルモノヲ除ク外次條以下ノ特別規定ヲ適用ス

第九十二條 (1)特許ニ依リ又ハ營業警察ノ許可ニ依リ施設セラルル堰水設備ニハ少クトモ一箇ノ堰堤標 *Stauwehrmark* ヲ設

置スルコトヲ要ス堰水標ニハ夏冬ヲ通ジテ守ラルベキ堰水高 *Stauhöhe* (貯水面ノ最高水位) 及一定水位以上ノ貯

水ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ最低水位ヲ明記スベシ

- (2) 堰水高ヲ定ムル點ハナルベク確實不變ナル定點ニ準據シテ定メラルルコトヲ要ス
- (3) 水流警察官廳ハ堰水標ヲ設置シ且之ニ關スル證書ヲ作製スルコトヲ要ス堰堤起業者其ノ他ノ關係人ハ其ノ設置ニ關與スルモノトス

(4) 堰水標ノ設置ニ關シテハ唯監督官廳ニ訴願スルコトニ依リテノミ之ヲ爭フコト得

(5) 水門及之ニ類スル閉鎖裝置ノ上端ハ堰水標ニ許サレタル貯水面ノ最高水位ヲ超ユルコトヲ得ズ

第九十三條

(1) 本法施行當時既ニ存在シタル堰堤及特許又ハ營業警察ノ許可ヲ要セザル堰堤ニ對シテハ關係人ノ申請アルトキハ堰水權及堰水高ニ付爭ナキ限り前條ニ依リ堰水標ヲ設置スベシ但シ申請人ガ堰水權者ニ非ザル場合ニ於テハ堰水權ノ行使ニ依リ不利益ヲ蒙リタルコトヲ疏明スルコトヲ要ス堰水標ハ又職權ニ依リ之ヲ設置スルコトヲ得

(2) 特許ヲ要セザル堰堤又ハ營業法第十六條ニ於ケル水力機關ノ爲ニスルニ非ザル堰堤ニ於テ堰水權ノ存在ニ付テハ爭ナキモ堰水高ニ付テハ別段ノ定ナキコト關係人一同ノ認ムル所ナルカ若ハ訴訟ニ依リ別段ノ定ナキコト確定セラレタル場合ニ於テハ關係人ノ申請ニ依リ郡參事會(市參事會)ハ堰水權者ノ關係土地所有者及其ノ他ノ堰水權者ノ利害ヲ平均セシムル如ク公平ニ水量ヲ確定スルコトヲ要ス

- (3) 堰水高ニ關スル訴訟ノ繫屬中又ハ前項ニ依ル手續ノ繼續中關係人ノ申請アルトキハ郡參事會(市參事會)ハ使用水量ヲ假ニ定ムルコトヲ得此ノ定ハ繫屬中ノ訴訟又ハ前項ニ依ル手續ニ依リテ使用水量ノ決定セララル迄其ノ準則トナル

第九十四條

(1) 堰水權者及堰堤經營者ハ堰水標ノ維持見易キコト、接近シ得ベキコト及第九十二條第二項ニ規定スル定點ニ付注意スルコトヲ要ス堰水標及定點ノ毀損若ハ變更アルトキハ遲滯ナク之ヲ水流警察官廳ニ告知シ其ノ公ノ檢査ニハ無償ニテ夫役ヲ供スルコトヲ要ス

(2) 堰水標及定點ニ影響ヲ與フル行爲ハ水流警察官廳ノ許可アルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ堰水標ノ維持修繕又ハ

更正ニ對シテハ第九十二條第三項及第四項ヲ準用ス

第九十五條 (1) 堰水標ノ設置又ハ移轉手續ノ費用ハ堰水權者ノ負擔トス但シ理由ナキ申請又ハ異議申立ニ依リ生ジタル費用ハ申請者又ハ異議申立人ノ負擔ニ歸セシムルコトヲ得

(2) 堰水標ノ維持修繕費ハ堰水權者ノ負擔トス

(3) 費用ノ決定ニ對シテハ監督官廳ニ訴願スルノ外ナシ

第九十六條 堰水權者及堰堤經營者ハ水ノ疏通ニ付必要ナル凡テノ設備ヲ規則正シク維持シ殊ニ水ヲ浪費シテ他ノ權利者ニ不利益ヲ與フルコトナカラシムルヲ要ス水流警察官廳ハ之ニ付強制命令權ヲ有ス

第九十七條 (1) 堰堤ガ其ノ構造ノ不備ナルニ因リ洪水ヲ惹起シ因リテ他人ニ損害ヲ與フル危險アル場合ニ於テ其ノ危險ガ堰堤ノ改築又ハ補強工事ニ依リ給付能力ヲ減ズルコトナク除却又ハ輕減セラルルトキハ申請權者ノ申請ニ依リ堰水權者ヲシテ改築又ハ補強工事ヲ爲サシムルコトヲ得

(2) 申請權者ハ水流ノ維持義務者及其ノ他ノ關係人トス

(3) 改築費ハ堰水權者 水流維持義務者其ノ他ノ利害關係人其ノ受益ノ割合ニ應ジ之ヲ分擔ス

(4) 改築中經營休止ノ爲堰水權者ノ蒙ムルベキ損害ハ之ヲ費用ニ合算ス改築ニ因ル維持費ノ増加ニ付亦同ジ堰堤維持費改築若ハ補強工事ニ依リ輕減セラルル場合ニ於テハ其ノ利益ハ費用中ヨリ之ヲ控除ス

(5) 改築若ハ補強工事ノ件及方法ニ付又ハ補償若ハ擔保提供ノ價額ニ付又ハ給付セラレタル擔保ヨリ工事費ヲ支拂フコトニ付又ハ此ノ擔保ヲ關係人ニ分配スルコトニ付又ハ改築完成ノ期間ニ付爭アルトキハ縣參事會ハ凡テノ利益不利益ヲ公平ニ調和セシメテ之ヲ決定ス

(6) 此ノ決定ニ對シテハ關係人ハ第七十六條ニ規定スル訴願又ハ訴訟ヲ爲スコトヲ得

(7) 水流警察官廳ハ其ノ決定ニ依リ堰水權者ニ課シタル負擔金ヲ強制徴收スルコトヲ得

第九十八條 (1)前條ノ場合ニ於テ公益上重大ナル不利益若ハ危險ノ存スルトキハ水流警察官廳ハ監督官廳ノ指令ニ依リ

堰堤ノ改築又ハ補強工事ヲ職權ヲ以テ爲サシムルコトヲ得

(2)其ノ他ノ場合ニ於テハ前條ニ據ル但シ關係人ノ利益ヲ超ユル部分ノ費用ハ國ノ負擔トス

第九十九條 (1)堰水標ノ設備アル堰堤ハ水流警察官廳ノ許可アルニ非ザレバ引續キ其ノ經營ヲ休止シ又ハ之ヲ除却スル

コトヲ得ズ

(2)前項ノ許可ハ堰堤ノ經營休止又ハ除却ニ因リ他ニ損害ヲ與フル場合及堰水權者ノ選擇ニ從ヒ堰堤維持費ヲ補償シ又

ハ之ニ代リテ堰堤ヲ維持スル義務ヲ負フ者アル場合ノ外之ヲ拒ムコトヲ得ズ此ノ者ハ又堰水權者ニ對シ其ノ他ノ不

利益ヲ補償シ及其ノ義務履行ノ爲擔保ヲ供スル義務ヲ負フコトヲ要ス堰堤維持ノ爲堰水權者ニ補償セラルベキ費用

額ニ付又ハ其ノ他ノ賠償及擔保ノ提供ニ付爭アルトキハ縣參事會之ヲ決定ス 縣參事會ノ決定ニ對シテハ關係人ハ

二週間以内ニ中央水流官廳ニ訴願スルコトヲ得 水流警察官廳ハ堰水權者ノ申請ニ依リ第一文及第二文ノ義務ヲ履

行スルニ要スル期間又ハ許可ノ與ヘラルル期間ヲ定ムルコトヲ要ス 決定セラレタル期間ハ之ヲ公告スベシ、公告

ノ方法ハ水流警察官廳之ヲ定ム 國及地方團體ハ擔保ヲ提供スルコトヲ要セズ

(3)特許ニ依リ設置セラルル堰堤ニ對シテハ特許決定ニ別段ノ定ナキ限り前二項ヲ適用ス

第一百條 他人ノ土地又ハ工作物ニ危險若ハ不利益ヲ及ボシ水ノ使用權行使ヲ侵害シ又ハ水流ノ維持ヲ困難ナラシムル虞アルトキハ堰止メラレタル水ヲ突然流出セシムルコトヲ得ズ

第一百一條 (1)堰堤ハ之ニ依リテ堰水高以上ニ水ヲ堰止ムルコトヲ得ズ

(2)水若シ堰水高ヲ越ユルトキハ起業者ハ前條ノ制限内ニ於テ堰堤ノ可動部ヲ開キ及總テノ障礙物(發動機、水、漂石

其ノ他之ニ類スルモノ)ヲ除去シテ水ノ疏通ヲ計リ水ノ再ビ堰水高ニ低下スル迄ハ無償ニシテ即刻且間斷ナク放水

スルコトヲ要ス洪水ノ虞アルトキハ水流警察官廳ハ起業者ニ對シ無償且即刻堰止メラレタル水ヲ特許若ハ許可手續

ニ於テ又ハ警察官廳ニ依リテ定メラレタル程度迄放流セシメ水位ヲ洪水トナラザル高サニ保ツ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

(3) 水面ヲ一定水位以上ニ維持スルコトヲ要スル場合ニ於テハ堰止メラレタル水ハ其ノ水位以下ニ低下セシムルコトヲ得ズ若シ夫レ以下ニ低下シタルトキハ再ビ其ノ高サニ達スル迄水ノ疏通ヲ中止スルコトヲ要ス

(4) 此ノ規定ノ實施ニ關シ必要ナル命令ハ水流警察官廳之ヲ發ス緊急ノ場合ニ於テハ地方警察官廳之ヲ發スルコトヲ得

第二百二條 (1) 堰堤ノ可動部ヲ開キ又ハ閉ヅルコトガ水流ノ維持ヲ著シク容易ナラシムル場合ニ於テハ堰堤經營者ハ水流警察官廳ノ命令ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

(2) 前項ノ命令ニ依ルトキハ其ノ經營ノ妨害セラルル場合ニ於テ其ノ妨害ガ特許決定ニ於テ定メラレタル時間(第七十三條第六號)以上ニ亘ルトキ又ハ特許決定ニハ時間ノ定メナキモ特ニ其ノ妨害甚シキトキハ堰水權者ハ補償ヲ請求スルコトヲ得

(3) 水流維持義務者ハ此ノ補償ヲ爲スノ義務ヲ負フ

第二百三條

(1) 堰水權ヲ適法ニ行使シタルニ拘ラズ堰水高以上ニ水位ノ上リタル爲氾濫シ他人ノ土地若ハ工作物ニ不利益

ヲ及ボシタルトキハ被害者ノ申請ニ依リ堰水權者ハ他人ノ土地又ハ水流ニ對スル惡作用ヲ除ク爲必要ナル制限ヲ命ゼラルルコトアルベシ但シ之ニ依リテ堰水設備ヲ變更シ又ハ堰水權ノ行使ヲ妨ゲラルルコトナシ

(2) 申請者ハ堰水權行使ノ惡影響ヲ防グ爲必要ナル處置ヲトルコトヲ要ス申請者ハ堰水權者ノ要求ニ依リ擔保ヲ供スルコトヲ要ス國及地方團體ハ擔保ヲ提供スルコトヲ要セズ

(3) 本條ノ手續ニ關シテハ第六十四條 第六十五條第一項第二項 第六十九條 第七十一條 第七十五條本文及第七十六條第一項ヲ準用ス

第四百條 (1) 國並公共團體十萬立方米以上ノ貯水量ヲ有スル堰水設備ヲ施設スルトキハ建設資本ノ償却費及相當利息ヲ

包含スル該設備ノ經營維持費ニ對シ水ノ疏通狀態ノ改善ニ依リテ利益ヲ受クル水流利用權者ヨリ相當ノ補助金ヲ納付セシムルコトヲ得補助金ハ受益ノ割合ニ應ジテ之ヲ定ム

(2) 爭アルトキハ縣參事會行政訴訟ニ於テ之ヲ決ス

(3) 堰水設備ガ水利組合ニ依リテ經營セラルル場合ニ於テハ第二百三十六條及第二百四十二條ヲ適用ス

(4) 第一項及第二項ノ規定ハ一九〇〇年七月三日しゆれじや州ニ於ケル洪水防禦ノ處置ニ關スル法律ニ依リテ設ケラレタル貯水池ニ準用セラル

第二百五條 工業用水ガ機關ノ爲ニスル堰水設備ニ對シ堰水權ノ特許必要ナラザルトキハ帝國營業法第七十三條第二號及

第三號ノ許可手續準用セラル堰水權ノ存在明ナルモ堰水高ニ付別段ノ規定ナキコトニ爭ナキ場合又ハ訴訟ニ依リテ別段ノ規定ナキコト確定セラレタル場合ニ於テハ水量ハ許可官廳ニ於テ第九十三條第二項ノ原則ニ依リテ之ヲ定ム

第二目 貯水池 *Talsperren*

第二百六條 堰堤ノ高サ水低ヨリ最頂部迄五米以上ニシテ最頂部迄水ヲ充滿セシムルトキハ十萬立方米以上ヲ湛水セシメ得ル貯水池ニ付テハ次條以下ノ諸規定ヲ適用ス

第二百七條 (1) 貯水池ハ全施設 其ノ構造 維持及經營ニ關スル詳細ナル説明並他人ニ對スル不利益及危險ヲ防止シ得ル凡テノ設備ニ關スル説明ヲ記載セル目論見書ヲ提出スルニ非ザレバ之ヲ設置スルコトヲ得ズ特許又ハ營業警察ノ許可ヲ要セザル貯水池ノ目論見書ハ縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

(2) 貯水池ノ重大ナル變更ニ付亦同ジ

(3) 前二項ノ規定ハ一九〇〇年七月三日しゆれじや州ニ於ケル洪水防禦ノ處置ニ關スル法律ニ依リ設ケラレタル貯水池ニ之ヲ準用ス

第百八條

(1) 貯水池ハ縣知事ノ監督ニ服ス縣知事ハ特ニ構造及維持經營ガ目論見書ニ從ヒテ行ハルルコトニ注意スルヲ要ス目論見書ノ實施後ト雖下流ニ在ル土地ノ危險防止ノ爲必要ト認ムル保全處分ハ之ヲ起業者ニ命ズルコトヲ得

(2) 監督費用ノ補償トシテ起業者ヨリ手數料ヲ徵スルコトヲ得其ノ額ハ縣知事之ヲ定ム

第百九條

一九〇〇年七月三日ノ法律ノ施行區域ニ在リテハ前二條ノ規定ハ洲知事、縣知事ニ代リテ之ヲ行フ

第百十條

(1) 縣知事 水流又ハ其ノ附近ノ形狀ガ堰堤破壞ノ場合ニ重大ナル危險ヲ生ズル虞アリト認定シタルトキハ第百六條記載以外ノ堰水設備ニ對シテモ第百七條及第百八條ヲ適用ス此ノ認定ハ官報及其ノ他ノ公布例並郡ノ關係セルトキハ郡報ニ依リ之ヲ公告ス之ニ對シテハ監督官廳ニ訴願スルノ外ナシ

(2) 經營開始後ニ至リ前項ノ規定ヲ適用セララル堰水設備ニ對シテハ第九十七條ノ處置ノミ第九十七條及第九十八條ニ依リ要求スルコトヲ得

第百十一條

(1) 起業ガ數箇ノ府縣又ハ洲ニ關係スルトキハ第百七條及第百八條ニ規定スル事項ヲ監督スベキ縣知事ハ前ノ場合ニ在リテハ洲知事 後ノ場合ニ在リテハ農林務大臣之ヲ任命ス

(2) 貯水池ガ水利組合ニ依リテ維持經營セララルトキハ其ノ組合ヲ監督スル縣知事之ガ管轄權ヲ有ス

第百十二條

第百七條及第百八條ニ規定スル縣知事ノ決定ニ對シテハ二週間以内ニ於テ第一種水流ニ付テハ土木大臣ニ其ノ他ノ水流ニ付テハ農林務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四節 水流及沿岸ノ維持

本法ハ本節ニ於テ水流ヲ自然ノ性質ニ適合スル效用ヲ全カラシメンガ爲其ノ維持ノ方法ヲ定メ次ノ二節ニ於テ第一種及第二種自然水流ノ經濟上ノ效用ヲ助長セシムルタメ其ノ改修(改良工事)ニ關スル規定ヲ設ケタ 而シテ水流及沿岸ノ維持ハ公法上ノ義務トセラレ其ノ改修ハ義務タルト同時ニ權利ナリトセラレテキル 故ニ水流及沿岸ノ維持ハ主トシテ義務ノ方面ヨリ規定セララルルニ反シ改修ハ權利ノ方面ヨリ規定セラレ各個ノ場合ニ於テ何人ガ改修ノ義務ヲ負フカハ法

律之ヲ明定セズ唯第二種自然水流ノ改修ニ關シテハ水流警察官廳ノ命令アルトキハ水流維持義務者ハ之ヲ爲サルベカラザルモノトシテキル（第七十六條）

反之我國ニ於テハ河川ノ維持及改修ハ何レモ地方行政廳ノ義務トセラレ（河川法第七條）特別ノ場合ニ於テノミ例外ガ認メラレテキル（河川法第六條但書 第七條但書 第八條第一項 第九條 第十條第一項 第十一條第一項參照）

又河川法ニ於テハ一般ニ河川ニ關スル工事ト云フ言葉ヲ使ツテキルガ本法ハ河川ニ關スル工事ヲ維持工事ト改良工事トニ分チ前者ニ關スルモノハ本節ニ於テ規定シ後者ニ關スルモノハ之ヲ次節ニ讓ツテキル

第百十三條 (1)本法ニ規定セラレタル水流及沿岸ノ維持義務ハ本法ニ別段ノ定アル場合ノ外濫ニ廢止變更スルコトヲ得ザル公法上ノ義務トス 本法施行當時存在セル水流及沿岸ノ公法上ノ維持義務ノ中本法ニ於テ認メラザルモノハ消滅ス

(2)維持義務ニ關シ合意成立スルトキハ私法的效果ヲ生ズルモノトス

第百十四條 (1)維持トハ第一種水流ニ於テハ通航可能性ノ保持及灌溉排水ノ保全ヲ意味シ其ノ他ノ水流ニ於テハ灌溉排水ノ保全ヲ意味ス

(2)第一種人工水流ハ灌溉排水用ニ供セラレタル範圍ニ於テ灌溉排水ノ利益ヲ保全セラルルモノトス

(3)通航可能性ノ保持ハ公ノ船舶航通用ニ供セラルル航路ニ限ル特別ノ航路ハ之ヲ包含セズ

(4)水流ガ官廳ニ依リテ確定セラレタル計畫（第六十八條）ニ基キ改良工事ヲ施サレタル場合ニ於テハ維持ハ其ノ改修状態ヲ維持スルコトヲ包含ス 但シ第一種水流ニ於テハ土木大臣 其ノ他ノ水流ニ於テハ農林務大臣、水流顧問ノ意見ヲ聞キ此ノ状態ノ維持ヲ不要ト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百十五條 (1)水流維持義務者左ノ如シ

一 第一種自然水流ニ於テハ國

二 第二種自然水流ニ於テハ其ノ目的ノ爲設立セラレタル水利組合

三 第三種自然水流及

四 人工水流ニ於テハ水流所有者又ハ水流所有者不明ナルトキハ沿岸地所有者

(2) 第二種自然水流ハ水利組合ノ設立セラルル迄ハ從來ノ義務者之ヲ維持スベキモノトス

(3) 維持義務者以外ノ者官廳ニ依リテ確定セラレタル計畫ニ基キ水流ニ改良工事ヲ施シタルトキハ其ノ將來ノ維持ハ前條第四項ニ依リ起業者之ヲ負擔ス 但シ從來ノ義務者ト雖起業者ト合意ノ上水流警察官廳ノ許可ヲ得ルトキハ其ノ維持ヲ引受クルコトヲ得

第一百十六條 (1) 第二種自然水流ガ從來ノ維持義務者ニ依ルモ水利組合ニ依ルト等シク適當ニ維持セラレ得ルトキ又ハ水利組合ヲ組織スルモ何等ノ公益上ノ利益ナキトキハ其ノ組織ヲ中止スベキモノトス

(2) 前項ノ水流ガ水利組合ニ依ルト等シク市町村其ノ他ノ公共團體ニ依リ適當ニ維持セラレ得ルトキハ縣知事ハ其ノ公共團體ノ同意ヲ得テ之ニ其ノ維持義務ヲ負擔セシムルコトヲ得

第一百十七條 へつせん・なつそ 州其ノ他ニ於ケル特則

第一百十八條 しゆれじや州ニ於ケル特則

第一百十九條 (1) 水流維持義務者ハ次條ノ場合ノ外沿岸ノ缺壞ニ因ル灌漑排水ノ障害ヲ豫防スル爲又ハ舟筏ノ通航若ハ水流工事ニ因リ沿岸地及附近地ニ生ジタル損害ヲ除ク爲必要ナル水流工事ヲ沿岸地及附近地ニ於テ爲スコトヲ要ス

此等ノ土地ノ所有者ハ其ノ工事ニ因リ其ノ所有地ノ状態ヲ確實ニシ得タル爲生ズル利益ノ割合ニ應ジ其ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス 金錢ノ分擔ニ代ヘ支障ナキ限リハ勞務若ハ工事材料ヲ給付スルコトヲ得 舟筏ノ通航又ハ水流工事ニ因リ沿岸地及附近地ニ生ジタル損害ヲ除却シ且ツ斯カル損害ヲ將來ニ向ツテ防止スル爲必要ナル勞務ニ對シテハ金錢給付ヲ許サズ

(2) 勞務ヲ課スルニ先チ工事ノ計畫及各自ノ豫定負擔額ヲ告示シテ所有者ノ意見ヲ徵スベシ

○河川法第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命ズル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第二百十條 (1) 沿岸地及附近地ノ所有者ハ高水ノ場合ニ於テ水ノ疎通ヲ著シク阻害スル喬木、灌木、圍障其ノ他ノ物件ヲ其ノ土地ノ上ニ存在セシムルコトヲ得ズ

(2) 沿岸地及附近地ノ所有者ハ灌溉排水ヲ阻害スベキ沿岸ノ缺壞ヲ豫防スル爲必要アルトキハ沿岸線ノ上方ニ於テ簡單ニシテ特別ノ専門智識ヲ要セズ且多額ノ費用ヲ要セザル地工事及芝植工事ヲ爲ス義務ヲ有ス

(3) 前項ノ工事ニシテ豫メ沿岸線ノ下方ニ於テ沿岸足部ニ保護工事ヲ施スコトヲ要スルトキハ保護工事ノ施行後ニ非ザレバ其ノ工事ノ著手義務ハ發生セザルモノトス

(4) 水流ノ沿岸官廳ニ依リテ確定セラレタル計畫ニ從ヒ改良工事ヲ施行セラレタルトキハ改良工事起業者ハ其ノ改修狀態ヲ維持スル義務ヲ負擔ス但シ第一種水流ニ於テハ土木大臣 其ノ他ノ水流ニ於テハ農林務大臣其ノ狀態ノ維持ヲ不要ナリト認定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(5) 沿岸ニ建物、障壁、埠頭若ハ之ニ類スル物アルトキ又ハ此等ノ工作物ガ水流中ニ突出セルトキハ其ノ所有者之レガ維持義務ヲ負フ

○河川法第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂打止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得第一項ノ土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スベシ

○河川法第四十七條ニ依ル命令第二條 河川附近ノ土地ニ在ル土砂、竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ボシ又ハ及ボス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第二百一十一條 沿岸維持義務ニ關シテハ關係上土地所有者及水流維持義務者合意ノ上水流警察官廳ノ許可ヲ受クルトキハ前二條ノ規定ニ據ラザルコトヲ得 水流維持義務者ハ沿岸維持義務者ノ要求アルトキハ之ニ代リ適當ノ補償ヲ得テ前條ノ沿岸工事ヲ施行スルコトヲ得

第二百一十二條 水流ニ於ケル灌溉排水ノ妨害ガ維持義務者以外ノ者ニ依リテ爲サルルトキハ水流警察官廳ハ能フ限り其ノ者ヲシテ其ノ障害物ヲ除却セシムルコトヲ要ス 高水ノ場合ニ於テ水ノ疏通ヲ著シク害スル障害物、沿岸地ニ存スルトキ亦同ジ

第二百一十三條 沿岸地所有者ハ水流所有者ニ非ザル場合ト雖第二十二條ニ規定スル場合ノ外沿岸保護ノ工事ヲ水流中ニ於テ企ツル權利ヲ有ス第二百一十條第四項ニ依リ沿岸ヲ維持スベキ義務ヲ負フ者ニ付亦同ジ

第二百一十四條 (1) 自然水流ガ官廳ニ依リテ確定セラレタル計畫ニ基キ改良工事ヲ施行セラレタルトキハ水流維持義務者ハ水流警察官廳ニ對シ理由ヲ述ベテ第二百一十條第二項ニ依ル土地所有者ノ沿岸維持義務ヲ之ニ代リテ引受クル權利ヲ有ス 水流維持義務者ハ第二百一十條第二項ニ依ル土地所有者ノ負擔額ヲ其ノ沿岸工事ノ費用トシテ徴收スルコトヲ得

(2) 自然水流ノ沿岸ガ官廳ニ依リテ確定セラレタル計畫ニ從ヒ改良工事ヲ施サレタル場合ニ於テ其ノ工事ヲ施サレタル範圍ニ於ケル水流及沿岸ノ維持義務ガ同一義務者ノ負擔ニ屬スル場合亦同ジ

第二百五條 (1) 第二種水流及其ノ沿岸ノ維持義務ハ危險ノ爲其ノ工事特ニ困難ナルトキ又ハ巨額ノ費用ヲ要スルトキ

ハ農林務大臣ハ州議會ノ同意ヲ得テ之ヲ州組合ニ移スコトヲ得 へつせん・ちつそむ洲及王領地ニ於テハ市町村議會ノ同意ヲ得テ縣組合及市村町組合ニ之ヲ移スコトヲ得

(2) 前項ノ場合ニ於ケル水流維持費ノ分擔及徵收並各關係人ノ負擔ハ一九〇六年四月二十三日郡州法第二十一條乃至第二十七條ニ依リ之ヲ定ム

(3) 州組合(縣組合、市町村組合)ハ其ノ維持スベキ水流ニ對スル規約(Ordinance)ニ依リ水流及沿岸維持ニ協力シ又其ノ監督ノ任ニ當ルベキ關係者一同ノ代理機關ヲ設置スルコトヲ要ス 此ノ代理機關ノ組織 選舉方法及權能ハ規約ニ於テ之ヲ定ム

第二百二十六條 (1) 本法ニ依リ維持義務ヲ有スル者ニ代リ

一 一九一二年一月一日迄國ニ於テ第二種若ハ第三種自然水流又ハ其ノ沿岸ヲ維持シ 又ハ維持スベキ義務アリタルトキハ其ノ維持義務ハ依然國ニ屬ス

二 本法施行當時ニ於テ慣例又ハ特別ノ名義ニ基キ第三種自然水流若ハ其ノ沿岸ヲ維持スベキ公法上ノ義務ヲ有シタル者ハ其ノ維持義務ヲ繼續ス

三 本法施行當時ニ於テ慣例又ハ特別ノ名義ニ基キ人工水流又ハ其ノ沿岸ヲ維持スベキ公法上ノ義務ヲ有シタル者ハ其ノ維持義務ヲ繼續ス

四 特許決定ニ於テ又ハ強制權ヲ設定スル決議(第三百三十條以下)ニ於テ又ハ營業警察ノ許可手續ニ於テ水流若ハ其ノ沿岸ノ維持義務ヲ起業者ニ課セラレタルトキハ起業者其ノ維持義務ヲ繼續ス

五 國、水利組合ハ其ノ他ノ公共團體、維持義務者ト合意ノ上水流警察官廳ノ許可ヲ得テ水流若ハ其ノ沿岸ノ維持義務ヲ引受ケタルトキハ公法上ノ效果アル限り國、水利組合又ハ其ノ他ノ公共團體其ノ維持義務ヲ負擔ス

(2) 從來ノ立法例又ハ規約若ハ條例ニ反セザル規定ニ基キ本法施行前又ハ本法施行後組織セラレタル團體ニシテ公ノ監

督ニ服スルモノハ公共團體ト等シク維持義務ヲ負擔ス

(3) 水流及沿岸ノ維持義務ノ範圍ハ前二項ノ場合ニ於テモ第百十四條及第百二十條第一項乃至第四項ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ム

第百二十七條

(1) 第二種水流ニ付第百十五條第一項又ハ第百十六條第二項又ハ第百二十五條ニ依リ維持義務ヲ負フ者ハ本法施行當時ニ於テ慣例又ハ特別ノ名義ニ基キ其ノ維持義務ヲ有シタル者ヨリ從來ノ負擔額ヲ維持費トシテ徵收スルコトヲ得 費用分擔額ハ本法施行前十年間從來ノ維持義務者ニ必要ナリシ費用ノ平均額ヲ超ユルコトヲ得ズ

(2) 此ノ費用ノ分擔ハ義務者ニ依リ二十五倍額ヲ出捐セラレタルトキハ其ノ義務ヲ免ゼラル

第百二十八條

(1) 本法施行當時ニ於テ國以外ノ者第一種自然水流ヲ維持スベキ公法上ノ義務ヲ負擔シタルトキハ國ハ本法ノ施行ニ依リ水流維持義務ヲ免レタル者ヨリ其ノ從來ノ負擔額ヲ維持費ノ爲徵收スルコトヲ得其費用分擔額ハ本法施行前十年間從來ノ維持義務者ニ必要ナリシ費用ノ平均額ヲ超ユルコトヲ得ズ

(2) 前條第二項ハ之ニ準用ス

第百二十九條

(1) 第二種又ハ第三種水流ニ於テ筏ノ通行カ一般又ハ特別ニ許サル場所ニ於テハ國ハ筏ノ通行性ヲ維持スル爲必要ナル處置ヲ爲スコトヲ要ス

(2) 本法施行當時ニ於テ國以外ノ者其ノ義務ヲ負擔シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(3) 水流維持義務者及筏ノ通行性維持義務者合意ノ上水流警察官廳ノ許可ヲ得ルトキハ一方ノ義務者他ノ者ノ義務ヲ引受クルコトヲ得

第百三十條

(1) 關係人ノ中何人ガ水流若ハ其ノ沿岸ノ公法上ノ維持義務ヲ負フベキヤニ付爭アルトキハ行政訴訟ニ於テ之ヲ決ス

(2) 公法上ノ原因ニ依リ水流若ハ沿岸維持義務者ニ對シテ爲サレタル給付ノ償還請求權ハ其ノ給付ガ水流警察官廳ノ命

督ニ服スルモノハ公共團體ト等シク維持義務ヲ負擔ス

(3) 水流及沿岸ノ維持義務ノ範圍ハ前二項ノ場合ニ於テモ第百十四條及第百二十條第一項乃至第四項ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ム

第百二十七條

(1) 第二種水流ニ付第百十五條第一項又ハ第百十六條第二項又ハ第百二十五條ニ依リ維持義務ヲ負フ者ハ

本法施行當時ニ於テ慣例又ハ特別ノ名義ニ基キ其ノ維持義務ヲ有シタル者ヨリ從來ノ負擔額ヲ維持費トシテ徵收スルコトヲ得 費用分擔額ハ本法施行前十年間從來ノ維持義務者ニ必要ナリシ費用ノ平均額ヲ超ユルコトヲ得ズ

(2) 此ノ費用ノ分擔ハ義務者ニ依リ二十五倍額ヲ出捐セラレタルトキハ其ノ義務ヲ免ゼラル

第百二十八條

(1) 本法施行當時ニ於テ國以外ノ者第一種自然水流ヲ維持スベキ公法上ノ義務ヲ負擔シタルトキハ國ハ本

法ノ施行ニ依リ水流維持義務ヲ免レタル者ヨリ其ノ從來ノ負擔額ヲ維持費ノ爲徵收スルコトヲ得其費用分擔額ハ本法施行前十年間從來ノ維持義務者ニ必要ナリシ費用ノ平均額ヲ超ユルコトヲ得ズ

(2) 前條第二項ハ之ニ準用ス

第百二十九條

(1) 第二種又ハ第三種水流ニ於テ筏ノ通行カ一般又ハ特別ニ許サル場所ニ於テハ國ハ筏ノ通行性ヲ維持

スル爲必要ナル處置ヲ爲スコトヲ要ス

(2) 本法施行當時ニ於テ國以外ノ者其ノ義務ヲ負擔シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(3) 水流維持義務者及筏ノ通行性維持義務者合意ノ上水流警察官廳ノ許可ヲ得ルトキハ一方ノ義務者他ノ者ノ義務ヲ引受クルコトヲ得

第百三十條

(1) 關係人ノ中何人ガ水流若ハ其ノ沿岸ノ公法上ノ維持義務ヲ負フベキヤニ付争アルトキハ行政訴訟ニ於テ

之ヲ決ス

(2) 公法上ノ原因ニ依リ水流若ハ沿岸維持義務者ニ對シテ爲サレタル給付ノ償還請求權ハ其ノ給付ガ水流警察官廳ノ命

令ニ基キタルト否トヲ問ハズ凡テ行政訴訟ニ於テ決セラルベキモノトス但シ第三百三十三條第一項ニ依リ維持工事ニ付決定ヲ爲スベキ官廳存スルトキハ其ノ官廳ハ其ノ工事ガ維持義務ノ履行ニ必要ナリシヤ否ヤ及其ノ必要ノ程度ニ付豫先裁決 (Vorentscheidung) ヲ爲ス權利ヲ有ス

(3) 管轄權ハ縣參事會ニ屬ス

第三百三十一條 第二種又ハ第三種水流第三條第一項ニ依リ第一種水流ニ變更セラレ沿岸維持義務者ニ對シ其ノ維持負擔加重セラレタルトキハ國ハ其ノ維持義務者ニ補償ヲ與フルモノトス水流維持義務ノ國ニ移轉セル爲沿岸維持義務者ノ受クル利益ハ之ヲ補償額ヨリ控除ス但シ第三條第二項又ハ第十一條ニ依リ既ニ控除セラレタル利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三十二條 (1) 第二種又ハ第三種水流、第一種水流ニ變更セラレ其ノ維持義務國ニ移ルトキハ國ハ因リテ水流維持義務ヲ免レタル者ヨリ其ノ從來ノ負擔額ヲ維持費トシテ徵收スルコトヲ得、維持義務從來水利組合又ハ市町村ニ課セラレタルトキハ其ノ水利組合又ハ市町村ハ維持費ニ對シ同様ノ出捐ヲ爲スコトヲ要ス第二百二十七條第一項後段ハ之ヲ準用ス

(2) 第一種水流ニシテ第二種又ハ第三種水流ニ變更セラレタルトキハ水流維持義務ハ國ニ於テ之ヲ繼續負擔ス

第三百三十三條 (1) 第一種水流又ハ其ノ沿岸ノ維持義務國ニ屬スルトキハ第四百十四條第一項及第四百十九條ニ規定スル維持

工事ハ管理官廳之ヲ決定ス第二種又ハ第三種水流ニ於ケル筏ノ通行性維持ノ爲國ノ爲スベキ處置ニ付亦同ジ

(2) 其ノ他凡テノ必要ナル場合ニ於テ水流警察官廳ハ水流及沿岸維持ノ爲第四百十四條 第四百十九條及第四百二十條ニ依リ施行セラルベキ工事ノ方法及程度並其ノ完成ノ期限ヲ警察處分ニ依リ決定ス此ノ決定ハ警察命令 (維持規則) ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

(3) 國以外ノ者第一種人工水流ヲ維持スベキ義務ヲ有スルトキハ其ノ維持義務者ハ維持ニ關スル一般の規則ヲ定ムルコ

トヲ得但シ監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス 一般の規則ハ沿岸維持ニ關シテ亦適用セラルルモノトス但シ沿岸維持ガ水流維持義務者ノ義務ニ屬セザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

(4)維持義務ヲ州組合(縣組合、市町村組合)ニ移サレタル水流(第二百五條)ニ對シテハ其ノ維持ニ關スル一般の規則ハ州規則ニ基キ條例(Peakalment)ヲ以テモ亦之ヲ定ムルコトヲ得條例ハ農林務大臣ノ許可ヲ要ス

(5)前二項ニ依リ一般の規則ノ制定セラレタルトキハ維持ニ關スル警察命令ハ最早之ヲ發スルコトヲ得ズ又既ニ發セラレタル維持ニ關スル警察命令ハ效力ヲ失フモノトス箇々ノ警察處分亦此ノ一般の規則ニ違背スルコトヲ得ズ

第三百三十四條 第一種及第二種自然水流ニ於ケル水流維持義務者ト土地所有者トノ法律關係ハ第三百三十五條乃至第四百十四條ノ定ムル所ニ從フ

第三百三十五條 (1)維持義務者其ノ官吏及委任狀ヲ有スル受任者ハ維持工事ノ準備及施行ノ爲沿岸ノ土地物揚場及島嶼ニ立入ルコトヲ得

(2)前項ノ行爲ニ因リ損害ヲ生ズルトキハ被害者ハ損害賠償請求權ヲ有ス但シ損害僅少ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

河川法第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得ザルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非ザル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スベキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十六條 (1)沿岸地所有者ハ補償ヲ受クルトキハ護岸(Deckwerken) 水制(Buhnen) 床固工(Sperrwerken)ヲ設クル

爲又ハ其ノ他ノ維持工事ノ爲必要ナル土地(工事場及休息所ヲ包含ス)ヲ自由ニ使用セシメ又ハ工作物ヲ沿岸ニ施設スルコトヲ許スコトヲ要ス

(2) 沿岸地所有者ハ補償ヲ受クルトキハ維持工事ノ爲必要ナル補助設備ヲ水流ニ沿ヒ又ハ水流中ニ設クルコト土石、砂礫、木材其ノ他之ニ類スル採取物ヲ沿岸地ニ堆積スルコト及斯カル物件並建築材料ヲ搬入 搬出スルコトヲ受忍セザルベカラズ又勞働者及監督者ノ爲一定ノ通路ヲ設クルコトヲ要ス

第三百三十七條 前二條ノ規定ハ沿岸地後方ノ土地(附近地)及其ノ所有者ニ對シ亦適用セララル

○河川法第四十七條ニ依ル命令第三條 河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入り又ハ之ニ標柱等ヲ設置スルコトヲ得

第三百三十八條 沿岸地所有者補償ヲ受クルトキハ沿岸地及附近地ガ農林業ニ使用セララル場合又ハ未開墾地ナル場合ニ於テハ維持工事ニ必要ナル石片、砂礫、芝草、粘土其ノ他ノ土砂ヲ之ヨリ收去スルコトヲ許サザルベカラズ但シ維持義務者相當ノ費用ヲ以テ他ノ方法ニ依リ此等ノ物件ヲ取得スルコトヲ得ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

○河川法第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命ジ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハザルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三百三十九條 前三條ノ場合ト雖水流ノ疏通ヲ妨グル行爲ハ關係人ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ 前條ノ場合ニ於テ沿岸ノ高サヲ現在ヨリモ低クスルトキハ沿岸地ニ洪水ノ氾濫ヲ招ク虞アル場合ニ於テハ沿岸地所有者ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ低クスルコトヲ得ズ

第四百十條 (1) 維持工事ニ依リテ生ジタル物揚場 *Anlandungen* ハ第八條第二項第二號ニ依ル境界線内ニ於テ沿岸地所有者ノ所有ニ屬スルモノトス

(2) 水流維持義務者ハ物揚場ヲ作り及水流ニ害ヲ及ボサザルトキハ物揚場ヲ草場トスル爲保護工事ヲ施ス權利ヲ有ス此

ノ目的ニ因リ水流維持義務者ハ法律ノ力ニ依リ物揚場ノ所有權及使用權ヲ有スルニ至ル物揚場ヲ作り及之ニ保護工事ヲ施サムトスル維持義務者ノ意思ハ沿岸地所有者ニ書面ヲ以テ告知セラルルコトヲ要ス

(3) 沿岸地所有者ハ水流維持義務者ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ物揚場ヲ所有シ又ハ使用スルコトヲ得ズ沿岸地所有者ハ物揚場ノ草繁茂スルトキ又ハ其ノ目的ヲ達スルニ必要ナル工事中止セラルルトキ又ハ維持義務者物揚場ニ草ヲ植栽スル權利ヲ行使セザルトキハ維持義務者ノ承諾ヲ要求スルコトヲ得但シ維持義務者ノ支出シタル費用ヲ超過セザル限度ニ於テ物揚場ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス

(4) 此等ノ規定ハ本法施行前ノ維持工事ノ結果トシテ生ジタル未繁茂ノ物揚場ニ付亦適用セラル 第一種水流ニ付テハ一八八三年八月二十日河川工作物管理法ニ依リ取得セラレタル權利ハ之レガ爲變更ヲ受クルコトナシ

第四百十一條 (1) 水流維持義務者 物揚場ヲ所有スルトキハ第四百十二條ノ場合ヲ除キ經濟上必要アル場合ニ於テハ沿岸地ノ所有者又ハ使用權者ニ物揚場ノ使用ヲ許スコトヲ要ス

(2) 物揚場ガ渡場、埠頭其ノ他之ニ類スルモノノ後方ニ位置スルトキハ維持義務者ハ其ノ物揚場ノ竣成ヲ能フ限り促進シ又之ニ達スル通路ニ關シ適當ナル處置ヲトルコトヲ要ス

(3) 賃貸ノ場合ニ於テ同一ノ命令アルトキハ沿岸地ノ所有者又ハ使用權者優先權ヲ有ス

第四百十二條 維持義務ノ履行ノ爲設ケラレタル施設ガ維持物件トシテ義務者ニ維持セラルル間ハ義務者ハ其ノ施設ニ害ヲ及ボス虞アル隣接物揚場ノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第四百十三條 (1) 沿岸地所有者ノ所有ニ歸シタル物揚場ニ芝草又ハ樹木ノ植附ヲ必要トスルトキハ水流維持義務者ハ其ノ沿岸地所有者ニ對シ一定期間内ニ之ヲ爲スベキコトヲ要求スルコトヲ得沿岸地所有者若シ之ニ應ゼザルトキハ維持義務者ハ芝草又ハ樹木ノ植附ヲ自ラ爲シ又ハ之ヲ利用シ且其ノ爲ニ沿岸地ニ立入ル權利ヲ有ス

(2) 沿岸地所有者從來ノ費用ノ使用ヨリ受クル利益ヲ超ユル額ヲ償還シ且物揚場ノ維持ヲ必要ナル場合ニハ擔保ヲ提供

シテモ引受クルトキハ其ノ使用ヲ許サルルコトヲ得

○河川法第四十六條（前掲）

第四十四條 水流維持義務者其ノ官吏及委任狀ヲ有スル受任者ハ測標、基標、航路標識其ノ他ノ標柱ヲ物揚場、島嶼沿岸地及必要ナル場合ニ於テハ其ノ後方地ニ於テ何時ニテモ設置スルコトヲ得此等ノ標柱ニシテ目立タザルトキ又ハ耕作ニ際シ之ヨリ危険ヲ受クル虞アルトキハ之ニ適當ノ記號ヲ附スベシ土地所有者ハ使用權者ニ對シ之ニ因リテ蒙リタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

○河川法第四十七條ニ依ル命令第三條（前掲）

第四十五條 (1)沿岸地所有者ノ維持ニ屬セザル第三種水流ニ於テハ沿岸地所有者ハ土石、砂礫、木材其ノ他之ニ類スルモノノ沿岸地ニ堆積スルヲ受忍シ又流水維持ニ必要ナルトキハ不相當ノ負擔トナラザル限リ此等堆積物ノ除却ニカムルコトヲ要ス堆積物ハ沿岸地所有者所有ニ歸ス沿岸地所有者ノ負擔不相當ニ重キトキハ水流維持義務者堆積物ヲ除却スルノ義務ヲ有ス

(2)營業ノ用ニ供セラルル第三種人工水流ニ於テハ沿岸地所有者ノ請求アルトキハ維持義務者堆積物ヲ除却シ且其ノ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

(3)維持義務者其ノ官吏及委任狀ヲ有スル受任者ハ維持工事ノ準備及施行ノ爲必要アルトキハ沿岸地ニ立入り又ハ一時之ヲ材料置場ニ使用スルコトヲ得但シ之ガ爲損害ヲ生ジタルタルトキハ賠償ノ責ニ任ズ

(4)本條ニ異ナル定ヲナス特別ノ名義又ハ慣習アルトキハ之ニ據ル

○河川法第三十九條（前掲）

第四十六條 本節ニ於テ賠償義務ノ定アル場合ノ外維持工事ニ因リテ生ジタル損害ニ付テハ必要ナル注意ヲ怠ラザリシナランニハ避ケ得タリシナルベキ損害ノ外其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ

第四百十七條 (1) 第三百三十六條乃至第四百十五條ニ規定スル處置ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ急迫ノ危險ナキ限り其ノ著手前ニ於テ土地ノ所有者又ハ使用權者ニ付其ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

(2) 爭アル場合及第三百十五條ニ依ル争ニ付テハ水流警察官廳之ヲ處分ス

○河川法施行規定第六條河川法三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムベキ物件ノ種類數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スベシ

○同規定第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スベシ

○河川法第四十七條ニ依ル命令第八條 府縣知事ニ於テ第一條ニ限り土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ第三條ニ依リ土地ニ立入り又ハ標柱等ヲ設置セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スベシ

第四百十八條 (1) 第三百三十一條及第三百三十五條乃至第四百六條ニ依リ土地所有權者又ハ使用權者ノ負擔ニ屬スル賠償

第四百十九條 第二百一十一條 第二百二十四條 第二百二十七條 第二百二十八條及第三百三十二條ニ依リ給付セラルベキ出

捐及補償並第四百十條第三項及第四百四十三條第二項ニ依リ償還セラルベキ出捐ニ付争アルトキハ縣參事會ノ裁決ニ依リ之ヲ決定ス

(2) 第七十六條ハ之ヲ準用ス

第四百十九條 (1) 第三百十九條ノ場合ニ於テ工事ノ完成後水流維持義務者ノ申請アルトキハ縣知事(州知事)各所有者ノ

出捐額表ヲ公告ス第二種及第三種水流ニ在リテハ郡長之ヲ爲ス此ノ公告ハ其ノ地方ノ公布例ニ依ル郡ノ關係スル場合ニ於テハ尙郡報ニ依リテ之ヲ公告スルコトヲ要ス最終ノ公告後四週間以内ニ於テハ此ノ表ニ對シ異議ノ申立ヲ爲

スコトヲ得異議ヲ申立ツベキ期間場所ハ之ヲ公告中ニ指定スベシ公告ト同時ニ特別ノ通知ニ依リ所有者ニ之ヲ指示スルコトヲ要ス

(2) 期間内ニ申立テラレタル異議ニシテ關係人ト討議スベキ必要アルモノニ關シテハ縣參事會之ヲ審査決定ス

(3) 第七十六條第一項ハ之ヲ準用ス

(4) 異議ノ理由ナキトキ又ハ期間ヲ無爲ニ經過シタルトキハ縣知事(州知事)出捐額表ヲ確定ス第二種及第三種水流ニ在リテハ郡長之ヲ確定ス

第二百五十條 (1) 第三百三十五條乃至第三百三十八條 第四百十條第二項第三項第四項前段及第四百四十一條乃至第四百四十四條

ノ規定ハ公益ニ反スル場合ニ於テハ城砦鐵道又ハ公道ノ構成部分タル土地ニ之ヲ適用セズ公益ニ反スルヤ否ヤハ土地所有者ノ申請ニ依リ縣知事之ヲ決定ス

(2) 縣知事ノ決定ニ對シテハ監督官廳ニ訴願スル外ナシ

(3) 第一項ノ場合ニ於テハ土地所有者ハ水流警察官廳ノ詳細ナル規定ニ從ヒ必要ナル維持工事ヲ自ラ施行スル義務ヲ有ス

第二百五十一條 條約又ハ其ノ他ノ外國トノ協約ニ反對ノ定ナキ限り維持ニ關スル本法ノ規定ハ普國領域ニノミ屬セザル

水流ニ付テハ一時之ヲ施行セザルコトヲ得第一種水流ニ於テハ土木大臣其ノ他ノ水流ニ於テハ農林務大臣之カ管轄權ヲ有ス

第五節 水流及沿岸ノ改良工事

第二百五十二條 第一種又ハ第二種自然水流及其沿岸ハ公益ノ爲設ケラレタル次條以下ノ規定ニ依リ改良工事ヲ施行セラ

ルルコトヲ得

第二百五十三條 (1) 改良工事ノ目的左ノ如シ

一 堰堤ノ設置、從來ヨリモ大ナル船舶ノ通航ヲ可能ナラシムル爲ノ水路ノ浚渫新川床ノ形成及洪水ノ疏通設備ノ完成

二 水流ノ維持ニ必要ナル程度以上ノ其ノ他ノ改良

(2)前項第二號ノ改良工事中ニハ沿岸ニ新埋立ヲ爲スコトヲ包含ス

第百五十四條 工事が水流ノ維持ニ必要ナル程度以上ニ出テ本節ノ規定ノ適用アルベキヤ否ヤニ關シ爭アルトキハ水流

警察官廳之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ監督官廳ニ訴願スルノ外ナシ

第百五十五條 (1)改良工事ヲ施行スル權利ヲ有スル者左ノ如シ

一 第一種水流ニ於テハ國

二 第二種水流ニ於テハ國、水利組合其ノ他ノ公共團體並第二百二十六條第二項ニ依リ之ト同等ト看做サレタル團體ハ各其ノ維持義務ヲ有スル區域ニ付又水流ノ改良工事ヲ目的トスル組合ハ其ノ組合區域内ノ水流區域ニ付改良工事ヲ施行スル權利ヲ有ス

(2)水流ノ改良工事並ニ之ニ關聯シテ沿岸ノ改良工事ヲ施行スル權利ハ勅令ニ依リ帝國、外國又ハ前項ニ依リ起業權ヲ

有セザル他ノ公共團體ニ其ノ同意ヲ得テ之ヲ移轉スルコトヲ得

(3)改良工事ヲ施行スル權利ヲ有スル者ハ改良工事ヲ施行スルニ際シ特許ヲ受クルコトヲ要セズ

第百五十六條

(1)改良工事ノ起業者ハ土地及工作物ヲ危險及不利益ヨリ保護スルニ必要ナル設備ヲ施ス義務ヲ有ス但シ

其ノ設備ニシテ起業ニ害ヲ及ボシ且經濟上ニモ不都合ナル結果ヲ生ズル虞アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ起業者ハ又公益上必要ナル設備ヲ施スコトヲ要ス斯カル設備中ニハ公道及之ニ架スル橋梁ヲ變更スル改良工事ヲ包含ス道路又ハ橋梁維持義務者ハ特別ノ名義ニ基ク義務ニ關係ナク從來其ノ維持義務履行ノ爲必要ナリシ費用ニシテ道路又ハ橋梁ノ變更ニ因リ不用ト爲リタル金額ヲ維持費中ニ出捐スルコトヲ要ス

(2) 改良工事ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害スル虞アルトキハ其ノ權利者ハ豫防設備ノ施サルルコトヲ要求スルコトヲ得第四十一條第一項及第二項ノ場合ノ如キ惡影響ニ付テハ權利ノ侵害ヲ伴ハサル場合ト雖亦同ジ

(3) 灌溉排水用ニ供スル水流ニ付其ノ附近地ノ通常排水ノ爲改良工事ヲ施シタルニ因リ標準水量ノ變更アリタルトキハ之ヲ前項ノ惡影響トハ看做サズ

(4) 第五十七條ハ之ヲ適宜改良工事ニ準用スベシ

(5) 國ニ於テ曳船道ノ改良又ハ其ノ他ノ目的ヲ以テ沿岸線前面ニ埋立ヲ計畫スルトキハ從來ノ沿岸地所有者又ハ利用權者ハ經濟上ノ必要アル限リ從來ノ範圍ニ於テ水流トノ交渉及其ノ利用ヲ爲スコトヲ許サルルモノトス

第二百五十七條

(1) 前條第二項ニ依ル設備ガ起業ノ性質ニ適合セズ又ハ經濟上不都合ナルトキハ被害者ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得 權利ノ侵害アルトキハ水流ノ權利ニ關係ナキ限リ被害者改良工事ニ付異議ヲ申立ツルコトヲ得

(2) 賠償ハ定期給付ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ審査及其ノ他ノ決定ヲ一定期間留保スルコトヲ得起業ニ因リ權利者ノ得ベキ利益ハ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第二百五十八條

第二百五十六條ニ規定スル設備ノ維持負擔ガ同一目的ノ爲從來存在セル維持義務ノ範圍ヲ超ユルトキハ其ノ維持負擔ハ亦起業者ニ屬ス

第二百五十九條

(1) 灌溉排水又ハ標準水量ヲ變更シテ損害ヲ生ゼシメタルニ因ル賠償水流若ハ其ノ沿岸ノ維持ヲ困難ナラシメタルニ因ル賠償並水流利用權ノ一時の侵害ニ因ル賠償ハ其ノ損害ノ至大ナルトキノ外之ヲ請求スルコトヲ得ズ

(2) 標準水量ノ變更ニ因ル損害ハ公平ノ裁量ニ基キ當時ノ事情ニ鑑ミ賠償ヲ必要ト認メタル限度ニ於テ賠償セラルベキモノトス

第六十條

(1) 起業者ハ工事計畫(第六十三條)上必要ナルトキハ凡テノ物揚場、岩礁島嶼及岬角ヲ移轉若ハ除却スルコトヲ得損害賠償ハ損害ノ至大ナル場合ノ外之ヲ請求スルコトヲ得ズ

(2) 工事ノ施行ニ當リテハ起業者ハ起業ノ目的及經濟ノ許ス限リ名勝地ノ風致ヲ害セザル様注意スルコトヲ要ス

○河川法第三十九條（前掲）

第六十一條 前條條一項ニ掲グル土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ又ハ其ノ他ノ保護施設ヲ爲スニハ起業者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス計畫書（第六十三條）ニ於テ此等ノ土地ノ除却又ハ維持ノ定メラレタルトキハ其ノ土地ノ全部若ハ一部ノ除却ニ付亦同ジ

第六十二條 (1) 第三百三十五條乃至第四百四十四條ノ維持義務者及土地所有者間ノ法律關係ニ關スル規定ハ之ヲ改良工事起業者及土地所有者間ノ法律關係ニ準用ス

(2) 沿岸地所有者ハ起業ニ少カラザル障害ヲ與フル野生ノ喬木及灌木ニシテ計畫書（第六十三條）ニ從ヒ除却セラルルコトヲ要スルモノハ起業者ノ請求ニ依リ無償ヲ以テ自ラ之ヲ除却スルカ又ハ之レガ除却ヲ受忍スルカラ選擇スルコトヲ要ス

○河川法第三十九條（前掲）

第六十三條 起業者ハ工事ノ計畫書ヲ其ノ地ノ管轄縣知事ニ提出スルコトヲ要ス但シ州知事又ハ他ノ縣知事ニ其ノ管理ノ委任セラレタル第一種水流ニ關スル場合ニ於テハ其ノ州知事又ハ縣知事ニ之ヲ提出スベシ 縣知事（州知事）ハ公益上ノ必要アリヤ否ヤヲ審査シ若シ必要ナキトキハ其ノ改良工事ヲ許サザル旨ノ決定ヲ爲スベシ 此ノ決定ニ對シテハ監督官廳ニ訴願スルノ外ナク第一種水流ノ改良工事ニ關スルトキハ土木大臣ニ其他ノ場合ニ於テハ農林務大臣ニ訴願スルモノトス

第六十四條 (1) 計畫書ト同時ニ起業ノ簡單ナル説明ト設備ノ略圖トヲ記載シタル拔萃ヲ提出スベシ

(2) 此ノ拔萃ハ縣知事（州知事）ニ於テ起業ノ效果ノ及ビ得ベシト認定シタル市町村ニ於テ少クトモ二週間一般公衆ノ自由閱覽ニ供スベシ拔萃公開ノ時及場所並計畫書ヲ閱覽シ得ベキ場所ハ其ノ地ノ公布例ニ依リ郡ノ關係スルトキハ

尙郡報ニ依リ之ヲ公告スベシ縣知事（州知事）ニ於テ改良工事ニ因リ損害ヲ蒙ル虞アリト認メタル者ニシテ其ノ
氏名ノ明ナル者ニ對シテハ同時ニ此ノ公告ニ注意スベキ旨ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六十五條

(1) 公告中ニハ工事ニ對スル異議ノ申立並設備ノ施行及維持又ハ補償ノ請求ヲ書面又ハ口頭ニテ調書
(Protocol)ニ記入セラルルコトヲ求メ得ル官廳ヲ指定スルコトヲ要ス 公告ニハ又異議申立期間ヲ記載スルコト
ヲ要ス期間ハ少クトモ四週間ニシテ最後ノ公告ヲ爲シタル新聞ノ發行日ノ經過スルト共ニ進行スル水流警察官廳モ
亦工事ニ對スル異議ヲ申立ツルコトヲ得

(2) 市町村長亦設備ノ施行及維持ヲ請求スルコトヲ得

第六十六條

公告ニハ前條第一項ノ期間内ニ異議ヲ申立テザル者ハ異議申立權ヲ喪失スベキコト及計畫書ノ確定（第
百六十八條）シタル後ニ於テハ第七十二條ニ規定スル請求ノ外何等ノ請求ヲ爲シ得ザルベキコトヲ注意スルコトヲ
要ス

第六十七條

第六十五條第一項ノ期間經過シタルトキハ縣知事（洲知事）ノ受任者ハ異議申立及請求（第六十五
條）ニ付關係人一同ト必要アル場合ニ於テハ鑑定人立會ノ下ニ口頭辯論ヲ爲シタル後其ノ辯論調書ヲ計畫決定官廳（第
百六十八條）ニ提出スルコトヲ要ス辯論ニハ關係人缺席ノ場合ト雖辯論ノ行ハルベキコトヲ注意シテ起業者並異議申
立人又ハ請求者ヲ召喚スベシ

第六十八條

(1) 異議申立及請求ハ管轄權ヲ有スル縣參事會之ヲ決定シ之ニ基キテ計畫書確定ス第七十條第二項第一文
第二文第四文及第五文ハ之ヲ準用ス異議申立ニシテ理由アルトキハ計畫ノ施行ハ異議ノ除却セラレタル後ニ非サレ
バ之ヲ許サザル旨ヲ附シテ一時其ノ計畫ヲ決定ス

(2) 賠償ノ請求アル場合ニ於テ損害ノ有無程度ヲ豫想シ得ザルトキハ其ノ請求ノ決定ハ裁判確定ニ至ル迄之ヲ留保ス此
ノ場合ニ於テハ縣參事會ハ起業者ニ損害ノ有無程度ヲ決定スルニ適當ナル行爲（量水標ノ觀測標準水量ノ検査等）

ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得

(3) 手續ノ費用ハ起業者ノ負擔トス

第百六十九條 決定ニハ理由ヲ附シ起業者並凡テノ異議申立人及請求者ニ之ヲ送達スベシ

第百七十條 (1) 決定ニ對シテハ起業者ニ依リ給付セラルル補償ニ關スル場合ノ外關係人ハ二週間以内ニ訴願スルコトヲ得

(2) 第一種水流ニ關スル訴願ハ土木大臣其ノ他ノ場合ニ於テハ農林務大臣之ヲ裁決ス

(3) 賠償請求ニ關スル裁決ノ取消及工事ノ著手ニ對シテハ第七十六條第二項及第七十七條ヲ準用ス

第百七十一條 (1) 緊急ノ場合ニ於テハ縣參事會ハ終局的ニ確定セラレタル計畫ヲ變更スルコトヲ得

(2) 正當ノ理由アルニ非ザレバ前項ニ依ル變更ハ之ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス

(3) 新計畫ヲ終局的ニ確定スル爲ノ手續ハ遲滯ナク之ヲ遂行スベシ

第百七十二條 (1) 計畫書確定(第百六十八條)ノ後ト雖工事ノ惡影響アルトキハ被害者ハ第百五十六條第百五十九條ニ

依リ防禦設備ノ設置及維持又ハ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第百六十五條第一項ノ期間經過前既ニ其ノ惡影響ヲ豫見シ又ハ豫見シ得ベカリシニ拘ラズ期間ノ經過スル迄工事ニ對シ何等ノ異議ヲ申立テズ又防禦設備ノ設置若ハ

賠償ヲ請求セザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ 期間經過スルモ被害者天災其ノ他避クベカラザル突發事故ノ爲期間ヲ

守ルコト能ハザリシ旨ヲ疏明スルトキハ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ 請求權ノ消滅時效ハ三年ニシテ被害者其ノ惡影

響ヲ蒙リシコトヲ知りタル時ヨリ進行ス 請求權ハ又損害ヲ及ボス起業ノ部分ノ完成後三十年以内ニ之ヲ行使セ

ザルトキハ消滅ス

(2) 縣知事(洲知事)ハ起業各部ノ完成期ニ付關係市町村ニ於テ其ノ地ノ公布例ニ依リ及郡ノ關係セルトキハ亦郡報ニ

依リ之ヲ公告スルコトヲ要ス

(3) 決定ハ計畫官廳之ヲ爲ス第七十條第二項第一文第六十九條及第七十條ハ之ヲ準用ス第六十八條第二項ノ場合ニ付亦同ジ

第七十三條 (1) 第五十三條第一項第二號ニ掲グル改良工事ノ起業ニ當リテハ第六十三條ニ依リ管轄權ヲ有スル縣知事(州知事)ハ起業者ノ申請ニ依リ第六十四條乃至第七十條ニ於テ一定ノ效果ヲ定メラタル手續ヲ履行スルコトヲ要セザル旨ノ許容ヲ爲スコトヲ得

(2) 工事ノ施行ニ際シテハ豫メ適當ノ方法ニ依リ關係人ノ意見ヲ徵スベシ第五十六條 第五十七條第一項第一文同條第二項及第五十八條乃至第六十二條ニ基ク關係人ノ請求權ハ變更ヲ受クルコトナシ

第七十四條 (1) 沿岸地所有者ハ確定計畫書ニ依リ灌溉排水ノ維持保護又ハ改良ノ爲必要ナル沿岸工事ニ對シテハ起業者ニ相當ナル費用分擔額ヲ給付スルコトヲ要ス分擔額ハ其ノ沿岸地ノ状態ヲ保全シタルニ因リ沿岸地所有者ノ受クル利益ヲ超ユルコトヲ得ズ

(2) 沿岸地ノ缺壞ニ因リ灌溉排水ノ妨害セラルル豫防スル爲沿岸線ノ下方ニ於テ工事ヲ施行セラルル場合亦同ジ

(3) 水流ノ改良工事ニ依リ維持義務者ノ其ノ維持負擔ヲ免レタルトキ(第十五條第三項)ハ其ノ維持負擔ヲ免レタルニ因リ受クル利益ノ限度ニ於テ起業者ニ對シ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス其ノ分擔額ハ工事完成前十年間從來ノ維持義務者ニ繼續シテ必要ナリシ費用ノ平均額ヲ超ユルコトヲ得ズ此ノ費用分擔義務ハ二十倍額ヲ支拂フコトニ因リ免除セラルルコトヲ得

(4) 前三項ノ場合ニ於テ當事者ノ意見一致セザルトキハ起業者ノ申請ニ依リ縣參事會決定ヲ以テ之ヲ裁決ス費用分擔義務者及其ノ分擔額ノ決定手續ニ付テハ第四十九條ヲ準用ス 決定ノ取消ニ對シテハ第七十六條第一項ヲ準用ス

第七十五條 (1) 第一種及第二種人工水流ノ開設及變更ニ關シテハ第五十六條乃至第六十三條第一文及第六十四條乃至第七十二條ヲ準用ス

(2) 第三種人工水流ノ開設又ハ變更アルトキハ第五百五十六條第二項 第三項 第五百五十七條乃至第五百五十九條及第七百七十二條第一項第三文第四文ヲ準用ス

第六節 國及州ノ第二種水流改良工事關與

第七百七十六條 (1) 第二種自然水流維持義務者ハ重要ナル公益上ノ必要アルトキハ其ノ水流及沿岸ノ改良工事ヲ施行スルヲ義務ヲ有ス

(2) 第二種自然水流維持義務者ハ水流警察官廳ノ處分ニ依リ前項ノ義務ヲ強制セラルルコトヲ得

第七百七十七條 (1) 工事ノ爲ノ負擔ガ工事ノ結果義務者ニ生ズル利益又ハ義務者ノ給付能力ニ關係ナク義務者ニ課セラルルトキハ強制權ノ行使ハ國及州ニ於テ其ノ費用ノ徵收ニ適當ニ關與シ義務者ヲシテ其ノ實ヲ免レシムル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得ズ

(2) 義務者以外ノ者工事ニ因リ利益ヲ受クルトキハ其ノ受クル利益ノ割合ニ應ジ費用ヲ徵收セラルルコトアルベシ

(3) 義務者又ハ其ノ他ノ者ノ引受クベキ費用(第一項及第二項)ノ分擔額ニ付争アルトキハ縣參事會之ヲ決定ス

○河川法第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七百七十八條 國ノ分擔額ハ州組合ノ分擔額ヨリ少ナキコトヲ得ズ

第七百七十九條 國又ハ州組合ガ費用ノ徵收ニ關與スルコトニ對シテハ權利ノ主張ヲ爲スコトヲ得ズ

第七百八十條 へつせん・なつそ州其ノ他ニ於ケル特則

第七百八十一條 天災事變ニ因リ第二種自然水流其ノ川床ヲ離レタルトキ公益上舊狀ヲ回復スル必要アル場合ニ於テハ水流警察官廳ハ水流維持義務者ニ其ノ回復ヲ命ズルコトヲ得 費用ノ徵收ニ關シテハ前四條ヲ準用ス

○河川法第二條(前掲)

第七節 水流登記簿 Wasserbücher

水流ニ關スル權利義務ヲ明確ニシテ水流ニ付テ利害關係ヲ有スル者カ不測ノ損害ヲ蒙ルコトナキ様本法ハ水流登記ノ制度ヲ設ケタ。此ノ制度ハ他ノ獨逸支分國ノ水法ニモ採用セラレテキル所デ我國ナドモ速カニ水流登記ノ制ヲ確立シテ權利ノ基ク所ヲ明確ニスベキデアル

本法ハ又第一種及第二種水流ノ事實狀態ヲ公示スル爲ニ水流台帳 (Bescheinigung) ヲ設クベキコトヲ定メタ 蓋シ水流登記簿ハ水流ノ法律關係ノ登記デアルカラ其ノ登記ハ水流ノ箇々ノ部分ニ關スル 從ツテ水流ノ現狀ヲ一見明瞭ナラシムルモノガ別ニ必要デアツタカラデアツテ此ノ水流ノ現狀ヲ明示スルモノ即チ本法ノ水流台帳デアル

我國ノ河川台帳 (河川法第十四條) ハ本法ノ水流台帳ニ似タモノデアルガ我國ニハ水流登記簿ガナイカラ勢ヒ河川台帳ガ權利關係ヲモ公示スル要具視セラレ從ツテ之ニ關シテハ色々ノ細則ガ設ケラレテキル (明治二十九年十月勅令第三三一號河川台帳ニ關スル件参照)

第百八十二條 (1) 第四十六條ニ規定スル水流特別利用權及第三百三十一條條乃至第三百三十三條ノ規定ニ依ル強制權並
第百十五條及第百十七條ノ規定ト異ル維持義務ノ登記ノ爲水流登記簿ヲ備フ但シ第三種水流ニ對シテハ特ニ登記ヲ
必要トセラルル場合ノ外之ヲ備フルコトヲ要ス

(2) 水流登記簿ノ作製ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第百八十三條 (1) 水流登記簿ノ備付及記入ニ對シテハ縣參事會管轄權ヲ有ス (水流登記官廳)

(2) 水流ガ數箇ノ縣ニ關係セルトキハ主務大臣ハ關係縣參事會ノ一ニ水流登記簿ノ備付及記入ヲ委託スルコトヲ得
(3) 水流警察官廳ハ水流登記簿ノ抄本ヲ備付クベシ

第百八十四條 第百八十六條ノ場合ノ外水流所有者ノ水流利用權並之ニ基ク他人ノ利用權ハ之ヲ水流登記簿ニ記載スベカラズ

第八十五條 (1)本法ノ規定ニ從ヒ官廳ニ依リ設定セラレタル權利若ハ確認セラレタル權利ハ第一審ニ於テ決定ヲ與ヘタル官廳ノ請求ニ基キ之ヲ登記スベキモノトス

(2)前項ノ權利ハ第八十一條第二項ニ於ケル申請アル場合ノ外之ヲ土地登記簿ニ登記スベカラズ

第八十六條

(1)本法施行當時存在シタル權利ニシテ第三百七十九條及第三百八十條ニ依リ存續スルモノハ權利者ノ申

請アルトキハ第八十七條及第八十八條ニ依リ之ヲ登記スベキモノトス申請ハ水流登記簿官廳又ハ水流警察官廳

ニ書面若ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スベシ申請ニハ又權利ノ證明ノ用ニ供セラルル書類及第九十條第一項ニ規定スル登

記ノ效力ニ依リ權利ノ行使ヲ妨ゲラルベキ凡テノ申請者ニ知レタル者ノ氏名ヲ添フルコトヲ要ス權利ヲ土地登記簿

ニ登記シタルトキハ申請者ハ其ノ權利ニ關スル土地登記簿ノ抄本ヲ提出スルヲトヲ要ス

(2)申請明カニ理由ナキトキハ理由ヲ附シタル當該官廳ノ長官ノ決定ニ依リ之ヲ却下ス此ノ決定ニ對シテハ二週間以内

ニ其ノ官廳ノ委員會ノ裁定ヲ申請シ其ノ裁定ニ對シテ更ニ中央水流官廳ニ訴願スルコトヲ得ベク或ハ直接ニ委員會

ニ訴願スルコトヲ得

第八十七條

(1)權利ヲ土地登記簿ニ登記シタルトキハ之ト一致シテ水流登記簿ニモ登記スベシ其ノ他ノ場合ニ於テハ

權利ノ存在ヲ證明セラレタルトキ登記スルモノトス

(2)特別ノ名義ニ基ク權利ハ其ノ存在ノ證明ナキ場合ト雖一九一二年一月一日以前十年間申請者及其ノ權利ノ前主體ニ

依リ何等ノ異議ヲ申立テラレザリシ旨説明セラルトキハ之ヲ登記ス特別ノ名義ニ基カザル權利ト雖其ノ權利行使

ノ爲ノ設備適法ナルカ又一九一二年一月一日迄既ニ十年以上存續シ來リシコトヲ説明スルトキハ之ヲ登記スベシ

(3)登記ノ基礎タル書類又ハ關係書類ハ原本又ハ謄本ニテ之ヲ水流登記簿官廳ニ保管ス

第八十八條

(1)前條ノ條件具備セザルトキハ登記ノ申請ハ之ヲ公告スベシ公告ハ水流登記簿官廳ノ公告用新聞並水流

登記簿官廳ニ於テ其ノ權利ノ效果ノ及ビ得ベシト認メタル凡テノ市町村ノ公布例ニ依リ及郡ノ關係セルトキハ尙郡

報ニ依リ之ヲ爲スベシ水流登記簿官廳ハ其ノ他ノ公告ヲ爲ス權利ヲ有ス 同時ニ官廳ニ知ラレタル水流所有者其ノ他ノ凡テノ關係者ニ對シ其ノ公告ニ注意スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

(2) 公告ニハ權利ヲ證明スベキ書類ノ閱覽所及水流登記簿官廳ニ異議ヲ申立ツベキ期間ヲ指定スルコトヲ要ス期間ハ少クトモ一箇月ナルヲ要シ前項記載ノ新聞發行日ノ經過スルト共ニ進行ス公告ニハ其ノ定メラレタル期間内ニ於テ何人モ異議ヲ申立テザルトキハ權利ノ登記ハ法定效果ヲ有スルニ至ルベキコトヲ注意スルコトヲ要ス

(3) 期間經過シタルトキハ權利ヲ登記スベシ明カニ理由ナキ異議ハ理由ヲ附シタル長官ノ決定ニ依リ之ヲ却下スベシ此ノ決定ハ第百八十六條第二項ニ規定スル方法ニ依リ取消サルルコトヲ得期間内ニ申立テラレタル其ノ他ノ異議ハ之ヲ水流登記簿ニ記載スベシ

第百八十九條 維持義務(第百八十二條第一項)ハ其ノ存在ノ證明セラルルトキハ水流警察官廳又ハ關係人ノ申請ニ依リ之ヲ登記ス

第百九十條 (1) 水流登記簿ニ登記セラレタル事項ハ正當ナルモノト推定セラル

(2) 土地登記簿ト相違セル登記及異議ノ附記シアル登記ハ此ノ限ニ在ラズ

第百九十一條 水流登記簿ニ登記セラレタル權利本法ノ規定ニ基キ官廳ニ依リ除去又ハ變更セシメラレタルトキハ第一審ノ決定ヲ與ヘタル官廳ノ請求ニ依リ登記簿官廳ハ水流登記簿ノ訂正ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十二條 (1) 水流登記簿官廳法律ノ規定ニ反シテ權利又ハ異議ノ登記セラレタルコトヲ知リタルトキハ職權ヲ以テ水流登記簿ノ訂正ヲ爲スコトヲ決定スベシ

(2) 水流登記官廳ハ登記ガ實際ノ法律關係ト一致セザルトキ又ハ登記セラレタル異議ノ理由ナキコト證明セラレタルトキハ申請ニ依リ其ノ訂正ヲ決定スルコトヲ要ス

(3) 水流登記簿官廳ノ決定ハ理由ヲ附シテ之ヲ申請者並訂正ニ關係アル者ニ送達スベシ此ノ決定ニ對シテハ二週間以内

ニ中央水流官廳ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得水流登記簿ノ訂正ハ確定力アル決定ニヨルモノノ外效力ヲ有スルコトナシ

(4) 異議ハ又司法裁判所ノ請求アルトキ之ヲ登記ス

第九十三條 水流登記簿及其ノ寫本並登記關係書類ノ閱覽ハ一般ニ之ヲ許ス又何人ト雖登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第九十四條 (1) 水ニ關スル知識ヲ促進スル爲第一種及第二種水流ニ付テハ其ノ水流ノ狀態疏通方法及利用關係ノ概況ヲ記載セル水流臺帳ヲ備フ 土木大臣及農林務大臣ハ水流臺帳ノ調製ニ關シ訓令ヲ發スルコトヲ要ス

(2) 水流臺帳ノ寫本ハ之ヲ其ノ水流ニ關係アル水流登記簿並第八十三條第三項ノ規定ニ依リ備付ケラルベキ抄本ニ添附スルコトヲ要ス

第九十五條 水流登記簿官廳ニ於ケル審理及登記ノ費用ハ之ヲ徵收セス但シ公告、謄本若ハ抄本ノ交付又ハ明カナル理由ナキ申請若ハ異議申立ニ因リテ生シタル費用ハ申請者又ハ異議申立人之ヲ負擔スヘキモノトス

第二章 水流ニ非ザル水

本法ハ水流ニ屬セザル水ニ付テハ其ノ觀念ヲ積極的ニ定メナイ 從ツテ苟モ本法ノ水流ノ觀念ニ該當セザル水ハ總テ此ノ中ニ包含セラレル 例ヘバ地下ノ水、水流タル性質ノ水ノ流出セザル池沼及之ニ類似スル水溜、井水、貯水其ノ他地上ヲ貫流スルモ一定ノ川床ヲ有セザル水即チ氾濫水、雨水、岩清水ノ如キ皆之ニ屬スル 而シテ水流ニ非ザル此等ノ水ノ存スル土地ノ所有者ハ原則トシテ之ヲ自由ニ處分シ得ル權能ヲ有スル(第九十六條) 然シ此等ノ水ト雖亦一般ノ水利經濟ト多少ノ關係ヲ有スルカラ本法ハ其ノ處分、使用、消費ニ付テ色々ノ制限規定ヲ設ケタ 本章ノ規定スル所ハ即チ之レデアル

我國ニ於テモ亦民法第二百七條ニ依リ水ガ土地ノ一部ヲ成セル限リ其ノ土地ノ所有者ハ任意ニ水ノ使用及ビ處分ヲ爲シ得ルヲ原則トスルガ之レガ制限規定ハ民法中ニ二三散見スルニ止マリ普國水法ニ於ケルガ如ク詳細ニ亘ツテオラヌ從ツテ實際問題ノ多クハ地方慣習ト判例ト行政上ノ處分トニ委ネラレ常ニ爭ガ絶エナイノデアアル

第百九十六條 土地所有者ハ本法殊ニ水流及其ノ利用ニ關スル規定ニ別段ノ定ナキトキ又ハ第三者ノ權利ヲ害セザルトキハ其ノ所有地ノ地表及地下ノ水ヲ處分スルコトヲ得

○民法第二百七條 土地ノ所有權ハ法令ノ制限内ニ於テ其ノ土地ノ上下ニ及ブ

第百九十七條 (1)土地所有者ハ水流ニ非ザル地表ノ流水ノ排出ヲ人工的ニ變シテ低地ニ害ヲ及ボスコトヲ得ズ

(2)土地ノ經濟上ノ利用方法ノ變更ニ基ク排水方向ノ變更ハ此ノ限ニ在ラズ

○民法第二百十九條參照

第百九十八條 (1)土地所有者ハ水流ニ非ザル地表ノ流水ノ他人ノ土地ヨリ流レ來ルヲ阻止スル權利ヲ有ス

(2)王領地へつせん・なつそう州及從來佛法又ハ普通法ノ施行セラレタルらいん州ノ諸地方及しゆれすういひ・ほるしゆ

たいん州ニ於テハ農地ノ所有者ハ自然ノ地勢上他ノ農地ヨリ水ノ流入スルコトヲ受忍スル義務ヲ有ス

○民法第二百十四條 土地ノ所有者ハ隣地ヨリ水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨グルコトヲ得ズ

第百九十九條 (1)水流ニ屬セザル池沼ノ所有者ハ他人ニ害ヲ及ボス虞アルトキハ其ノ池沼ヲ乾涸シ又ハ其ノ水面ヲ著シ

ク低下セシムルコトヲ得ズ但シ普通ノ土地排水ノ必要上之ヲ爲ス場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

(2)池沼ノ所有者ハ水ヲ不潔ニシテ他人ニ害ヲ及ボス虞アル水其ノ他ノ流動物ヲ池沼ニ注入スルコトヲ得ズ第二十三條

第一項 第三項及第四項ハ池沼ニ關スル權利ガ所有者以外ノ者ニ屬スル場合又ハ他人ノ水ヲ注入スルトキハ水ヲ不潔ナラシムル虞アル場合ノ外之ヲ所有者ニ準用セズ

(3)池沼ニ付從來一般ニ認メラレタル共同使用ヲ必要ノ場合ニ於テハ引續キ許スベキヤ否ヤ及其ノ範圍ハ縣知事之ヲ決

定ス但シ其ノ決定ニ付テハ豫メ池沼所有者ノ意見ヲ徵スベシ縣知事ハ何時タリト雖其ノ決定ヲ取消スコトヲ得第三十六條乃至第三十九條ハ之ヲ準用ス

○民法第二百二十條 高地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カス爲メ又ハ家用若クハ農工業用ノ餘水ヲ排泄スル爲メ公路、公流又ハ下水道ニ至ルマデ低地ニ水ヲ通過セシムルコトヲ得但シ低地ノ爲メニ損害最モ少キ場所及方法ヲ選ブコトヲ要ス

第二百條 (1)左ノ場合ニ於テハ土地所有者ハ地下水ヲ家事用及家業用(第二十五條第四項)ニ必要ナル以上ニ使用又ハ消費スル爲之ヲ繼續的ニ汲出スルコトヲ得ズ

一 他人ノ汲水施設若ハ使用井泉ノ水ヲ奪ヒ又ハ著シク之ヲ減少セシムル場合

二 他人ノ土地ノ從來ノ使用ヲ著シク害スル場合

三 水流又ハ池沼(前條)ノ水量ヲ變シテ他人ノ權利ノ行使ヲ妨グル場合

(2)汲水使用ノ利益ガ之ニ因リテ生ズル損害ヲ著シク超過スベキコトヲ期待セララルトキ又ハ汲水ノ目的タル起業ガ公益ニ適合スルトキハ被害者ハ之ニ對シ停止請求權ヲ有セズ但シ損害ヲ豫防シ又ハ之ヲ償フ設備ニシテ其ノ起業ノ目的ニ適合シ且經濟上不相當ナラザルモノアルトキハ被害者ハ之レガ設置ヲ要求スルコトヲ妨ケズ設備ニ因リテ損害ヲ防止シ又ハ償フコト能ハザル部分ニ付テハ公平ノ裁量ニ基キ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

(3)起業者ノ申請アルトキハ賠償ハ定期給付ニ依リ之ヲ爲サシムルコトヲ得第五十一條第二項後段ハ之ヲ準用ス

本法ハ本條以下ニ地下水ニ付テ特ニ詳細ナル制限規定ヲ設ケテキル 蓋シ軌近ニ於ケル工業ノ發達及都市ノ繁榮ハ著シク水ノ需要ヲ増大シ水流ノ供給スル水量ノミヲ以テシテハ足ラズ地下水ノ使用ハ漸次増加セントシテキル 故ニ地下水ヲ多量ニ使用スルトキハ地下水ノ状態ヲ不良ナラシメ土地ノ生産力并戸其ノ他ノ給水設備ニ甚シク惡影響ヲ及ボス事ガ多イカラ土地所有者ノ地下水ニ關スル處分權能ニ對シテハ此等ノ害ヲ除クニ足ル制限規定ガ是非必要ナノデアアル

然ルニ我國ニ於テハ地下水ニ付テハ何等ノ制限ヲ設ケズ判例ハ「土地所有者ハ法令ニ別段ノ規定若クハ之ト效力ヲ同ジ
 ウスル反對ノ慣習存セザル限り其ノ土地ヲ掘鑿シテ地下ノ水ヲ任意ニ利用スル權利アルヲ以テ之ガ爲メ他ノ土地ニ於テ
 他人ガ利用スル水ニ影響ヲ及ボスコトアルモ權利侵害トナラズ」ナドト云ツテキル（明治三十八年十二月二十日大審院
 判決）。改正ヲ要スル主要點ノ一デア

第二百一條 土地所有者ハ谷川ノ地下水ヲ地下設備ニ依リテ堰止ムルコトヲ得ズ

第二百二條 (1)土地所有者ハ地下水、水流又ハ池沼（第九十九條）ヲ不潔ナラシメ以テ他人ニ損害ヲ及ボス虞アル物
 質ヲ地中ニ投入又ハ誘導スルコトヲ得ズ

(2)土地ノ施肥ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二百三條 (1)前四條ニ依リ土地所有者ニ屬セザル權利ハ特許ニ依リ土地所有者之ヲ取得スルコトヲ得土地所有者ノ同
 意アルトキハ他人モ亦之ヲ取得スルコトヲ得水其ノ他ノ流動物ノ使用又ハ消費ハ數人ノ權利者補償手續ニ於テ之ヲ
 定ムルコトヲ得

(2)第四十七條乃至第五十二條 第五十五條乃至第七十二條 第七十四條乃至第七十七條 第七十九條乃至第八十五條
 乃至第八十七條乃至第九十條ハ之ヲ準用ス特許ガ第二百條ニ依リ土地所有者ニ屬セザル權利ノ取得ニ關スル場合ニ
 於テハ第五十一條及第八十一條ノ適用アルモ此ノ場合ニ於テハ公平ノ裁量ニ基キ四圍ノ事情上必要ト認メラレタル
 限度ノ損害賠償ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス

(3)池沼（第九十九條）ノ水又ハ地下水ノ處分權ガ前七條ニ依リ土地所有者ニ屬スル場合又ハ本法施行當時ヨリ引續
 キ第三百七十九條ニ依リ存續スル場合ニ於テハ第八十六條ニ依リ其ノ確保ヲ請求スルコトヲ得

第二百四條 (1)自己ノ土地ト場所的又ハ經濟的ニ關係アル他人ノ占有地ノ境界線ヲ超エテ地下水ヲ使用又ハ消費スル爲
 引用セントスル者ハ警察許可ヲ受クルコトヲ要ス起業ニシテ若シ一村落實又ハ更ニ廣大ナル地方ノ飲用水若ハ使用水

供給セラルル場合ニ於テハ縣知事又ハ郡長、市部ニ在リテハ地方警察官廳之レガ管轄權ヲ有ス其ノ決定ニ對シテハ起業者ハ監督官廳ニ訴願スルノ外ナシ

(2) 地下水引用權ハ特許ニ依リテ得ラレタル場合ニ於テハ前項ノ警察許可ヲ要セズ

本條ハ大量ノ地下水ヲ遠隔ノ地ヘ工業用或ハ飲料用トシテ引用スルニ因ツテ生ズル土地ノ受タル害惡ヲ除カントスル趣旨ニ出タモノデアル

第二百五條 水流ニ屬セザル池沼ノ所有權ニ付別段ノ定ナキトキハ其ノ所有權ハ沿岸地所有者ニ屬ス第八條第二項第三項及第十三條第二項ハ之ヲ準用ス

我國ニ於テモ河川法ノ適用又ハ準用ヲ受ケナイ池沼等ハ別段ノ慣習ナキ限り其ノ敷地ノ所有者ノ私有ニ屬スベキデア
ル 蓋シ此等ノ池沼ノ水モ亦敷地タル土地ノ一部ヲ成スモノト考フベキダカラ 普國水法ハ之ヲ明カニ規定シテ疑ノ起
ル餘地ナカラシメタ(第二章完第三章以下第八卷第三號揭載)